

DEW
stream 2023

Planning, Design, and Consulting
SHIMIZU CORPORATION

vol.82

01：大型案件における設計担当者としての仕事

- 04 - 07 流通経済大学付属柏中学校 図書・メディア棟、中学校1号館
- 08 - 11 TIAD, オートグラフ コレクション
- 12 - 15 パークコート 神宮北参道 ザ タワー
- 16 - 19 神宮前二丁目PJ
- 20 - 23 MA5
- 24 - 25 三愛会総合病院
- 26 - 29 花王すみだ事業場 東棟

02：中小規模案件におけるプロデューサーとしての仕事

- 32 - 33 MIZKAN MIRAI LABO
- 34 - 35 一般財団法人 岐阜健康管理センター 大垣健診プラザ
- 36 - 37 名古屋ビルディング桜館
- 38 - 39 京都信用金庫 北山支店
- 40 - 41 ダイオーロジスティクス 新本社
- 42 - 43 四条烏丸セントラルビル
- 44 - 45 パームコートサービスアパートメントショーギャラリー
- 46 - 47 久原本家食品 北海道工場
- 48 - 49 富山市大沢野会館
- 50 - 51 栃内病院
- 52 - 53 昭和産業株式会社 上ノ山穂坂工場プロジェクト
- 54 - 55 広島修道大学ひろしま協創中学校
- 56 - 57 JR鹿児島中央ビル AMU WE

03：大型案件におけるプロデューサーとしての仕事

- 60 - 63 コマツ湘南工場 開発棟
- 64 - 65 いわて盛岡ポールパーク
- 66 - 67 TDテラス宇都宮
- 68 - 69 海雲山 皓台寺 伽藍再建
- 70 - 71 岡山大学 共育共創コモンズ(OUX:オークス)
- 72 - 75 博多 FD ビジネスセンター
- 76 - 77 目黒清掃工場
- 78 - 81 ヒルトン長崎
- 82 - 83 大熊町産業交流施設
- 84 - 87 世田谷キューズガーデン

-
- 88 - 91 作品データ
 - 92 - 93 委員一覧・組織図

DEW
stream 2023

ひとりひとりのDEW、それぞれの想い
ー 近作プロジェクトを通じて ー

vol.82

大型案件における設計担当者としての仕事

入社後、研修期間を経て、本社設計部の各専門ライン部署に設計担当者として配属されます。本社設計部ならではの大型案件において、各専門分野のエキスパートと共に、与えられた課題に取り組みながら実務経験を積み重ねることになります。本章では、様々な方の助力を得ながら、与えられた課題に真摯に取り組み設計者の仕事を紹介します。(入社年度目安 1年目〜10年目)

01



流通経済大学付属柏中学校
図書・メディア棟、中学校1号館



永野 仁志
入社5年目担当 意匠設計



釜谷 潤
入社2年目担当 意匠設計



巽 祐一
入社1年目担当 意匠設計



猪岡 活人
入社4年目担当 構造設計



TIAD,
オートグラフ コレクション



丸山 亮介
入社6年目担当 意匠設計



パークコート 神宮北参道
ザタワー



小野島 新
入社6年目担当 意匠設計



新谷 佑磨
入社4年目担当 意匠設計



佐々木 由美
入社11年目担当 構造設計



宮倉 周平
入社4年目担当 構造設計



森谷 真帆
入社4年目担当 電気設計



神宮前二丁目PJ



天利 竹宏
入社6年目担当 意匠設計



谷津 健志
入社2年目担当 意匠設計



岡 遼悟
入社4年目担当 構造設計



稲垣 大侑
入社1年目担当 設備設計



菅 裕之
入社22年目担当 電気設計



MA5



永石 貴義
入社7年目担当 意匠設計



向山 佳穂
入社6年目担当 意匠設計



竹森 健人
入社1年目担当 意匠設計



藤原 有希
入社1年目担当 構造設計



佐藤 啓明
入社9年目担当 設備設計



田邊 美弥
入社11年目担当 電気設計



三愛会総合病院



大森 奈津子
入社17年目担当 意匠設計



釜谷 夏実
入社1年目担当 意匠設計



花王すみだ事業場
東棟



奥 浩
入社1年目担当 意匠設計



原 裕之郎
入社5年目担当 構造設計



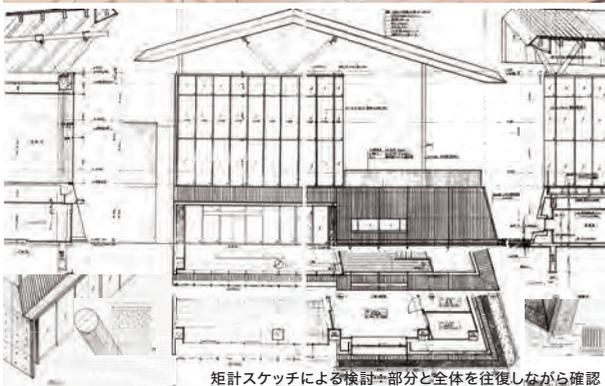
福嶋 康旗
入社6年目担当 設備設計



図書・メディア棟 昇降口：木造大屋根が生徒を迎え入れる



流通経済大学付属柏中学校 キャンパス全体写真：新設中学校と既存高等学校を図書・メディア棟「RYUKEI LINKS」がつなぐ



矩計スケッチによる検討：部分と全体を往復しながら確認



図書・メディア棟 メインアプローチからみた外観：木漏れ日や移ろい、ゆらぎを感じさせるランダムなカーテンウォールの縦横割付



図書・メディア棟 正門からみた外観：ケヤキ並木が育んできた原風景を建築に取り込む



RYUTSU KEIZAI UNIVERSITY KASHIWA JUNIOR HIGH SCHOOL
MEDIA LIBRARY "RYUKEI LINKS" & CLASSROOM BUILDING
流通経済大学付属柏中学校
図書・メディア棟、中学校1号館

釜谷 潤
入社2年担当 意匠設計

永野 仁志
入社5年担当 意匠設計

巽 祐
入社1年担当 意匠設計

猪岡 浩人
入社4年担当 構造設計

図書・メディア棟はRC・S・Wそれぞれの取り合いが随所に現れます。ケヤキ並木のイメージを建物に具現化すべく構造設計や現業の皆様、協力業者の方々と連携しながら慎重に物決めを進めていきました。部分と全体のプロポーションを往復しながら、矩計スケッチで検討を進めました。エントランス部RCの法面形状は樹皮に見立てた縦基調のデザインを採用しています。カーテンウォールは縦基調を基本としながら、メインアプローチ側は木漏れ日や移ろい、ゆらぎを意識し、割付をランダムにしています。キャンパスを包み込むケヤキの枝葉のように、木造大屋根を大きく跳ね出し、生徒を昇降口へ迎え入れる形態としました。(永野)

ケヤキ並木と呼応する形態

図書・メディア棟はこのケヤキ並木が育んできた原風景を建物の形態・空間・要素に反映することで、記憶の継承を図りました。中学校1号館については、既存高校2号館を継承した空間構成をとりながら、中学校に求められる教室機能と交流スペースを盛り込みました。

敷地内には、高校開校以来多くの生徒を迎え入れてきた、ケヤキが左右にならぶ並木道がキャンパスの印象的な風景を創り出しており、柏高校の大切な記憶となっていました。

図書・メディア棟はこのケヤキ並木が育んできた原風景を建物の形態・空間・要素に反映することで、記憶の継承を図りました。中学校1号館については、既存高校2号館を継承した空間構成をとりながら、中学校に求められる教室機能と交流スペースを盛り込みました。

場所の記憶を未来につなげる
新しい学校施設づくり

本案件は、流通経済大学柏高等学校の敷地内に中高一貫教育をめざすべく新設・開校された中学校となります。既存高等学校校舎と新設中学校校舎を結ぶ新たなシンボルの創出と、近年変化する教育・学修スタイルに対応する新しい学修環境が求められました。

伝統と未来をつなぐ緑の中の開かれた学びの場
— RC・S・Wの取り合いを丁寧に取り込む —

RYUTSU KEIZAI UNIVERSITY KASHIWA JUNIOR HIGH SCHOOL MEDIA LIBRARY "RYUKEI LINKS" & CLASSROOM BUILDING
HITOSHI NAGANO / KATSUTO INOOKA / JUN KAMATANI / YUICHI TATSUMI

木造大屋根の空間構造

象徴的な木造大屋根のデザインには、意匠と構造の連携は不可欠ですが、とりわけ台形平面の建物を覆う大屋根を、軒は水平で稜線が傾斜する切妻形状として基軸が一点で交わる形態に整えたことが、木造ハイブリッド造実現の重要な一歩です。これにより梁間方向の断面形状が相似形となり、更に梁を軒に対して直交に配置することで、ディテールのパターン化、梁の加工・接合金物の作りやすさにつながりました。また、棟の下部の耐震要素として鉄筋コンクリート造の幹と鉄骨造の枝からなる樹状形の支持構造を設けることで大屋根面に作用する地震力の伝達経路を短くし、鋼材の水平ブレースを設けない純木造の大屋根としました。木と鉄骨の接合部は火災に備えて、ピン木口には埋木を施し、落下用心として梁の下側に受けPLを設けました。燃え代考慮の有効断面を確保するためにG・P・Lを部材成の上りまたは下方に寄せて配置することで木部材の切り込み代を最小限とする工夫をしました。

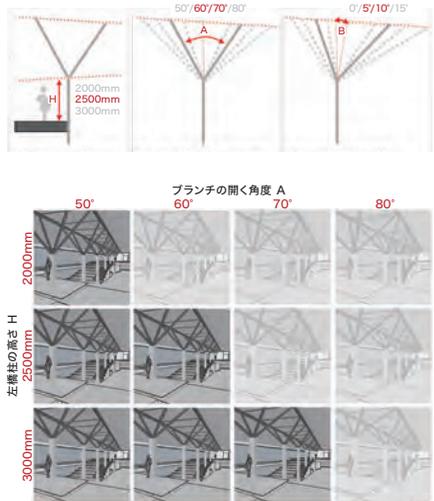
出来栄えを左右する3種類の構造形式の精度向上のため、モックアップにより鉄筋コンクリート造丸柱と周辺鉄骨架構、木造大梁を含めた建方手順を検討し、施工性をふまえながら各取り合いをより洗練させることで、木造大屋根による大空間を実現しました。(猪岡)

CDツールによる樹状柱の検討

図書・メディア棟の内部空間は、先端に行くにつれて大きな空間から小さな空間へと変化していきます。そこで、CD (Computational Design) ツールを用いて空間の大きさに合わせて、樹状柱の大きさも変化していくデザインを検討しました。幹の高さや幹の開く角度をパラメーターを設定し50通り以上検討、それらの中からShimz Explorerを用いて、より美しく見える樹状柱を選び出しました。デザインの妥当性の確認や客先説明のプロセスでは、CG動画を積極的に活用しました。お客様からは分かりやすいとお声を頂けただけでなく、早い物決めにも貢献することができました。(巽)



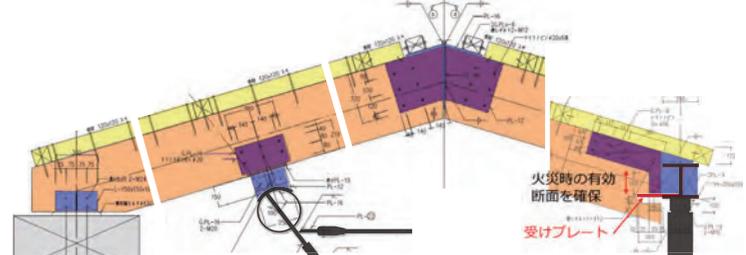
2-3階 図書・メディアセンター内観：字修の場を大開口から取り入れた緑と木造大屋根が包み込む



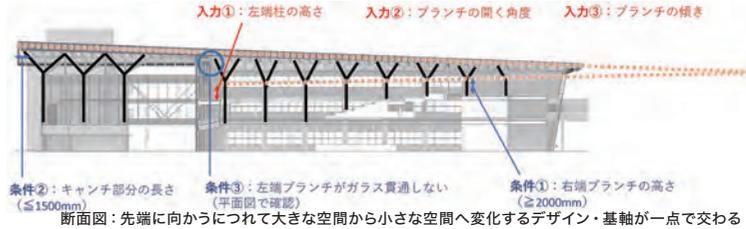
CDツール：Shimz Explorerによる樹状形状の最適範囲を絞り込む



モックアップ：RC・S・W造3種類による構造形式の建方手順を確認



構造図：燃え代設計ディテールの検討と合理化の追求



断面図：先端に向かうにつれて大きな空間から小さな空間へ変化するデザイン・基軸が一点で交わる

思い出に残る建物へ

中学校1号館では、生徒たちがのびのびと学ぶことができる場所をつくることに配慮しました。RC造の素材感が感じられる化粧打放仕上げの表情やFC板直天上による開放的な普通教室、生徒の交流を促すコミュニケーションラウンジなど、生徒たちの学びの思い出に残る建物となるよう考えながら設計に取り組みました。

特に各フロアに設けたコミュニケーションラウンジは、休み時間を利用して生徒たちが自主学習できるよう可動式の家具を設けるとともに、階段や各教室からその様子が分かるように配置や形態を検討するなど、建物の中心的な場所として計画しました。(釜谷)

中学校開校を迎えて

流通経済大学付属柏中学校は令和5年4月に開校を迎えました。設計にたずさわった建物が生徒の皆さんに積極的に利用されていることを大変嬉しく思います。連の建物が永きにわたり利用され、中学校・高等学校のさらなる発展と未来を担う人材を育む学びの場となっていくことを願っています。(永野)

中学校1号館



中学校1号館 グラウンド側からみた外観：RC化粧打放仕上げによる表情づくり



普通教室：FC板直天上による低階高で開放的な空間



コミュニケーションラウンジ：生徒の交流を促す仕掛けづくり

都会の自然と溶け合うラグジュアリーホテル



丸山 亮介 入社6年目担当 意匠設計

TIAD, AUTOGRAPH COLLECTION
TIAD, オートグラフ コレクション

バイオフィリア・ネスト

日本一の道路幅員を有する久屋大通公園に面して建つラグジュアリーホテル。「人間は本能的に自然との繋がりを求める」との生物学的知見に基づき、デザインコンセプト「バイオフィリア・ネスト (Biophilia Nest)」を掲げ、都会のホテルでありながら前面の潤沢な緑を五感で感じるアーバンリゾート体験の創出を図りました。

高密度なプログラム

建物には限られたボリュームの中に魅力的で独自性の高いコンテンツをいくつも盛り込みました。外部には随所にテラスを配すると共に、客室バルコニー、屋上、外装等各所を積極的に緑化。建物内の様々な場所で近景の緑と周辺の緑が繋がる一体感を得ることができました。

内部は、光のペールのように来訪者を包み込む多目的のホール。久屋大通へダイクするかのようなアクリル製プール。はっとするような圧倒的な緑を眼前に臨むバンケット等、ゲストの来訪を忘れ得ぬ体験へと変える、ホテルを象徴するような空間を随所に実現しました。

チームでホテルを創る

私は大まかなボリューム感の決まった企画設計の中盤から設計に参画し、各設計段階の取りまとめ、工事監理から引き渡しまで約4年間担当しました。高級ホテル案件では、大型建築でも数センチの寸法を突き詰める住宅設計のような設計の密度が求められます。設計が進むにつれ、弊社の設計メンバーも次第に増えていき、意匠・構造・設備で設計・施工期間を通して約12人の担当者がこの案件を担当しました。また、社外からも、インテリアや照明デザインといった、それぞれの分野の第一線で活躍する事務所も参加し、それぞれの役割を全うしながら、連携し設計をまとめていきました。



TIAD, AUTOGRAPH COLLECTION全景 低層部のボリュームが公園の緑に溶け込む



光のペールに包み込まれるホール



公園の緑地に繋がるホール前のテラス



緑地帯の上に浮かび、名古屋の夜景を楽しめるダイニング



特別な遊泳体験を提供するアクリルプール



リビングと一体になって使うことのできる客室テラス



公園との親密性を高める、床の下がったリビングと公園を望むビューバス



公園の緑地、外装の陰影や素材感等、再現度を高めたウォークスルー可能な3Dモデル



夜景

内外装一体となる計画

設計は各担当の範囲を尊重しながら進めていきました。個々のデザインがシームレスに繋がっていき、部分の集合ではなく、全体として建築の価値を高められるように苦心しました。例えば、ホテルの客室は大通りの自然をゲストがより感じられるように、段差によって公園に近づく仕掛けやビューバス、緑地のあるバルコニーといった建築的な操作も施し、インテリア、照明と一体で計画しました。

モックアップでの検証

内外で様々な材料・納まりがあるため、机上での検証だけでなく、膨大な材料の現物確認に加え、モックアップルームや外装カーテンウォールの現寸モック等も作成し、各種検討を行いました。

モックアップルームでは、見た目だけでなく家具等の使い勝手も含めた確認を行いました。ディテールにこだわった特注カーテンウォールは、性能試験にて、意匠と性能を両立させることを検証しました。



客室の木仕上のサンプル確認



性能試験 全景

大通の価値と

ホテルの価値を高め合う外観

名古屋の誇る大通に対して、建物が与える影響、景観との関係についても細やかな検討を行いました。大通に面した低層部は内部のプログラムの配置を調整し、交差点に対して建物高さを抑え、3階のテラスが街に対するステージとなるように計画しています。

外装材には、多様な表情を見せる久屋大通に呼応するように、ステンレスメッシュ、石材、タイル、アルミカーテンウォール等、多種多様な素材を採用しました。

凹凸のある外装と多種多様な素材の納まりについては、精緻な3Dモデルを作成し、様々な角度で検証することで成立させています。作成した3Dモデルはそのままプレゼンテーションにも活用し、静止画のバースだけではなく、ムービーや建物内の散策体験の提供等も併用しながら、お客様とより具体的なイメージを共有しながら進めることができました。

変化を乗り越えた

世界に問えるホテル

長いプロジェクトの期間の中で、様々な社会情勢の変化がありました。社内外のプロジェクトチーム「丸」となってその波を幾度も乗り越え、無事開業を迎えることができました。

ホテル名「TIADはTOMMOROW IS ANOTHER DAYS」頭文字を取って名付けられました。どんな時代にも通用する、名古屋から世界へ向けて、ゲストの新しい明日をつくる体験価値を発信するホテルとなっていくことを願っています。(丸山)



エントランス近景

『彫刻』をつくる
—パークコート 神宮北参道 ザタワー—
特殊解の模索



宮倉 周平
入社4年目担当 構造設計

森谷 真帆
入社4年目担当 電気設計

佐々木 由美
入社11年目担当 構造設計

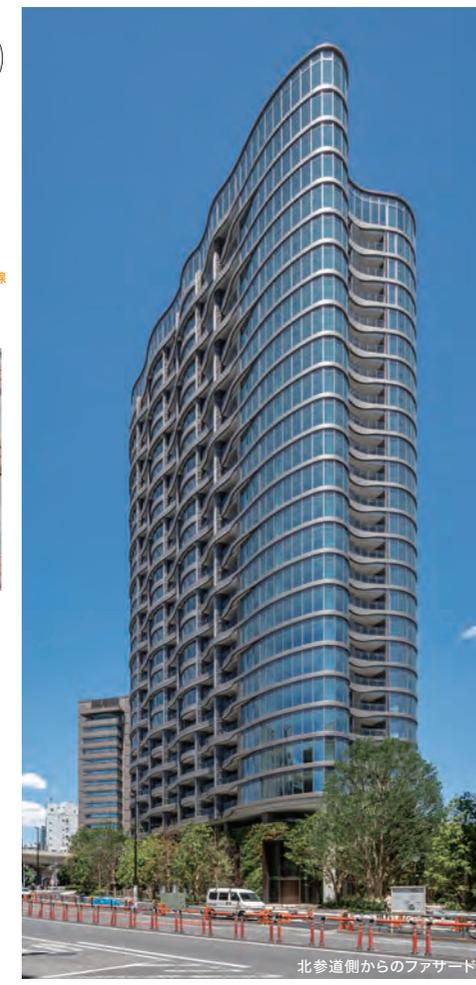
小野島 新
入社6年目担当 電気設計

新谷 佑磨
入社4年目担当 電気設計

PARK COURT JINGU KITASANDO THE TOWER
パークコート 神宮北参道 ザタワー

「都心の隠れ家」兼「NEST」
編むデザインの実現

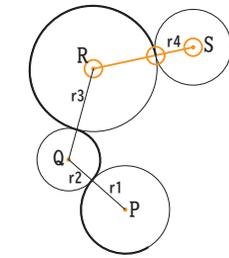
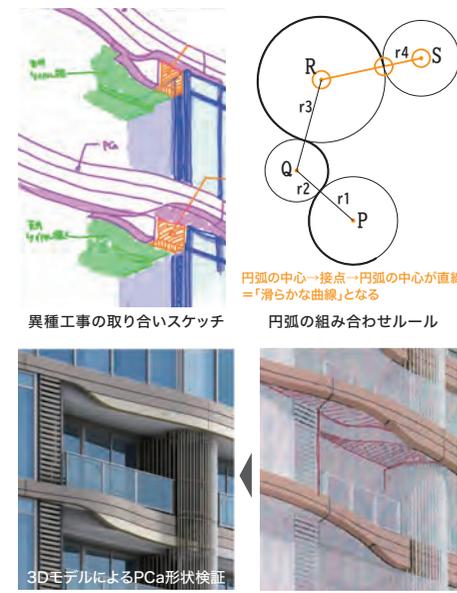
本プロジェクトは、明治神宮、神宮外苑、新宿御苑という3つの豊かな緑地に囲まれた都心の敷地に計画されています。一方で、周辺には山手線や地下鉄が循環し、高速道路や幹線道路も交わります。交通機関や人の往来する都市機能と、生き物たちが集う緑の結節点であるという場所の特性から、多様なつながりを柔らかに「編み」、居心地の良い都心の隠れ家「兼NEST」をつくることをデザインコンセプトとしています。特殊な形状の建築を設計者が丁寧に作り込むことで、まるで「彫刻」のような高密度なハイグレードタワーマンションの実現を目指しました。



北参道側からのファサード

基本は「円弧」の組み合わせ

建物の外形線は、「円弧」の組み合わせのルール化により、滑らかな曲線を作ることにこだわりました。曲面のPCaバルコニーが偶数階と奇数階で「凹」と「凸」が入れ替わることで「編む」形状を表現すると共に、PCaの同形状の反復による効率化・型枠数の減を達成しました。また、PCa形状が3次元曲面となる箇所は、スケッチや模型、3Dモデルといった手法を用いて詳細に検証しています。(新谷)



円弧の中心→接点→円弧の中心が直線＝「滑らかな曲線」となる
円弧の組み合わせルール

異種工事の取り合いスケッチ



3DモデルによるPCa形状検証

不整形な超高層建物の構造概要

本建物は制振構造ですが、不整形な架構に生じる力を正しく評価するために30度刻みで時刻歴応答解析を実施し応答性状を確認しました。制振装置はコア回りのフレームに集約配置することで、プランニングの自由度を高めています。制振装置の配置検討では初期案から70を超えるケーススタディを実施し、最適配置を追求しました。不整形な架構ですが、柱梁仕口部は直交させる等、工業化を意識し、計画初期から現場と建方の打合せを行いながらPCa部材の形状決定を進めました。完成までには多くの方のご協力があり、頑張った分、施工中に躯体や外装が建ち上がっていく様子は圧巻でした。(宮倉)

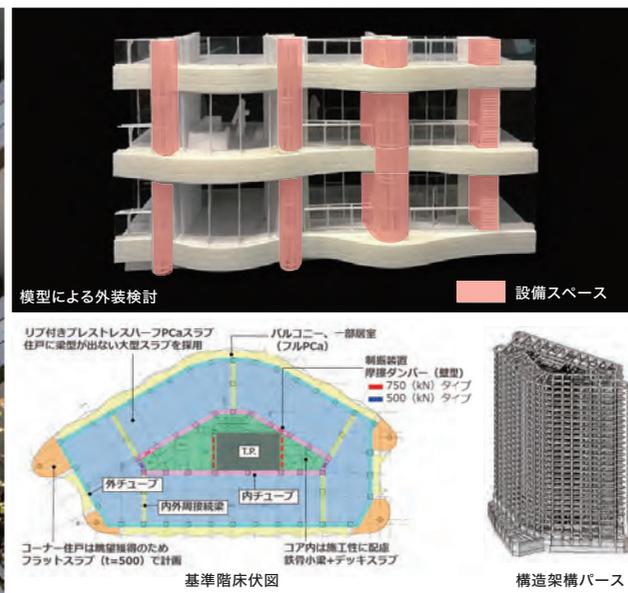
意匠・構造・設備・現場
一体で実現した外装計画

PCaの水平方向のスプラインに対して、縦方向はルーバーにより表現しています。意匠・構造・設備の融合により、柱型と室外機・雨水配管等の設備、隔て板をルーバー内に集約することで意匠性を高め、「編む」ファサードを実現しています。(新谷)

曲線を多用するバルコニー躯体とルーバーは、品質・納まりにこだわり、細部にわたって意匠・構造・設備・現場と密に連携して進めました。部材製作時は、各部材毎にディテールを丁寧に確認し整合を検証しました。(宮倉)

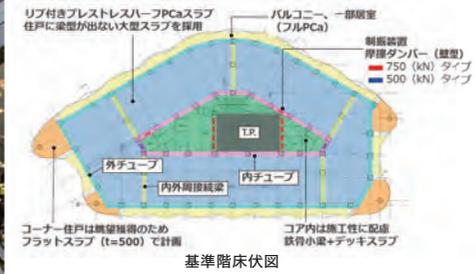


建ち上がる外装(明治通り側より)



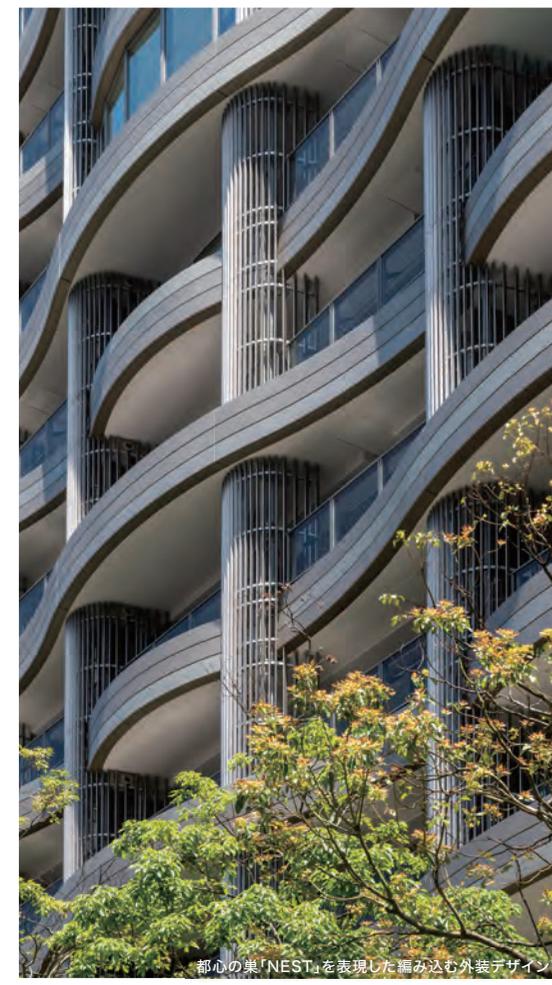
模型による外装検討

設備スペース



基準階床伏図

構造架構ベース



都心の巢「NEST」を表現した編み込む外装デザイン



最上階コーナー住戸のモデルルーム



コーナー住戸の外観



屋上共用部のフィーリングデッキ・ガラス手摺

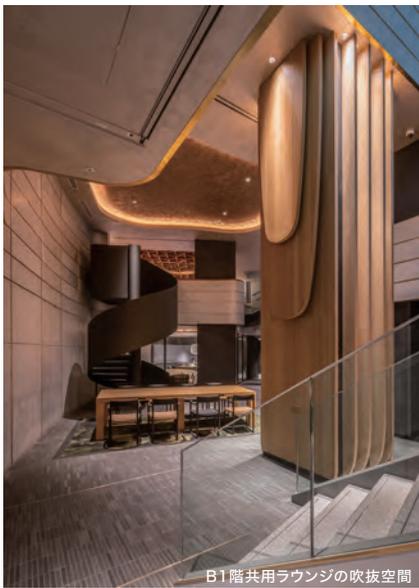
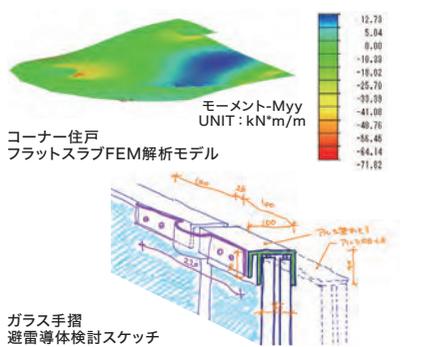
住戸の商品価値をより高める

周囲に高層建物がなく、緑地や都心が一望できるこの貴重な景色をいかに居住者に還元できるかが大きなテーマでした。建物東西のコーナー住戸は、フレームの梁を回さないフラットスラブ構造とバルコニーのないダイレクトビューサッシの採用により、ビューの最大化を図りました。フラットスラブの設計はFEM解析を行い、スラブ厚の切り替え位置と設備の取り付け合いを綿密に調整・計画し、フラット天井と開放感のある住戸を実現できました。(佐々木)

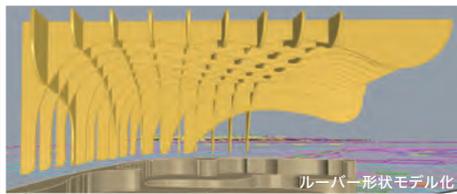
屋上のポテンシャルを生かす

屋上計画において、特に注力したことは、設備機器のポリウムやメンテナンスルート等の制約の中で、この都心を一望できる景色を生かしながら、いかに居住者が快適に過ごせるかでした。そのために非常用ELV基の常時利用を想定した意匠とし、屋上まで着床させることで、住民動線を確保しました。また、共用部から専有部への視線検証を行いながら、共用・専有デッキと設備機器でレベル差を設けることで、設備計画の合理化を可能としています。最上部のビューデッキから、初めて東京の街を360度見渡した時は、自分の地点を再確認できたような感動的な瞬間でした。(小野鳥)

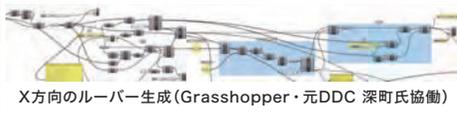
避雷導体を回した屋上ガラス手摺は、意匠と電気で議論を重ね、ディテール検討や建物包含範囲の確認を行いました。天端の金物に避雷導体を沿わせた納まりとすることで、極力景色を阻害しないよう配慮できました。(森谷)



B1階共用ラウンジの吹抜空間



ルーバー形状モデル化



X方向のルーバー生成(Grasshopper・元DDC 深町氏協働)



工場でのルーバー仮組み

立体的な共用空間と設備合理化

B1階から2階の共用部は、1層分の敷地高低差を生かした立体的な空間構成により、容積を有効活用することで、住民の多様な居場所をコンパクトに計画しています。特に中央にある高さ約9mの吹抜空間は、構造との調整により外周の大梁をなくすことで、緑量ある外構植栽の木漏れ日や自然光を地下まで取り込み、住民を迎え入れる開放的な空間となりました。(小野鳥)

曲線の立体的な空間構成に対し、3Dモデルを活用することで、設備配管・配線ルートの曲がり位置や角度を検証し、意匠・構造との整合を図りながら合理的に解決しました。(森谷)



3Dモデルでの配管レベル検討

Grasshopperを用いたルーバー形状の最適化

隠れ家のような1階ロフトラウンジ天井の木格子ルーバーは、曲線を交互に編み込む複雑な形状にもかかわらず、発注までの期間に余裕がありませんでした。試行錯誤の末、RhincerosとGrasshopperの活用により、明快な「視覚化」と打合せの場で変更できる「即時性」のある検討手法を考えました。展開図と3Dモデルを連動させ、格子のX、Y方向の取り合いルールを明確化することで、早期のもの決めに貢献しました。さらにモデルから書き出した展開図をそのまま製作図に利用することで、作図期間の短縮にも寄与できました。(小野鳥)

oneチームで良い作品づくり

これまでにない挑戦的なタワーマンションだからこそ、設計者だけでなく、事業者、デザイナー、現場が一つのチームとして、共通の想いを持ちながら特殊解を模索し続けることができました。チームの土台となった「良い作品をつくる」という想いを、これから住まれる方を感じて頂いた時に、初めてこの彫刻のような建築の完成を迎えられるように思います。(小野鳥)



ロフトラウンジ内観

GREEN FIELDS OFFICE

— 多様性の時代に価値あるオフィス —



JINGUMAE - II PROJECT
 神宮前二丁目PJ

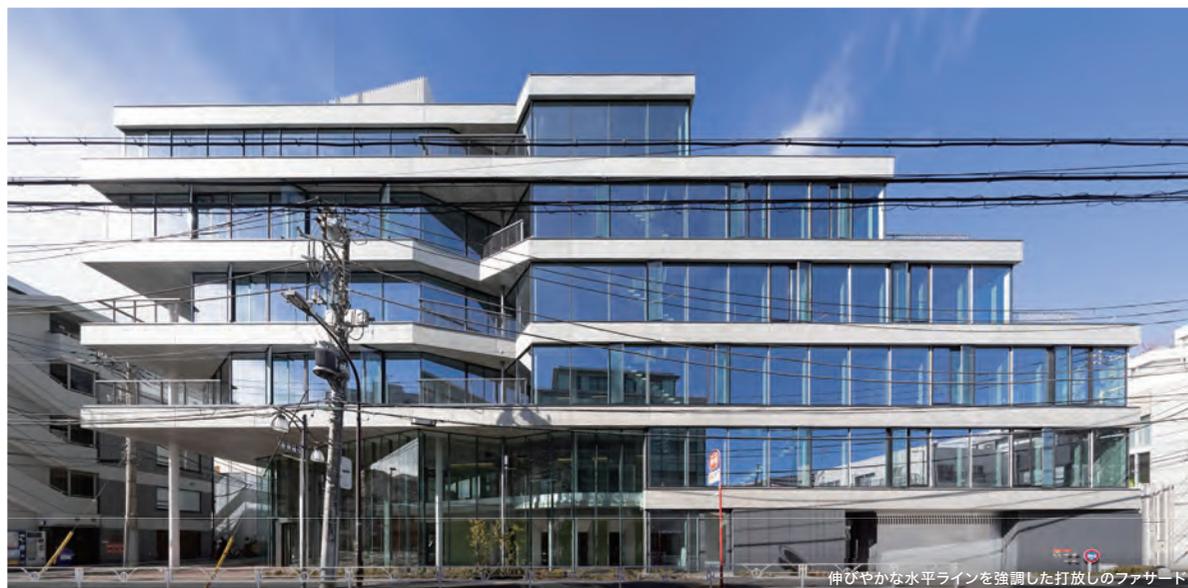
『ワーカークの広場』の実現

東京都渋谷区神宮前 原宿通りやキャットストリートといった賑わいが集まる通りの終点に立地する、都心住宅地のテナントオフィスビルです。商業施設と同居施設が周辺に混在する本敷地では、渋谷の賑わいを受け入れながらも、住居地域への日影・視線を配慮した建物計画が求められました。多様性の時代に価値あるオフィスー GREEN FIELDS OFFICE」というコンセプトのもと従来の整形な箱詰めタイプのオフィスではなく、屋内外を回遊でき、多様な使い方を実現できる『ワーカークの広場』を計画しました。建物形状や開口率の調整により、周辺との調和を図りながら、ワーカークが制約を受けずにのびのびと過ごせるオフィスとして計画しました。

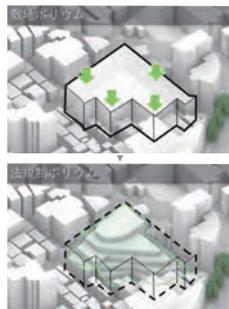
都市の棚田となる

段丘状の建物構成

複雑な敷地形状で法規制が厳しい中、なるべく多くの面積を確保することが求められました。そこで、矩形のボリュームではなく、法的に許容される最大のアウトラインを階毎に積層させる建物構成としました。上層に向かうほどセットバックしていく形状は、都心のオフィスに棚田のような段丘状の大きな屋外空間を創出し、屋内外の回遊性を高めると共に、近隣住居への日影に配慮した計画となっています。基準階の無い自由なオフィスプランは、既存のモジュールにとられない使い方を受け入れる器として、多様性の時代に価値ある新しいオフィスとしての形を示しています。(天利)



伸びやかな水平ラインを強調した打放しのファサード



最大ボリュームとなる形状

「用・強・美」の一体化

不整形なプランでかつ低階高・高天井のオフィスを実現するために、フラットスラブ構造(一般的な柱と梁のある構造ではなく、300mmのコンクリートスラブと細柱のみで構成する構造)を採用しました。また、スラブ内に配管や設備機器を埋め込むことで、必要な設備スペースを最小限に抑え、階高3650mmに対して天井高3000mmを確保しました。オフィスの天井は、コンクリート打放し天井とし、建物に必要な構造・設備が仕上げそのものとなる計画とすることで、「用・強・美」を一体で表しました。(谷津・岡・菅)

コンクリート打放しへの徹底的なこだわり

このオフィスは打放しコンクリートが天井仕上げとなります。そのため、天井に出てくる防災設備や照明を少しでも出っ張らせないための工夫や、天井に見えてくるインサートの位置や種類、打継ぎ部やパネル割などの見え方を徹底的に調整しました。類似事例のヒアリングを行い、モックアップによる見え方の検討を行うことで、梁型の出ないすっきりとした天井のオフィスを実現しました。

また、外壁もコンクリート打放しの仕上げとなるため、目地やパネルの割り方、色むらが出ないためのプラント選定、品質のよいコンクリートとするための配合計画、打設前の徹底した現場管理に至るまで、チーム一丸となり徹底して取り組みました。(天利・岡)



梁型の出ないフラットな打放し天井



フラットスラブ施工状況



スラブ内配管施工状況



モックアップによる検討

周辺環境と呼応する外装

メインストリートに沿ったファサードには、自然通風を促進するガラスのフィンを設置することで外観のアクセントを付加すると共に、屋内の環境の向上を図り、省エネルギーに寄与した計画となりました。さらに、テラス側のファサードでは隣地建物の開口部との距離に応じて開口率を変化させることで住居地域への視線に配慮しました。設計初期からシミュレーションをかけることで、より効果的な外装計画となっています。また、各所に街の視点場となるテラスやバルコニーを設けることで、ヒューマンセントリックなこの街における、多様な居場所の一部を作り出しています。(谷津・稲垣)

渋谷の賑わいを引き込む エントランスホール

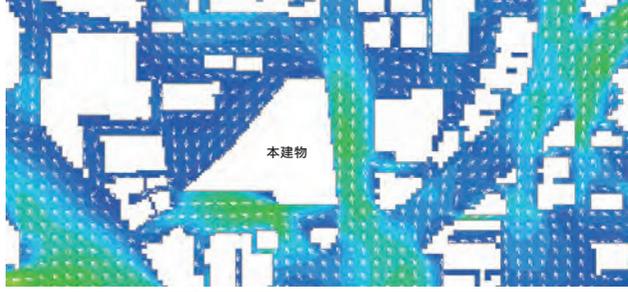
人通りが多く活気に満ち溢れた周辺環境を受け止め引き込むようなエントランスホールを目指し、渋谷のエネルギーを感じさせる色合いで演出しました。壁はアルミパネルに何層も塗装を重ねることでエイジング風の色を作り、さらに、メタリック塗装を重ねることで、時間帯によって反射の仕方が変わり表情が変化していくようなデザインにしました。現場での塗装には一日中立会い、職人さんと色味を見ながら調整しました。床は、珪素質のタイルを用い、色粉と釉薬の量を試行錯誤した赤みの強いタイルで仕上げました。コンクリート打放し天井に映えるように、手で創り込んだ風合いや素材を感じるデザインで統一しました。(谷津)

シームレスな共用部

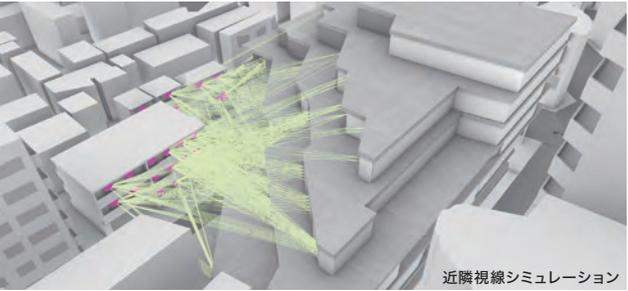
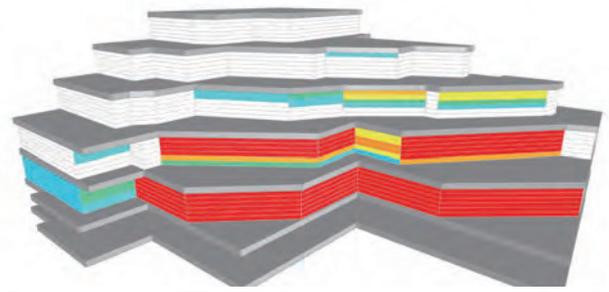
共用部までも含めた回遊性を実現するために、専有部と共用部の境界には透明性を持たせ、エレベーターホールは外部に開放的な空間としました。また、上下階での連続性も考え、内部階段をホールの一部として計画しました。内部階段は、建物全体の意匠性を意識して、70mmの段板として、重厚な床がリズム良く積層しているようなデザインとしました。(谷津)



自然換気を促すガラスフィン



風環境シミュレーション



近隣視線シミュレーション



回遊性の明るく開放的な共用部



近隣への視線制御に配慮した開口計画



重厚で浮遊感のある階段



打放し天井に呼応するエントランスホール

若手中心組織での設計

このプロジェクトでは、開始当初より、各分野の主担当が若手中心のメンバーで生まれ、企画設計がスタートしました。意匠設計としては、プロジェクトリーダーの下に、入社6年目と2年目の担当者でチームが組まれました。前者は広く、全体のコーディネートや施主との窓口、意匠・構造・設備が一体となった計画の推進役を、後者は深く、デザイン検討や部分のプランニング等を進めていく役割などを主に担いました。

シミュレーションやデジタルサーベイを計画初期から行い、建物の可能性を広げながら設計を進めていきました。数多のアイデアの中から最後まで採用されたものはほんの一握りですが、チームや現場と一緒に考えながら造り上げていくことで、施主と初期から共有していたイメージが実現できたと感じています。(天利)



柵田のような屋外空間のあるオフィス

「街を纏う」オフィス

— 周辺環境と呼応する街や自然に開かれたワークスペース —



MA5
MA5

街を纏うオフィス

「街を纏う」をコンセプトに、整形なメインスペースの外周4面を最大6mの凹凸のキャンチレバーとし、周辺環境と呼応する拡張したペリメーターを設けた賃貸オフィスの提案です。

気積の大きなヴォイドやテラス、中間領域により、街や自然とダイナミックに繋がるワークスペースを提供し、青山の街並みや周辺環境と親和性が高い建築を実現しました。

デザインを勝ち取る

案件の初期、施主側より外部デザイナー起用の話があり、各デザイナーの実績紹介の時に当社もプレゼンをさせてほしいとお願いしました。過去の実績やSHINE D.D.Dの取組み等を紹介し、このプロジェクトにかける想いを伝えました。デザイン含めて当社に決定した時は、嬉しさと同時になんとしてでもいいものを創らねば、と思いました。ASME各担当者で力を合わせて知恵を絞りやり切る——そんな想いと決意を胸に、設計開始から竣工までの約3年間、多くの検討を積み重ねてきたその片鱗を紹介いたします。(永石)

初期のボリュームスタディ

隣にはSPRALという抜群すぎる立地にはたしてどんな建物がふさわしいのか、チームみんなで毎日夜遅くまで頭を悩ませました。

敷地に対しMAXで計画するとオーバーする300㎡の余剰スペースを、各階にテラスとして分配することで、自然環境や街の雰囲気を感じられるオフィスにしようというコンセプトが生まれました。大きな一つの塊に見せる案・小さなボリュームを組み合わせた案などスタディを進めていく中で、都市のスケールに合わせた3つのボリュームを積み重ねた案が敷地模型の中に置いた時にしっくりとくることに気づき、建物の方向性が決まっていきました。(向山)



コア+最大6mの跳ね出し架構に

行き着いた経緯

初期のボリュームスタディを初めて見たとき「筋縄では行かない建物だと感じました。特徴的な凹凸のある外観のため、外周に柱が設けられそうな箇所が見当たりません。架構を検討する中で外観に影響があるとしても柱を建てるべきではと考えることもありました。しかしSPRALと並んでも遜色ない建物にしたいと考え、一見この不合理な架構を合理的な架構に変えてやること一念発起し職と議論を重ねる上で、整形なコアフレーム+自由度の高い四周跳ね出し架構に行き着きました。

特に苦労したのは、通常の案件ではケアされない跳ね出し架構の上下変位です。施工時の鉛直変形に始まり、常時の環境振動による揺れ、上下動地震時の影響など、跳ね出し架構に起因する課題が頻発しました。現場や上職、協力業者と話し合いを重ね、二つ課題を解決していきました。(藤原)

周囲環境と呼応する

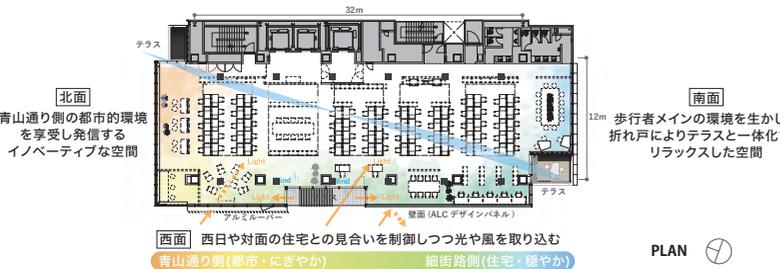
ペリメーターゾーン

内部のワークプレイスは、構造架構の構成と紐づけながら深度化していきました。コアフレームは使い勝手のよい整形なメインスペース、跳ね出し架構部分は自由なペリメーターゾーンとし、ボリュームスタディで決まった形を軸に凹凸形状を検討しました。凹の部分はスパイラルの中庭と呼応させた眺望のよいテラスや、住宅街に開いた全面折れ戸のテラスなどを、周辺環境に応じて各階2、3箇所設けることで、敷地を超えて環境を相互に享受できるワークプレイスを創出しました。凸の部分は、メインスペースと外部をつなぐ中間領域として、眺望の良い高層階はACW、西日が気になる面にはルーバー、隣接建物との距離が近い東・西面にはALCの壁面など、環境や街との関係により選定した多様な外装材により、場所によって異なる特徴を持った空間としました。(向山)

空調計画は、多様な働き方に合わせエリア毎に細かく気流を切り替えられる形式としました。また天井設備をペリメーター側にまとめることでスケルトン天井部分をすっきりと綺麗に見せる構成としています。(佐藤)



オフィス内観 最小限の設備機器のみのすっきりとしたスケルトン天井を実現



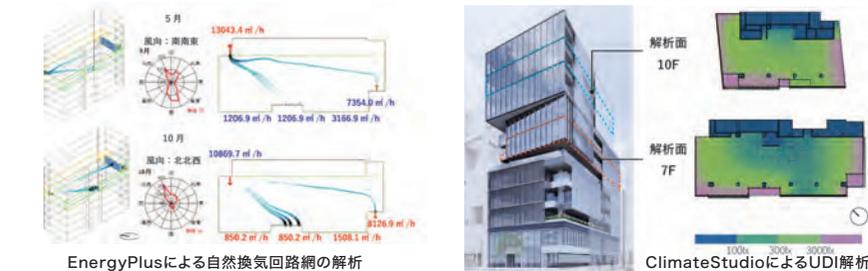
緑化テラス

西面テラス

初期のボリュームスタディ



緑豊かな立体的な9階上テラス



EnergyPlusによる自然換気回路網の解析

ClimateStudioによるUDI解析

光・風・緑を取り込むテラス

内部の光・風環境は、設計者が自ら環境シミュレーションを行い、凹凸の位置・形状を微調整することで、西日の影響を低減させることも自然光による安定した照度をインテリアゾーンに届けることができる計画としています。また、心地よい風を取り込むべく開口位置をスタディし、日常時に気分よく換気できることはもちろん、非常時にも自然換気が可能となり、BCP対応にも配慮しています。

9階テラスは条例上かなり大きく緑化面積をとる必要がある中で、立ち上がり高さを400mmと800mmに分け、客土量も最小限に抑えることで、構造負荷を抑えながら、緑豊かなテラスを創出しました。二種類の立ち上がりはベンチや机となり、ちよとした休息の場にもなります。視線が抜ける六本木方面へは地被・低木を配し、隣地側の見合いになる箇所には常緑の高木とすることで、周辺環境と呼応したランドスケープを実現できたと思います。(竹森)



ALGデザインパネル 掘り込みデザインにより1枚の大きな面として見せる



デザイナーバーの検討過程

青山通り沿いの低層部に設置したアルミキャストによるデザイナールーバーは、元々設計段階では無かったものです。着工後、施主から「建物の顔になるような特徴あるデザインにしたい」という要望を受け再検討をしました。いくつかの案を提示する中、格子型の形状のルーバーとすることで、正面から見ると視線は通りませんが、角度をつけて見ると一つの大きな面として見えるようなデザインに決まりました。実寸大の模型で支持部分の形状や素材感をスタディしながら、ディテールを詰めていきました。

デザイン検討のプロセス

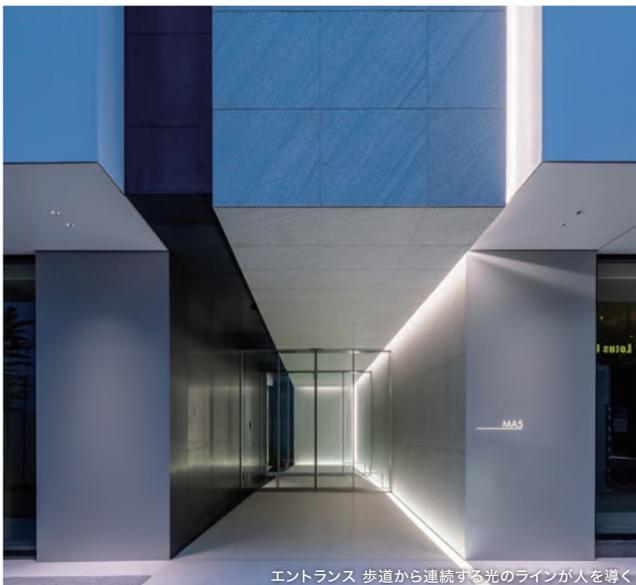
考えたデザインを施主に説明・承認していただくプロセスにとても苦戦しました。パースの説明だけでは空間のイメージが伝わりづらく、なかなかこれでいい！と決まらない状況が続きました。上職のアドバイザーで模型での説明に切り替えたことで、みんなで模型を覗き込みながらの活発な議論が始まりました。ACWサッシやEV・WCに至るまで沢山の模型をつくり、一つ一つ自信を持ちながらも決めができました。(向山)

デザインをどう実現していくかも苦勞したことの一つです。エントランスは光と影をイメージした花崗岩により、街の喧騒と対比的にデザインしました。石の塊の隙間から光が漏れるような照明計画を実現するため、天井間接照明と足元のライン照明だけで照度が取れるののシミュレーションや、実際の器具を使った原寸模型で光の伸び方を確認し進めました。(向山・田邊)

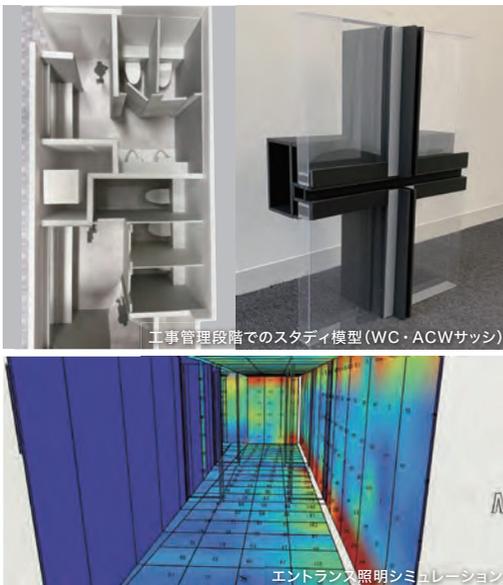
竣工を迎えて

足場がとれ外観が現れたとき、新しさはありながら街並みの中にすっとなじむ姿に「街を纏う」コンセプトが実現されたように思いました。

竣工後のオフィスフロアを歩いていて感じた、風や光・緑を感じられる空間の気持ちよさは、忘れられない瞬間です。(向山)



エントランス 歩道から連続する光のラインが人を導く



工事管理段階でのスタディ模型(WC・ACWサッシ)

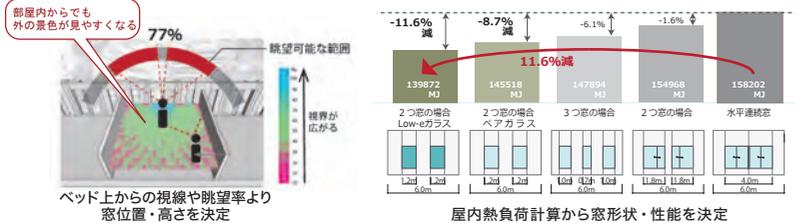
エントランス照明シミュレーション



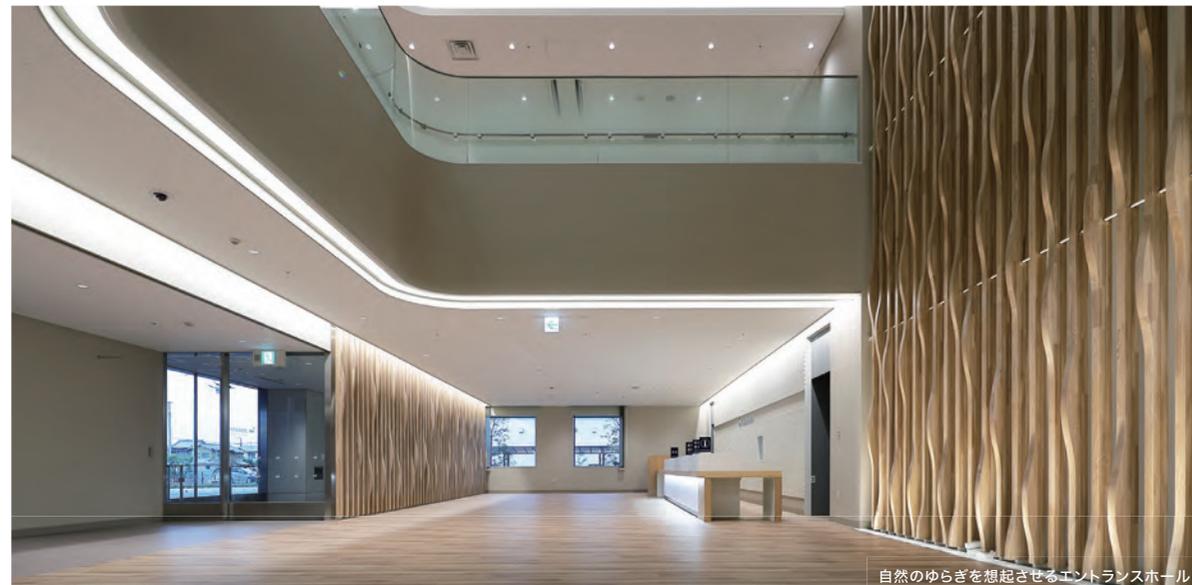
面として見せる多様な外装



明るく寛げる4床室



地域医療の安心感と清潔感のある外観



自然のゆらぎを想起させるエントランスホール



釜谷 夏実
入社1年担当
意匠設計

大森 奈津子
入社17年担当
意匠設計

SANAIKAI GENERAL HOSPITAL
三愛会総合病院



現地とBIMデータをARで重ね合わせリアルタイムで遠隔地に中継しながら検査を行った



法規制情報を持つBIMモデルで事前審査を受検



建物が竣工し全体を通して見たとき、作成した図面・パースがそのまま出来上がったことに深く感銘を受けました。愛される病院として、長く親しまれる建物となることを願います。(釜谷)

竣工を迎えて

AR技術によってBIMモデルと現地映像をリアルタイムに重ね合わせ、映像伝送する遠隔臨場検査にも挑み、検査員が遠隔地に居ながら精緻な検査ができることを実証しました。(大森)

BIMによる確認審査と遠隔からの検査の取り組み

本案件は、指定確認検査機関 日本建築センターと協働し、建築確認の事前審査、遠隔臨場による中間・完了検査を受けた初の案件となりました。

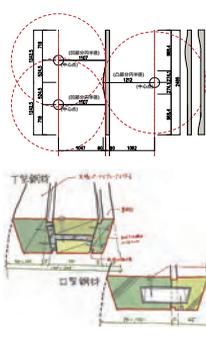
検査項目情報を持つBIMモデルをクラウドサーバーBIM360上で検査機関と共有し、法適合の自動計算も活用することで、設計の法チェックや検査機関の法適合確認を効率化しました。

AR技術によってBIMモデルと現地映像をリアルタイムに重ね合わせ、映像伝送する遠隔臨場検査にも挑み、検査員が遠隔地に居ながら精緻な検査ができることを実証しました。(大森)

環境性能と使い勝手

外観デザインの両立

病室が連なる病院は、病室の窓廻りの計画と外観デザインが密接に関係するため、慎重に検討しました。



ルーバーの滑らかな曲線や見え方を検討

様々な窓形状・サイズ・ガラス性能における屋内熱負荷計算を実施し、小さな熱負荷で大きな開口を設けるとともに、ベッド上からの眺望を最大限確保できる位置を検討し、長時間ベッド上で過ごす患者さんに配慮しました。

外観は、病室の規則的な窓配置を活かし、縦ラインがリズムを刻むデザインとし、清潔感や高い機能性を表現しています。(釜谷)

また、製作上の効率化を図り、波型ルーバーは3種類のパーツのみの組み合わせで構成しました。CAD上で検討した曲線をRhinoceors、ランダムさをGrassHopperで生成し、波の重なりを実際の見え方で検証することで、有機的で優しい印象を目指しました。(釜谷)

自然のゆらぎを表現する内装

エントランスのシンボルとして、地域の小川を想起させる柔かいウェーブのルーバーを計画しました。

ルーバーは利用者の手に触れる箇所として、素材の質感にこだわり、天然木で製作しました。7mもの長さを細い断面寸法で実現するため、金物業者や木工業者と断面形状の打合を重ね、軽快な印象となるよう工夫しました。

案件概要

本計画は、昭和61年の開設以来、埼玉県三郷市の地域医療を担ってきた病院の増床・移転新築工事です。

地域住民に愛される親しみやすい病院を目指し、コンパクトで機能的な施設とすることが求められました。

五感に訴えるインテリア

— 三郷の自然を取り込む地域の中核病院 —



歴史ある事業場に建つ新たなシンボル
— これからの100年に向けた『新しい顔』づくり —



福嶋 康旗 入社6年担当 設備設計
奥 浩 入社1年担当 意匠設計
原 裕之郎 入社5年担当 構造設計

KAO SUMIDA EAST WING
花王すみだ事業場 東棟

花王すみだ事業場100周年
再整備

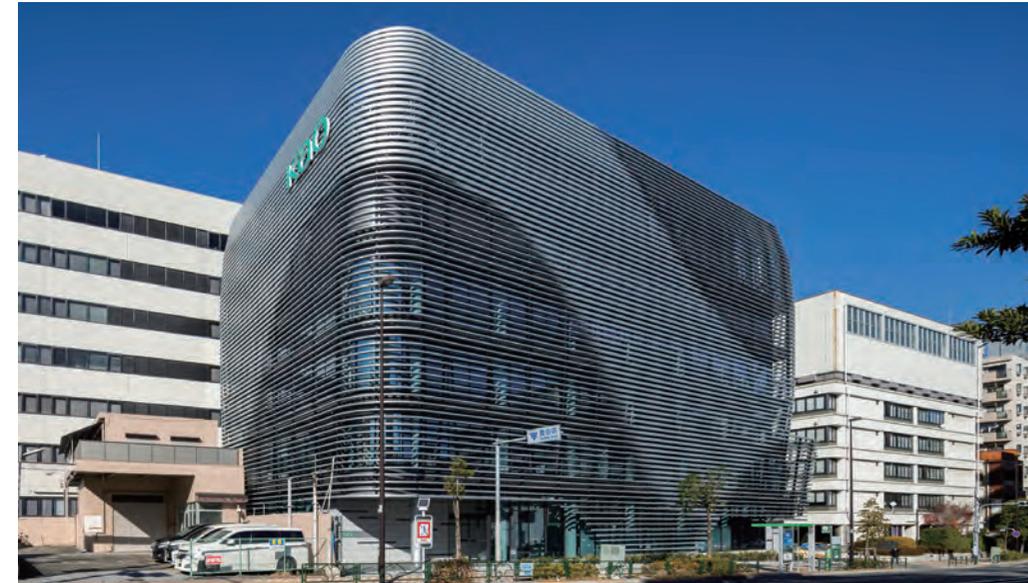
大正12年に操業を開始した花王すみだ事業場は2023年に100周年を迎えました。本案件は事業場の玄関口に位置し、花王すみだ開業100周年を記念する、厚生棟の新築計画です。

2019年にコンペで案件入手。その後設計期間1年、工事期間1年を経て、2022年に竣工しました。

来客と社員を迎え入れる施設づくり、花王ESG戦略に従った高い環境性能、BCP機能の強化が求められました。明治通りに面した南東角地にあり、主要駅からのアプローチで最初に見えてくる、まさに事業場の顔「KAO」となる位置で、朝日を浴びて輝く場所に建ちます。

地区計画策定

すみだ事業場は、既存建物に対して、高さ17mの高さ制限がかけられ、後の設計計画に支障が生じました。開発計画部と約2年、お客様とともに墨田区へ働きかけ、地区計画策定のお手伝いをし、高さ40mまで建設可能となった経緯があります。地区計画で策定した壁面後退線や、歩道上空地などの制約を守りつつ、曲線をふんだんに用いることで、暮らしに溶け込むデザインを目指しました。



暮らしに溶け込む
インテリアデザイン

花王商品のパッケージデザインのコンセプトである『暮らしに溶け込むデザイン』をテーマに、建物内部の至る所で、柔らかな曲面を多用しました。お客様を迎える待合ロビーや受付の形状は、花王のロゴマークでもある三日月をモチーフに空間を構成しました。(奥)

花王のキレイをカタチに
— 外装デザインコンセプト —

外装デザインコンセプトは、花王コーポレートスローガンとキービジュアルに基づき、目指すべき豊かな未来を表す『輝き』、清浄文化を表す『清らかな水』、絶えず変わり続けて行くことを表す『流れ』から、『輝く水の流れ』をコンセプトとし表現しました。

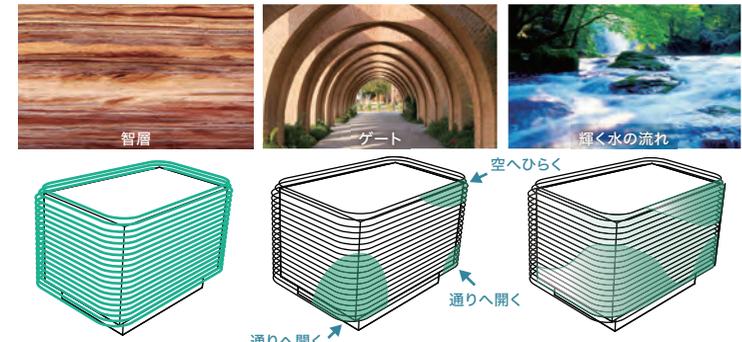
外装ルーバーが変化しながら建物を柔らかに包み、『輝く水の流れ』を表現するとともに、積層するルーバーは歴史と『智』の積み重ね。『智層』の意味を持たせました。また、ルーバー形状を変化させることにより『アーチ』を浮かび上がらせ、『ゲートの意味を持たせました。これらにより事業場の顔『KAO』づくりを行いました。(奥)

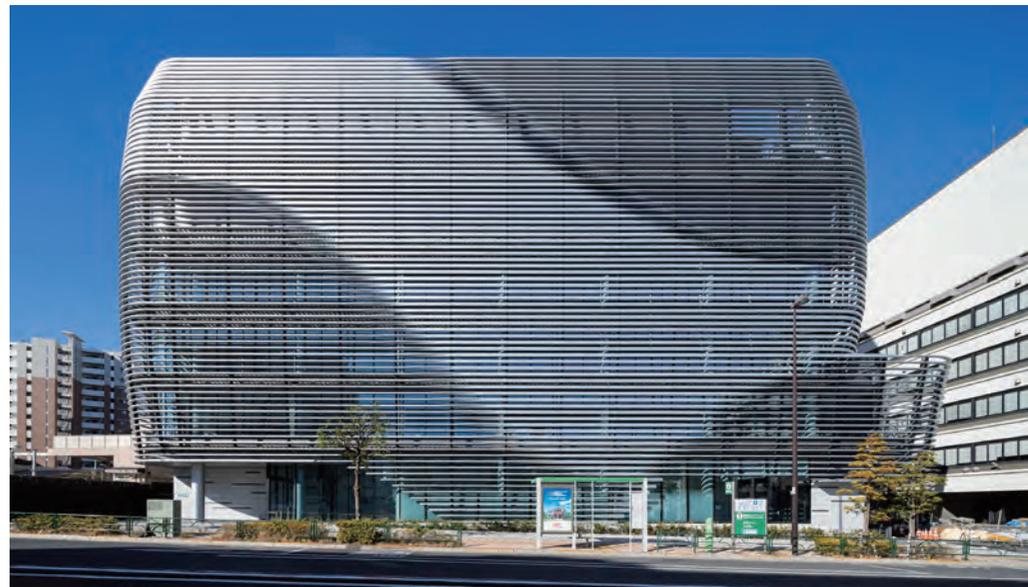


あてやかな光に満たされる4階廊下

災害時には近隣住民が避難可能な体育館

三日月をモチーフにした待合ロビー





流れるようなルーバーを
どう実現するか

―施工性と意匠性の両立を目指す―
外装デザインの実現に向け、詳細設計の段階においては、限られた予算の中で性能を担保しつつ、いかにすっきりとみせられるかが課題となりました。(奥)

ルーバー形状と5種類の部材

アルミ押出型材のルーバー断面を花王石鹼ホワイトの断面にすることにより、花王すみだ事業場の石鹼製造の歴史をルーバーに記憶させました。限られた部材だけで豊かな表現ができるかを検討し、①直線材横長、②直線材縦長、③曲加工半径300mm横長、④曲加工半径300mm縦長、⑤ねじり加工ねじり長さ3200mmの5種類に絞りました。(奥)

3Dモデルによる見え方の検討

3Dモデル入力により外側からと内側からの見え方を同時に検討しました。外側からはルーバー全体の一休感とルーバー自体の存在感のバランスを、内側からは開放感と包まれ感のバランスを考えながら、ルーバーのサイズ200×100mm、ピッチ350mmを決定しました。(奥)

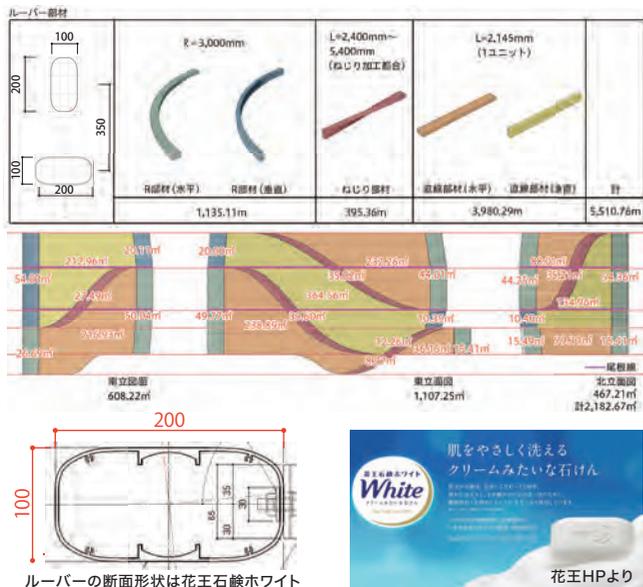
技術研究所での工学的検証

風による振動、風切り音について、技術研究所で風洞実験を行いました。その結果、直線材、曲加工、ねじり加工のいずれの試験体においても有害な振動、音は発生しないことを確認しました。

曲げ、ねじりの塑性加工部材について試験片を抜き取り引張試験を行いました。その結果、塑性変形の影響はあるものの、風荷重は許容応力度内の使用であれば問題ないことを確認しました。また、



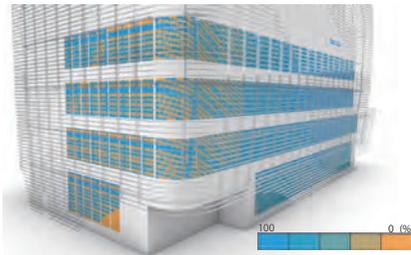
輝く水の流れを表現した外装ルーバー



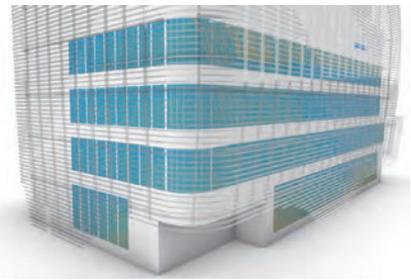
3Dプリンタによる模型検討



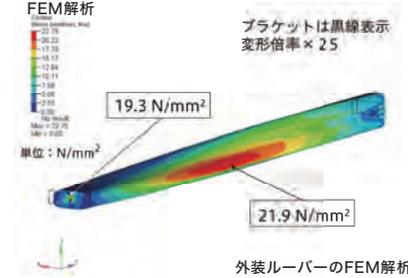
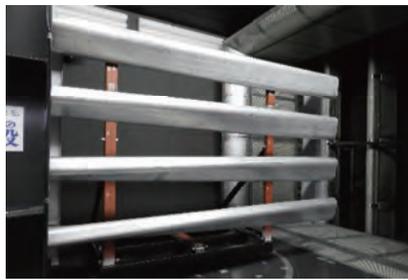
南面の直達日射遮蔽率 冬: 52%



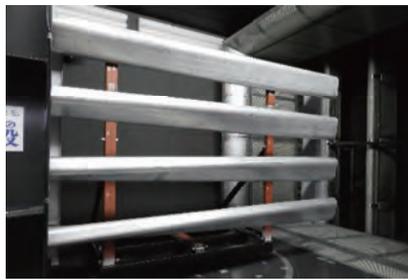
南面の直達日射遮蔽率 夏: 83%



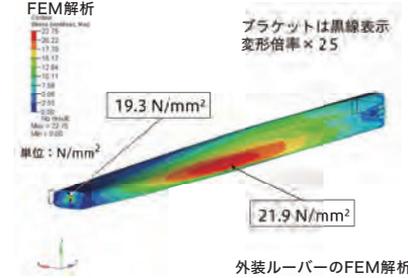
風洞実験(技術研究所と連携)



外装ルーバーのFEM解析



コンペ時に行ったCFD解析



材料強度試験(技術研究所と連携)

FEM解析と材料強度試験結果を比較し設定した安全率で、構造計算を行い安全性を確認しました。(奥)

ルーバーによる温熱環境の改善

3Dモデル入力による温熱環境のシミュレーションも実施しました。ルーバーによる直達日射遮蔽率は夏期83%、冬期52%となり、夏期の日射遮蔽と冬期の日射取り込みの両立を実現させ、意匠性と環境性能を両立できることを確認しました。(福嶋・奥)

既存杭の再利用

既存建物の杭について、杭の健全性確認手法、既存杭利用のための杭頭ディテール開発(特許出願済)により、4本の既存杭の再利用を行いました。これにより、CO₂排出量60トン削減し、花王のSDGsに貢献しました。(原)

プロジェクトで得られた経験

新入社員である1年目から4年目まで担当し、コンペ時のデザイン検討から竣工図の作成まで一貫してこの案件に関わることができました。特に印象的なのは、コンペ時に行った大量のデザインスタディから一案に絞られ、その提案を最後まで実現する楽しさと難しさを経験できたことです。また、お客様から頂いたご要望を工夫しながらデザインし、この案件で設計の基礎を学びました。現在は主に仕事を取りに行くプロポーザルを行う部署に配属され、次なる作品を目指して、取り組んでいきたいと思っております。(奥)

中小規模案件におけるプロデューサーとしての仕事

本社設計部で実務経験を積んだ後、多くの人は支店設計部に配属されます。支店設計部では、中小規模案件を中心に、お施主様や関係者とコミュニケーションを図りながら、企画立案から竣工まで、一貫してプロジェクトを取りまとめる機会が多々あります。本章では、支店設計部において、中小規模案件を中心にプロデューサーとしての役割を果たす設計者の仕事を紹介します。（入社年度目安 5年目〜15年目）



MIZKAN MIRAI LABO



磯和 孝史
入社18年目担当 意匠設計



松田 将太
入社6年目担当 意匠設計



杉浦 亜由美
入社15年目担当 設備設計



山田 雄太
入社4年目担当 電気設計



一般財団法人 岐阜健康管理センター
大垣健診プラザ



白川 あゆみ
入社18年目担当 意匠設計



南口 真一
入社11年目担当 構造設計



杉浦 亜由美
入社15年目担当 設備設計



名古屋ビルディング
校館



祖父江 司
入社8年目担当 意匠設計



京都信用金庫
北山支店



井坂 恵美子
入社11年目担当 意匠設計



四条烏丸セントラルビル



田淵 英二
入社13年目担当 意匠設計



ダイオーロジスティクス
新本社



小山 敦子
入社12年目担当 意匠設計



村上 友理子
入社5年目担当 意匠設計



広島修道大学
ひろしま協創中学校



河野 亮太
入社9年目担当 意匠設計



JR鹿児島中央ビル
AMU WE



小倉 奏
入社9年目担当 意匠設計



パームコートサービスアパートメント
ショーギャラリー



米田 雄毅
入社4年目担当 意匠設計



寺川 喬
入社14年目担当 構造設計



久原本家食品
北海道工場



三上 哲也
入社13年目担当 意匠設計



藤嶋 健太
入社11年目担当 構造設計



今井田 尚文
入社30年目担当 設備設計



成田 剣太
入社7年目担当 電気設計



昭和産業株式会社
上ノ山穂坂工場プロジェクト



松田 大
入社17年目担当 意匠設計



富山市大沢野会館



細川 良太
入社7年目担当 意匠設計



栃内病院



進藤 正人
入社7年目担当 意匠設計

サステナビリティとフレキシビリティの追求

― 蔵のまちに建つパイロットプラント ―



MIZKAN MIRAI LABO
ミツカン ミライ ラボ

本建物はミツカングループの新たな研究・開発拠点となるパイロットプラントとして、創業の地である愛知県半田市のミツカン施設群の一角に建設されました。ミツカングループ「未来ビジョン宣言」で掲げられた「人と社会と地球の健康の実現に向け、景観や環境に配慮したサステナブルな建物を追求するだけでなく、試作ラインを数年ごとに入れ替えるというパイロットプラントの特性を受け、フレキシビリティの向上が求められました。（磯和）

半田運河の景観に馴染む 瓦屋根と黒の外壁

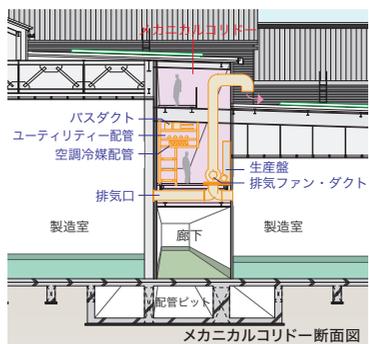
敷地周辺は、江戸時代の海運業・醸造業の名残である黒壁の倉庫群と、ミュージアム・実験棟といった最新のミツカン施設群が半田運河の景観を形成しています。周囲の建物群との共通意匠として、屋根はいぶし瓦葺の切妻屋根、外壁は黒の塗装仕上とし、敷地外周の塀には大和塀を採用しています。屋根の形状は、切妻・寄棟など形状や分節方法を検討しています。外装の塗装色はモックアップを作成し、施主と打合せを重ねて決定しました。

屋根や塗装色の検討にはたいへん苦労しましたが、そのおかげで景観に馴染む納得のいくデザインを実現できたと感じます。（松田）

生産ラインの更新に追従する フレキシブルな建築・設備計画

数年での生産ラインの入れ替えという特性に対し、建築及び各設備もフレキシブルに対応できるように「メカニカルコリドー」を施主に提案し、採用に至りました。メカニカルコリドーは、将来分も含めた各種配管・配線・ダクト・空調機械等を集約し、屋外ではなく生産エリアの中央を貫く廊下の天井裏に設置することで、景観の向上を目指しました。また、

生産ラインの入れ替え時には、メカニカルコリドーと当該改修エリアだけで設備の更新作業が完結するため、他のゾーンへの影響を最小限にすることが可能です。メカニカルコリドーから各ゾーンへ配管・配線を展開するために必要なスペース・クリアランスは、BIMを用いて検証を重ね、最適な断面計画をつくり上げることができました。（杉浦・山田）

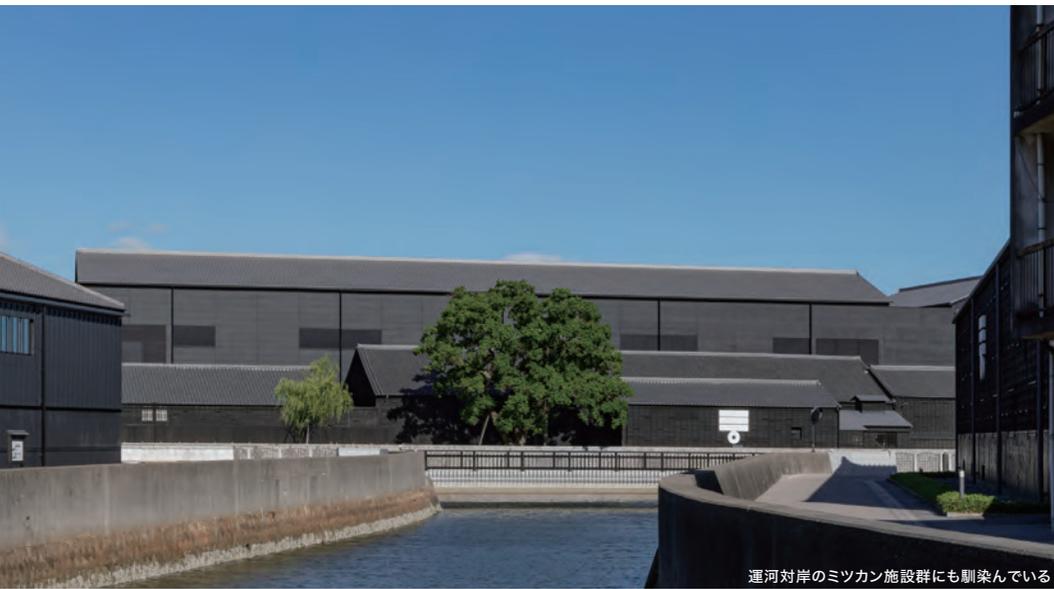


環境配慮とグリーンインフラ

この建物には環境負荷を低減するために、クールビット、ナイトバージヤ太陽光発電パネルを導入しています。また緑地帯には、雨水浸透緑地帯「レインガーデン」を整備することで、敷地外への雨水流出抑制や、植栽への灌水利用を可能にするとともに、景観の向上を実現しました。（磯和）

竣工をむかえて

入念に検討して設計したものの、建物が出来上がるまで景観に馴染むか不安がありました。インスタグラムの半田運河の投稿をみると、違和感なく溶け込んでおり、ほっとしました。（磯和）



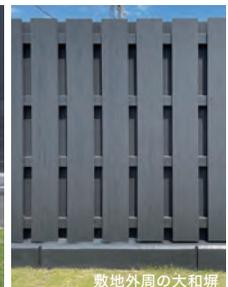
運河対岸のミツカン施設群にも馴染んでいる



レインガーデン



レインガーデン(降雨時)



敷地外周の大和塀



外装モックアップで
塗装色を検討



半田運河沿いの既存倉庫群に馴染む外観



周囲にはミツカン関連施設が立ち並び

『木の香りに包まれた健診センター』

— 新時代の健診センターのありようを考えお客様と共につくる —



GIFU HEALTH CARE CENTER
OGAKI MEDICAL CHECKUP PLAZA
一般財団法人 岐阜健康管理センター
大垣健診プラザ

健康診断事業を手掛ける一般財団法人岐阜健康管理センターは、西濃地域の健康を守る新時代の健診拠点として、大垣健診プラザを開設しました。「明るい家庭は健康から」をモットーに、地域の予防医療の拠点として、住民の健康を守り、地域の医療計画に貢献し続けることを目指しています。

健診センターのありようとは

健診センターの役割は、病気を治す病院やクリニックとは違い、「健康を維持し、生活の質(QOL: Quality Of Life)を高める」ことにあります。そのためには、建物自体が地域に溶け込み、さらには訪れた人が安心して過ごすことができる「ラウンジ」としての施設空間が必要であると考えました。そのような健診センターの建築としての「ありよう」を考える上で、具体的に「地場産木材をふんだんに使った建築」「地域のシンボルを取り入れたインテリア」という2つのキーワードを導き出しました。(白川)

地場産木材を

ふんだんに使った建築

天井面の木梁、受付カウンター、アイストップとなるデザインウォールなど、随所に地場産のヒノキを使用し、「木の香りで訪れた人をやさしく包み込む」健診センターをデザインしました。木の香りにより、訪れた人へ安らぎと癒しを与え、心からだが健やかになるようにと思いを込めました。

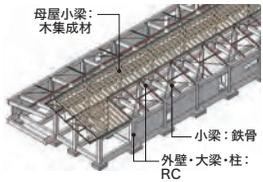
母屋小梁に木を利用し、自然木を感じる事ができる計画としました。シンブルな2枚の切妻屋根を実現するために木と鉄骨のハイブリッド構造を採用しました。印象的な2枚の勾配屋根は、「地域に寄り添う」という当健診センターの思いを表現しています。2枚の勾配屋根を生かし、センターには天井高7mのセンタープラザ(健診待合)を配置しました。ハイサイドライトからの自然光と突き当りの中庭の緑によって、広さを感じ



木質空間による訪れた人をやさしくお出迎えするエントランスホール



センタープラザ(健診待合)



母屋小梁: 木集成材
小梁: 鉄骨
外壁・大梁・柱: RC



平屋で圧迫感のないガラス張りのファサード



させる居心地のよい空間としました。

また、感染対策として、高天井部分にハイサイドライトを設置することで重力換気を促進し、2回/hの自然換気を実現しています。(白川・南口・杉浦)

地域のシンボルを

取り入れたインテリア

大垣市は、ヒノキ枡(ます)の生産量日本(シェア率80%)です。その特産品を随所に施しました。サイズ違いの枡を組合せた室名サインや枡の底面を抜いて両面からの視認性を確保したトイレサイン等、大垣市民に親しみのある地域のシンボルを使用することで、地域らしさの創出を図りました。

通常、放射線室の使用ランプは、赤いランプを使用しますが、デザイン性の高い表示とするため、保健所と協議の上許可をもらい、枡を使用した表示灯が実現しました。(白川)

おわりに

明るい光と木の香りに包まれた空間が、地域住民の「憩いのラウンジ」として活用され、ハードとソフト面でのホスピタリティをサポートし、長く地域の健康を守る拠点として親しまれていくことを願っています。(白川)



ガラスと2枚の勾配屋根で構成する外観

デザインと機能の融合による 都心角地オフィスの新たなインターフェイス



西日対策の縦ルーバーをドレープ状に配置
次世代の幕開けをイメージさせる外観

都心角地オフィスの新たな インターフェイスを目指して



祖父江 司 入社8年目担当 意匠設計

NAGOYA BUILDING SAKURAKAN
名古屋ビルディング桜館

名古屋駅近くのメインストリート沿い
角地に立地するテナントオフィスビルで
す。リニアの開業に向け、駅周辺エリアの
開発が進む名古屋駅前において、オフィ
ス需要の高まりを見据えた既存オフィ
スビルの建替の計画です。

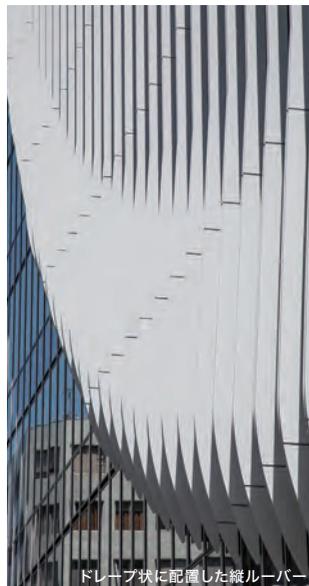
都心角地オフィスのプロトタイプとな
ることを目指して、テナントオフィスで
求められる効率性を実現しながらも都
市とつながる、新たなインターフェイス
の計画に取組みました。

デザインと機能の

融合による外装計画

外装には、執務空間の環境改善を図
るべく西日対策の縦ルーバーをドレー
プ状に配置しています。外装で次世代
の幕開けを想起させるという施主の想
いを実現するため、試行錯誤を繰返し
ました。

外装モックアップでは、デザイン上重
要になるルーバー下端の形状・配置を
確認しました。ガラス・ルーバー・バック
ボード・ブラインド等の色味は複数案
作成し、イメージを実現するための検討
を進めていきました。



ドレープ状に配置した縦ルーバー



FEM解析での検証

外装モックアップ確認

3D模型での検証

実大試作体での検証



外装のドレープと呼応して緩やかな曲線を描く、エントランスホールの杉ルーバー

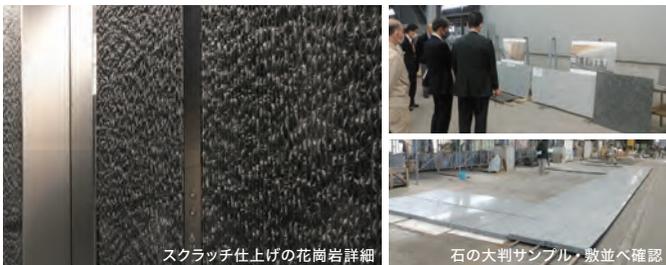


エントランスホール
ライティングシミュレーション

今回使用した愛知県新城市の山林



石と金属による象徴的なELVホール



スクラッチ仕上げの花崗岩詳細

石の大判サンプル・敷並べ確認

大きく、大きな風荷重がかかるため、風荷
重に耐え得る部材強度・メンバーをFEM
解析により検証しました。止水上の注
意点となるACWの交点部やコーナー部
については、3D模型を作成し納まりの
検討や施工手順の確認を実施しました。
最終的には実寸の試作体を工場で作成
し、計画通りに実現可能かの確認を行い、
改善が必要な項目については再度検討を
重ねながら何とか施工にこぎつけまし
た。デザインと機能が融合した外装を現
現するために、各分野のエキスパートの
方々と連携して進めていくことの重要
性を感じながら取り組む日々でした。

木の温もりを感じる

エントランスホール

エントランスホールは、外装のドレー
プ状ルーバーと呼応して緩やかな曲線
を描く木ルーバーを壁・天井に展開し、
テナントオフィスビルという用途であり
ながらもオフィスワーカーや来訪者が
日々木の温もりを感じ、リフレッシュで
きる空間を計画しました。

無垢のルーバーの木の温もりを損な
わないよう、照明は暖色とし、照らし方
も照明の配置・角度等を複数シミュレ
ーション検証しながら進めていきました。
今回使用した木材は愛知県新城市の
山林から樹齢100〜120年の杉材
を調達し、地産地消を推進しています。
愛知県の補助金事業である2021
年度木の香る都市づくり事業にも採択
され、愛知県産木材による空間をPRす
る場にもなっています。

木仕上げを際立たせるよう、その他の
素材はダークトーンに抑えながらも、石
のスクラッチ仕上げやSUSビースプラ
スト仕上げ・リン酸処理パネル等、表情
のある仕上材を一つ一つ現物で検証しな
がら選定していきました。また都心の限
られた敷地の中でも、シンボルツリーの
桜や壁面緑化を積極的に計画し街並み
に潤いを与えています。

次世代に繋がる建物を目指して

次世代の幕開けをイメージさせる外観
と共に、各所にちりばめた素材・植栽が
個性を際立たせ、次世代に繋がる建物と
なっていくことを願っています。(祖父江)

『コミュニティ・バンク』を未来につなぐ — アンプレラ・ストラクチャーの保存と継承 —



THE KYOTO SHINKIN BANK
KITAYAMA BRANCH
京都信用金庫 北山支店

地域に貢献する 新しい金融機関の継承

本案件は、信用金庫の店舗として約50年間使われてきた、菊竹清訓氏設計のアンプレラ・ストラクチャーを今後30年間継承し使い続けるための改修・増築工事です。

京都信用金庫様と菊竹清訓氏は1977年に『コミュニティ・バンク』の理念を提唱し、地域に貢献する新しい金融機関のあり方を提唱しました。

今回、既存建物建設当初からの理念を継承しつつ、現在の営業方法や機能に合わせた店舗を更新するため、様々な提案をしました。

京都信用金庫と私

京都信用金庫の新築店舗はこれまで当社で7件の設計施工実績があります。当案件で8件目となりますが、アンプレラ・ストラクチャーの保存改修は初めての取り組みでした。

私は約7年間にわたり当シリーズの設計を担当しており、現在ではプロジェクトの中心となって案件を取りまとめる立場となりました。京都信用金庫店舗建築の象徴でもあるアンプレラ・ストラクチャーの改修工事を当社設計施工でご命頂けたこと、また北山支店近辺は私が大学時代を過ごした土地でもあり特に思い入れの強い案件でした。

改修工事の目的と要望の整理

まずは既存店舗で働く従業員の方向にヒアリングを行いました。そこで冷暖房の効きの悪さについて指摘があり、空調の改善が第一に求められました。また、店舗イメージを統一するため外壁は現在の京都信用金庫各店舗で採用されているベージュ色タイルに張り替えること、東西動線の向上のためアンプレラ内を通り抜け通路を設けることなどの要望を頂きました。

得意先からの要望事項に加え、建物調査の結果を踏まえて耐震補強・屋根防水改修・サッシュ改修・内装仕上の全面更新・空調および電気設備の全面改修を改修項目としました。

空調性能の改善と 省エネルギー性の向上

既存建物の営業室・ロビーは壁吹の対流方式により空調を行っていましたが、吹抜空間という室形状の特殊性や外皮の断熱性能の乏しさ等から、冷暖房の効きの悪さを招いていました。

そこで吹抜空間の居住域のみを効率良く空調する全面床吹出方式を提案するとともに、窓ガラスのLow-E化やアンプレラ屋根の室内側への膜天井設置および膜天井内換気による断熱強化など、建備一体となった快適性・省エネルギー性の向上となる改修提案をしました。

またこれらの空調・断熱改修の効果検証には得意先との合意形成のためにCFDシミュレーションを活用しました。全面床吹出による居住域の温度環境改善効果だけでなく、屋根断熱強化による屋根面から居住域へ向かう熱放射の低減効果についても、PMV(温熱6要素を考慮した指標を用いて評価し、総合的な熱環境の改善効果を示しました。

次世代に繋がる建物を目指して

アンプレラ・ストラクチャーのフレームとその意匠性を継承しながら室内環境を向上させる必要があることから、意匠・構造・設備で模型やスケッチを囲んで打合せを重ねました。

例えばアンプレラ部分は基礎の拡幅等の柱脚補強、下屋は鉄筋コンクリート増打ち補強により空間に影響の出ない耐震改修を計画しました。膜天井は空調・断熱環境の向上だけでなく、意匠性の向上や、膜天井への照明反射光が床面照度に影響することで天井が高く照明の直接光が届きにくい空間の明るさ感の演出に寄与しました。

このように意匠・構造・設備で一丸となって取り組むことで、『コミュニティ・バンク』を未来に繋ぐことができました。(井坂)



ロビー内観



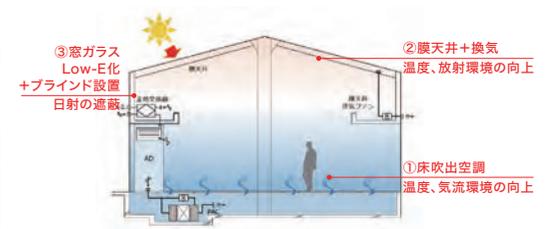
コミュニティ・プラザ



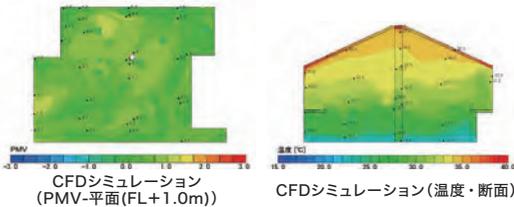
シンボル・マーク



アンプレラ・ストラクチャー鳥瞰



空調改修計画のポイント



一体感を醸成する D-Style Office

— クライアントの未来を彩る建築を目指して —



小山 敦子 入社12年担当 意匠設計



村上 友理子 入社5年担当 意匠設計

DAIO LOGISTICS HEADQUARTERS
ダイオーロジスティクス 新本社

『輝けるオフィス』の実現

四国中央市にある、主に製紙関連の物流を担う企業の本社移転計画。働きやすく環境にやさしい社外にアピールできる建物を実現したいというクライアントの強い意向がありました。あえて低層化した『のびやかなワンプレートオフィス』というアイデアが入札コンペで高く評価され、受注しました。

また、さまざまな環境技術を組み合わせ、ZEB Ready※取得を実現しました。

※ZEB Ready：一次エネルギー消費量を50%以上削減した建物が取得できるBELS認証

『聴く』をかたちに

海外駐在から帰国し、久々の国内コンペ。しかも新本社！どうしても参画したいと思いつき、設計パートナーにお選びいただいた、思い入れの強いプロジェクトです。パティを組んだのは入社5年目の村上さん。コンペ当初からお引渡しまでプロジェクトの要として参画しました。

ひとつの不安はお客様の心に響く提案ができるかということ。コンペに先立ち、これまでの戦い方をあらためて振り返りました。原点に立ち返って、要綱を読み解き、クライアントのコンセプトにプラスできることは何かを模索しました。ニーズを『聴く』を確実に、クライアントへ『届ける』を常に心掛けました。

例えば、提案書です。コーポレートカラー、計画地の美点である瀬戸内にひらかれた眺望を想起させる青色をアクセントカラーとして、手触りがやわらかなテクスチャの中表紙にもこだわりました。(小山)

未来を彩る建築を目指して

初期コンセプトの更なる深掘りを通して、クライアント若手担当者とも議論を繰り返しました。

将来変更への自由度が高いオフィスやカフェテリアは、爽やかな風が入る心地よい空間と、トラック駐車場を一目で見渡せる業務効率化を共存させています。動線をコンパクトに集約しつつ、『コミュニケーション』を誘発する仕掛けとして、リニアギャラリーなど、キャラクターのある居場所をちりばめました。(小山)

多角的でリニアなもじゅうへり

コロナ禍で四国へ渡れない時もありましたが、対面を補完するために、開催頻度を上げてWeb会議を活用する等、柔軟にリアルとバーチャルの良いとこどりのものづくりができました。

デザイン検討においても、チャットやクラウドでタイムリーに共有することで、効率的なスタディを実践しました。エンランスの浮遊する階段は、現寸模型を何度も試作しました。実際に施工された姿がスタディのイメージ通りに立ち現れたことが印象的に思い出されます。(村上)

よりよい建築をお届けするために、傾聴や対話に呼应した空間提示を丁寧に繰り返す設計プロセスは、クライアントと設計・現場が、意識を共有した『ワンチーム』となることで実現できたと実感しました。(小山)

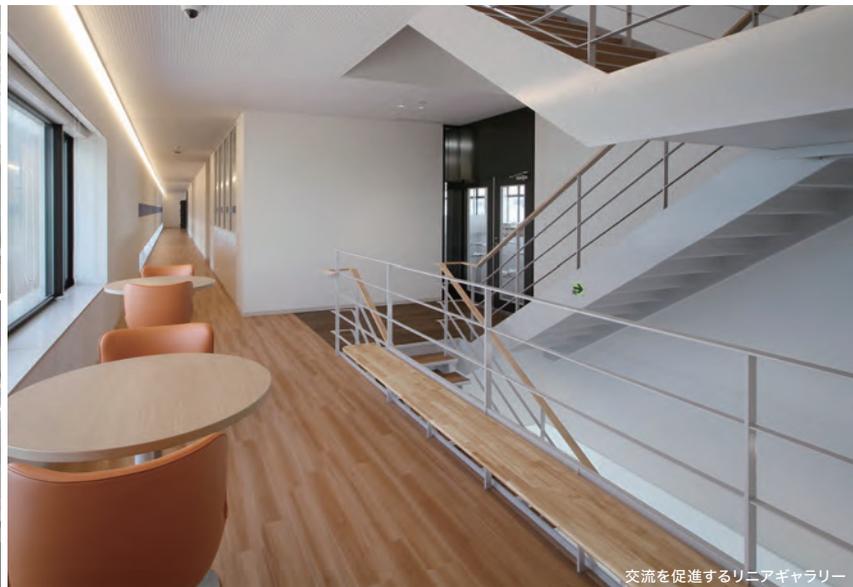
今後事業拡大されるクライアントのひらかれた新社屋として、従業員の皆様、ゲストや地域の方々にも末永く愛着を持っていただけることを願っています。(村上)



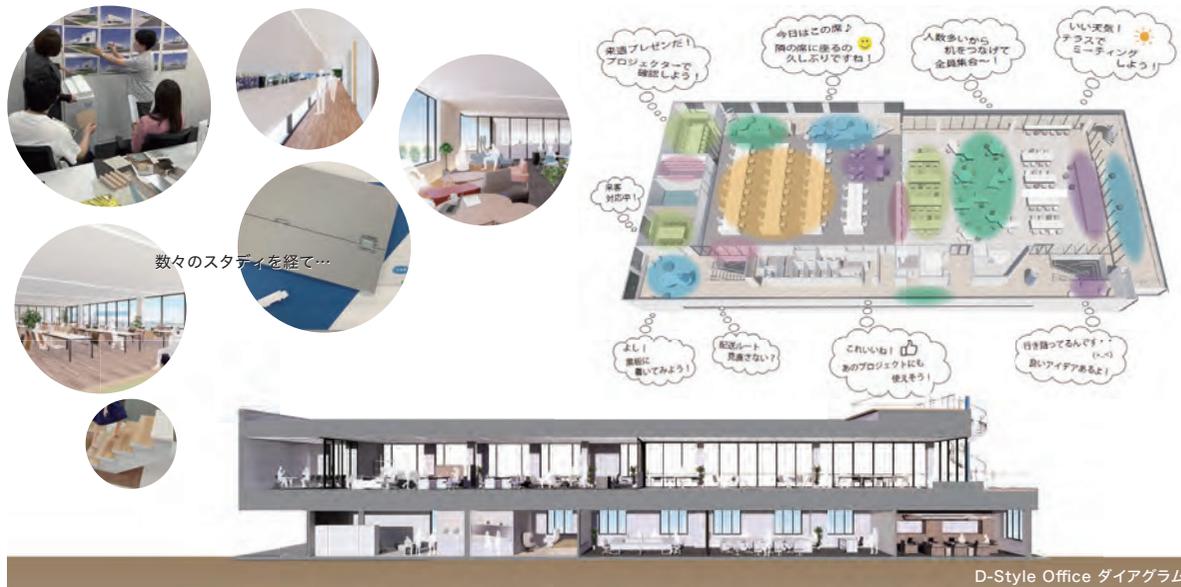
オフィスと一体化したカフェテリア空間



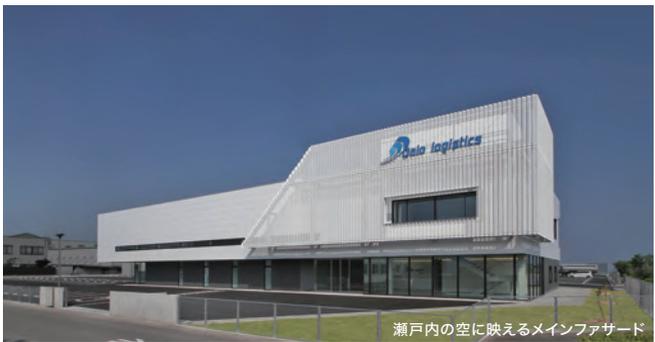
エントランスの浮遊する階段



交流を促進するリニアギャラリー



D-Style Office ダイアグラム



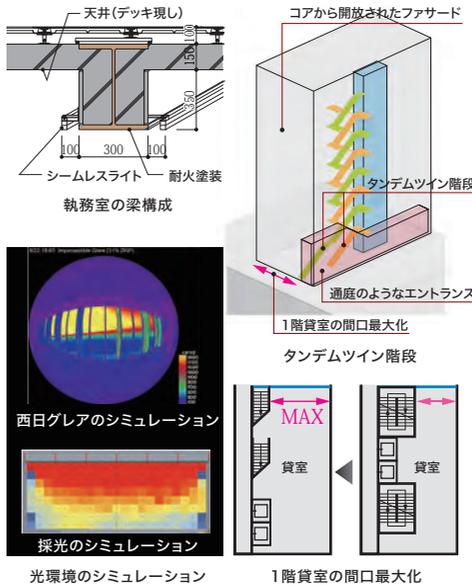
瀬戸内の空に映えるメインファサード



室内環境/景観に配慮した格子形状

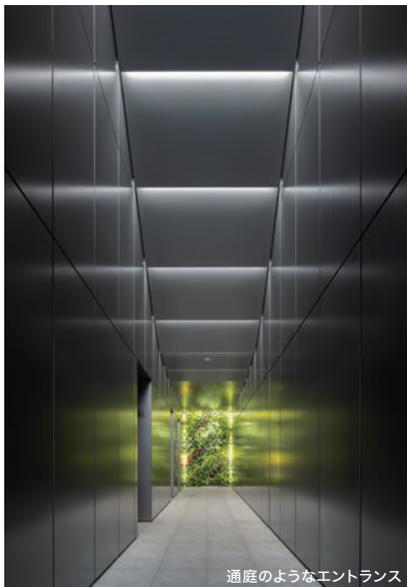


外観



光環境のシミュレーション

1階貸室の間口最大化



通庭のようなエントランス



天井高と北面開口を最大限確保した執務空間



SHIJO KARASUMA CENTRAL BUILDING
四条烏丸セントラルビル

加地 則之
入社33年 担当 意匠設計

藤波 智里
入社5年 担当 電気設計

大多和 真
入社9年 担当 設備設計

木下 和之
入社11年 担当 意匠設計

田浦 史彬
入社13年 担当 構造設計

田淵 英二
入社13年 担当 監理設計

SHIJO KARASUMA CENTRAL BUILDING
NORIKI KAI / EJI TABUCHI / KAZUYUKI KINOSHITA / FUMIAKI TAURA / MASASHI OTAWA / CHISATO FUJIMAMI

京都における新たなプロトタイプとなるオフィス
— 京都特有の敷地における賃貸オフィスの新たな構成を目指して —

京都らしい街並みを目指して
新たなコア構成の空間を実現するため、企画段階から各所納まりを協議し続ける必要がありました。結果として設計者・客先共に納得のいく構成を実現できたと思います。また、シンプルな構成を際立たせる納まりとするため、コストや施工方法について職人さんを巻き込み最後まで検討を行いました。

本件の汎用性の高い構成の提案により、京都の四条通に町屋のような洗練された建物群ができることを願っています。
(田淵)

快適な環境と景観配慮を
両立する格子ファサード
新たなコア形状と面積効率化により、自由度の高いファサードが可能となりました。快適な執務空間を実現するため、環境制御の機能もった奥行きのある格子形状としています。

横向きのフィンは階層間の耐火庇の役割を果たし、階高3200mmの中で、前面道路側の開口高さ2900mmを確保しています。縦フィンは日射シミュレーションにより、西日のグレア制御を抑えつつ自然採光が最大限とれる奥行き700mmとし、ブラインドが不要な計画とすることで、室内環境と街並みへの景観配慮を両立したファサードとしています。

豊かなランドレベルの実現
『タンデムツイン階段』によるコア構成により、エントランスホールと避難階段を効率化し、最も賃料の高い1階貸室の間口を最大化(約80%確保)しています。敷地要件により細長くなるエントランスホールは、『タンデムツイン階段』を利用し

タデムツイン階段の考案
従来、貸床面積を最大とすべく、コンパクトなコア配置とした場合、ランドレベルに避難階段・エレベーターホール・エントランス等が並びますが、本計画では、更なる効率化を目指し、従来のゼーラス階段の展開として、敷地の奥行きを利用しこの階段が前後に重なるように接続する『タンデムツイン階段』を考案し、これにより間口が狭く奥行きのある敷地に適した新たなコア形状を提案しました。

『タンデムツイン階段』によりコア形状がコンパクトになったことで、貸室の専有面積・レントラブル比・間口寸法を最大限確保することが可能となりました。

開放的な執務空間
高さ制限31m規制の中で容積を確保するために、低階高オフィスとしています。梁が上下階に露出する逆梁状の納まりとし、天井もフェローデッキの現しを採用することで、階高3200mmの中で天井高さ2950mmを確保しました。

天井現しの梁には、側面に吸音ボード・下面にライン照明を設置し、機能的かつ意匠的な要件を満たすことで、開放的な執務空間を実現しています。

大屋根の下に広がる豊かなインテリア空間

既存の駐車場基礎を再利用したV字柱による豊かな空間



米田 雄毅 入社4年目担当 意匠設計



寺川 喬 入社14年目担当 構造設計

PALM COURT SERVICE APARTMENT
SHOW GALLERY
パームコートサービスアパートメント
ショーギャラリー

限られた敷地内に短工期で SHOW GALLERYを実現

当社の設計施工で現在施工中のパームコートサービスアパートのためのショールームです。富裕層をターゲットとするため、仮設建物から始め、インドネシア特有の高級感が求められました。販売のためのショールームという仮設建物であるため、施主が所有する隣接建物の駐車場棟2階を有効利用して短期設計、短工期で建てて欲しいという軽い要望から始まりました。

実現にあたっては、既存構造体の耐荷重制限があるため単純な増築は出来ません。既存基礎より上のRC造による構造体をいったん撤去し、鉄骨造に作り替えることで軽量化を図り、施主の要望である敷地の有効利用と、既存基礎の再利用による工期短縮を実現しました。

大屋根の下に広がる 豊かなインテリア空間

デザインを進める上では販売するアパートと同じ、『ROBUST』威風堂々がキーワードとなっています。内部空間においては、富裕層をターゲットとした販売センターとして、高級で居心地の良いインテリア空間を求められました。

外観は大屋根の軒を逆勾配とすることにより軒を高くとり、建物を大きく堂々とした姿としています。軒先はH型钢によりエッジを強調し『ROBUST』な表情を作りました。

繊細なV字柱を採用することで、建物を囲う深い軒が跳ね出しているように見え、浮遊感のある表情となっています。大屋根と取合う外壁のトップ部分に反射の強いカラーガラスを挟むことにより、さらに浮遊感を強調しています。このディテールをインテリアにも踏襲することで、屋根の重さを感じさせない居心地の良い空間としました。141・3φの繊細な丸柱で構成されたV字柱はインテリア空間にも溶け込み、大屋根の下

に開放感のある、豊かな空間を造ることが出来ました。

手仕事の得意なインドネシアの良さを生かしながら、モックアップなどでディテールを検証することにより、密度の高い物造りが出来たと自負しています。
(米田)

V字柱により繊細で軽やかな デザインを実現

当プロジェクトで大きな特徴となっているV字柱は、重厚感のある大屋根を支える柱を軽やかに見せたいという、施主の要望から生まれました。当該建設地においても、日本同等とまではいかないものの、地震や風に対する設計が必要です。こういった外力に対する安全性を考えたつ、いかに軽やかにデザインするかが本計画での課題でした。そんな試行錯誤をする中で生まれたのが、今回のV字柱です。V字柱は構造計画上、配置する向きが非常に重要となります。構造的なバランスと建築計画との整合性を考えながら計画を進め、この大屋根を141・3φの軽やかな鋼管で支えることが出来ました。また、デザイン上の課題に加えて工夫が必要となったのが、現地鉄骨ファブの技術レベルを踏まえた接合ディテールの設計でした。接合ディテールについて、実際に製作をする現地鉄骨ファブと計画初期段階から綿密に打合せをし、その技量を踏まえた接合ディテールを考案、実際の建て方前に、実大モックアップによる確認まで行い、満足いく仕上がりとなりました。(寺川)



アプローチ側夜景



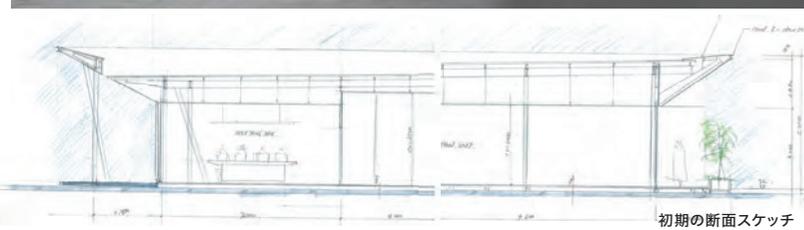
繊細な柱が空間に溶け込む



インテリア工事着手前



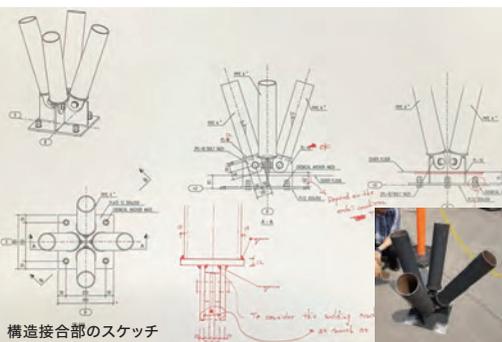
来客を迎えるロビー



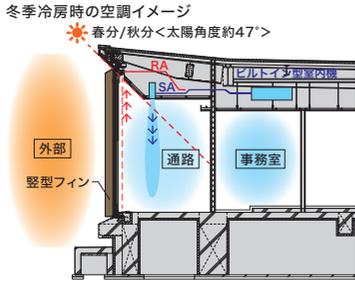
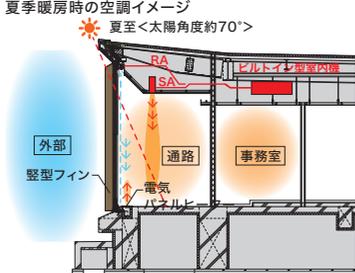
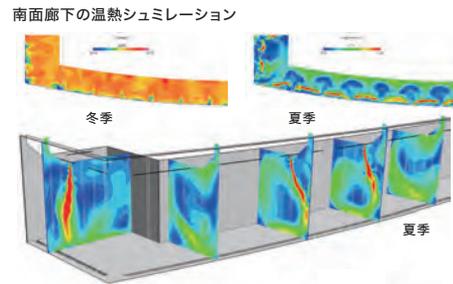
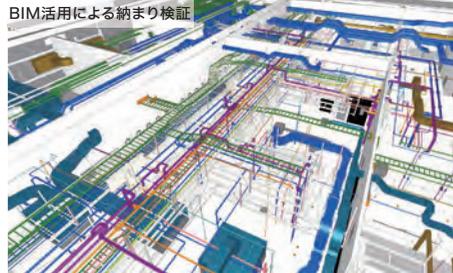
初期の断面スケッチ



パームコートサービスアパートメント



構造接合部のスケッチ



東西に緩やかなカーブを描く南側通路



特徴的な曲線を描く南面ファサード



KUBARAHONKESHOKUJIN HOKKAIDO PLANT 久原本家食品 北海道工場



雄大な北海道の地に計画

お客様から頂いた「美術館のような外観」というご要望に対して、ランドスケープと調和する、緩やかに曲線を描く雄大なガラスカーテンウォールの外観をご採用頂きました。(三上)

北海道の大地に根ざし、道産の食材を活用した新ブランドを通じて、世界に発信する、働く人が誇れる工場となっていくことを期待しています。

(三上・藤嶋・今井田・成田)

働く人が誇れる工場に



やわらかい光でランドスケープを照らす



外気取入口断面

廊下の窓下には、コールドドラフト対策として電気パネルヒーターを組み込み、ペリメーター部分の熱負荷を処理しています。メインファサードに面する廊下

給気に関しては、冬季の風向側に給気口を設けても、外気取入れ時に雪が外調機に侵入することを抑制する工夫をしています。(今井田)

「R線に面するメインとなる南面のファサードにおいては、屋根先端のパラペット部の水平ラインをすっきり見せるため、繰り返しディティール検証を行いました。曲線の上下の水平ラインと、ガラスとフィンで構成された外装カーテンウォールを、品質・性能を確保した上でよりシンプルに見せることに成功しました。北海道の寒冷地対応について設計段階で技術部門、施工部門との協働により、品質を確保するための工夫と検証を行いました。(三上)

関連部署との協働を通じて

『ランドスケープと調和する雄大なファサード』の実現
 働く人の誇れる新工場を目指して

「ふらり」と立ち寄りたくなる多世代交流拠点

— 図書館を核とした、愛着の持てる建物を目指して —



細川 良太 入社7年目担当 意匠設計

TOYAMA CITY OSAWANO HALL
富山市大沢野会館

「ふらり」と立ち寄りたくなる

この建物は、富山市によるPFI事業（民間の資金と経営能力・技術力を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業のひとつ）であり、既存施設の複合化による施設のコンパクト化・高機能化と、余剰敷地における商業施設の誘致により、地域の発展と活性化を目指すものです。行政サービスセンター、図書館、公民館の機能が集合しており、将来隣地には温浴施設が一体的に整備されます。

この事業は、単なる機能の複合化によるハコモノであってはいけません。事業計画も大切ですが、設計者として建物に何ができるかを考えました。目的がなくても「ふらり」と立ち寄りたくなる、地域住民のよりどころとなる建物を目指して、図書館を核とした「通り」と「愛着」をコンセプトに、様々な居場所をちりばめました。

施設・広場を結ぶ「通り」

様々に配置した施設・広場に相互に行きやすい通り道として、新館と別館の一体感を強固にする「おおさわのみち」と、温浴施設・まいどはやテラスを気軽に行き来できる「これのみち」を設けました。

これらの「通り」は単なる動線ではありません。ペントのない平日でも、お年寄りの方がベンチでお話をしていたり、下校途中の小学生がランドセルを置いて宿題をしていたり、宿題に飽きてかくれんぼをしていたり、思い描いていた以上の光景がこの建物にはありました。設計者として、とても嬉しい感情を覚えました。

入りたくなる図書館

地域住民が一番気軽に利用できる図書館は、わかりやすく、入りやすい場所にするべきと考えました。閉じた図書館ではなく、エントランスに入ると一番に目に入る開放的な場所としています。図書



檜円の図書館に隣接して緩やかに交差する「おおさわのみち」と「これのみち」



近隣建物のボリュームと調和する 印象的なでこぼこファサード
白い外装は地域住民が彩るキャンパスをイメージ



お話コーナーで絵本を読む親子



建物をイメージした館名サインとオリジナルピクトグラム

館とホワイエは檜円形状で優しく仕切り、書架の配置は求心性を持たせて配置することで、視線の抜ける空間を目指しました。

「愛着」のある温かい空間

ホワイエと図書館の天井には、富山県産材スギを用いて温かみのある空間としました。傾斜角4度の緩やかな天井に木が折り重なる印象を与えるために、間接照明の当て方や、折り返し部分の反射材の選定等、モックアップで何度も確認して実現しました。

当社発祥の地に建てる想い

大沢野会館が建つ富山市大沢野の近くには、清水記念公園があります。当社発祥の地として特別な場所での事業ということで、設計部のみならず社内各部署のメンバーがメモリアルプロジェクトの想いで取り組んだ事業です。清水記念公園に訪れた際は、大沢野会館にも「ふらり」と立ち寄りてもらえると嬉しいです。（細川）



小学生の下校風景となる「おおさわのみち」



施設・広場・地域を繋ぐ「通り」の配置

白い骨格に包み込まれた、全室個室の整形外科病院

— リモート主体のコミュニケーションの模索と、信頼関係の構築 —



進藤 正人 入社7年目担当 意匠設計

TOCHINAI HOSPITAL
栃内病院

岩手初の全室個室病院

本案件は、岩手県盛岡市の仙北町駅前に建つ、整形外科とリハビリテーションに特化した病院です。病室を全室個室とし、基礎免震構造を採用することで、居住性と安心・安全を確保しています。周辺の豊かな山並みを活かし、眺望のいい場所に、リハビリ室やラウンジを設けています。

本案件はコンベで入手したもので、私はコンベから竣工までを、意匠担当者一人で担当しました。自身初の経験でしたが、上司や本社、現場、コンサルなど様々な人々との協力により、無事竣工を迎えることができました。

毎日、新プランを作る日々

病院は様々な部門が一つの建物に納まっているため、プラン作りが非常に重要になります。コンベ時は、毎日新プランを作成しては、本社の専門部署から意見を盛り込むことで、四角い平面形状にまとまっていきました。

案件入手後も更に客先の要望を取り入れるべく、プラン調整に追われました。改めて条件を整理することで、最終的には外来と検査部門を1階にまとめることができ、コンパクトで患者が移動しやすいフロア構成にブラッシュアップすることができました。

客先のニーズを掴んだ構造形式

免震構造の安心・安全と、外殻構造による、骨格のような白いフレームデザイン、室内に柱型が出ない構造形式が客先のニーズにマッチしました。コンベのプレゼン時に客先のニーズを掴んだことが、その後の信頼関係構築の発端になったと思っています。外殻構造は、構造体の形状がそのままファサードデザインに直結します。設計初期に構造設計と細かい打合せを重ねたことで、文字通り、デザインの骨格が固まっていきました。



空や山の色に呼応した深い青色の外装を、骨格をイメージした白いフレームで包み込むデザイン



構造=ファサードの外殻構造の検討



4拠点を繋いでの定例会議



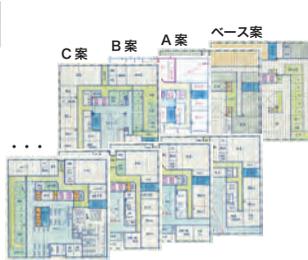
スマホで確認できる360°ビューでの空間共有



データにアクセスするためのQRコード(例)



病室のデジタルモックアップ



日々検討を続けた平面図



iPadのスケッチを画面共有して説明
案件入手から、打合せは全てリモート会議で開催



プロジェクトメンバーが初めて一堂に会した地鎮祭



リハビリテーション室と連続する屋外テラス



眺望のいい最上階のリハビリテーション室

完全リモート打合せの難しさ

プロジェクト期間がコロナ禍と完全に被っており、定例会議は全てリモートで行いました。場の雰囲気や把握しづらい中、議題を明確にし、より分かりやすい資料作りをすることで、認識違いが生じないように心掛けました。

病院の各部門と、部屋の仕様を打合せする各課ヒアリングも、丸2日×2回にわたってリモートで行いました。言葉では伝わりづらい箇所は、スケッチを描く様子を画面共有するなどして伝えました。スケッチを通して全員が納得する瞬間は、対面打合せをしているかのような一体感を感じました。

BIMデータを元に、スマホを用いてVR風を確認できるデジタルモックアップも合意形成に活用しました。

眺望を活かしたリハビリ室

病院の売りである最上階のリハビリテーション室からは、若手山をはじめとした山並みが望めます。この風景を絵画のように切り取るために、窓を木の額縁で囲みました。天井は山型に折り上げ、照明を横から当てることで、夜には室内に山並みを作り出します。

セットバックした屋上部分もリハビリ・リフレッシュスペースとして使えるよう、ゴムチップ舗装としました。角のない曲面の目隠し壁は、緩やかに患者とスタッフのエリアを分けると共に、患者の移動を促します。

やっと会えた地鎮祭

リモート打合せの日々は続きましたが、プロジェクト開始から一年半後の地鎮祭の時に、やっと客先を含めたプロジェクトメンバーが一堂に会しました。プロジェクトに対するそれぞれの想いを感じることで、対面で生まれる連帯感を改めて感じました。その後は、モックアップやカラスキーム確認は対面で行うことができ、最後の決めごとで、皆が納得できる合意を得ることができました。

リモート主体でも、丁寧な資料と説明が、円滑にモノ決めを進めることに繋がることが実感しました。(進藤)

『従業員の働き方に貢献する空間提供』
— 要望にお応えするプラン検討とマインドアップする空間を求めて —



松田 大 入社17年目担当 意匠設計

SYOWA SANGYO PROJECT
昭和産業株式会社
上ノ山穂坂工場プロジェクト

始まりは入札参加への声掛け

山梨県に建つ半導体工場。関東支店に異動して1年目に巡ってきた案件です。競合が地元工務店の設計施工入札案件に主担当として取り組みました。入社後初めてとなる生産施設への取り組みで、社内の生産施設のスペシャリストにポイントを伝授して頂きながら計画し、提案致しました。

提案したプラン（製造室を最大限確保した計画）と外観（周辺環境を考慮したガラスファサード）が高く評価され、入手できた案件になります。

外装部の作り込み

クリンルームで働く社員のマインドアップに寄与する浮遊するガラスBOX（多目的に利用される食堂をファサード側に配置した外装計画です。妻面のマリオンに軸力を分担させ、コーナー部の柱を無くすことで、自然に囲われた環境に溶け込み、富士山、南アルプスを一望できる開放的なコミュニケーションエリアを実現することができました。事業者様の経営理念の「明るい活発な職場づくり」を誘発する仕掛けとなる食堂。竣工後は、事業者の方でプロジェクトを設置し、多目的に利用をして頂いていることもうかがっております。

外観



外観近景



食堂



エントランスの設え検討

入手後、施主の事業目的の軌道修正に伴うプラン変更要望に対し、柔軟に対応を行いました。製造室の拡大により生産性向上を達成しつつ、必要最小限の共用部を、従業員の憩いの場であり、かつ来客者を迎え入れるエントランスとなる空間づくりを念頭に、スケッチパースにて検討しました。

エントランス空間は、自然に包まれた精密機器製造会社を表出すべく、メタルウッドを用いた壁のパターン検討をしました。決定案は、風を屏（ふさ）ぐ「屏風」をモチーフとした案。メタルウッド調の塩ビシートで折りを組んだ屏風壁で来客者をお迎える空間になりました。

竣工の時には、施主に、この案にしてよかったと、とても嬉しいお言葉を頂きました。（松田）



エントランスロビー



エントランス アクソメイメージ



study-A



study-B



study-C



study-D

JR鹿児島中央ビル AMU WE！

—南国かごしまの新しいターミナルビル—



小倉 奏 入社9年目担当 意匠設計

JR KAGOSHIMA-CHUO BUILDING
AMU WE
JR鹿児島中央ビル



広場からの見上げ



北西より望む



西口ロータリーより望む

JR鹿児島中央ビルは、クライアントである九州旅客鉄道株式会社が、鹿児島県、鹿児島市、日本郵便とで、周辺道路の整備を始めとする協同したまちづくり開発事業の一つで、鹿児島中央駅と直結する商業・オフィス複合ターミナルビルです。

計画以前、鹿児島中央駅周辺は駅東側の整備が先行していたので、駅の西側はすつかり周辺住宅の通用口となっていました。そこで、駅と計画地の間にあった移管された市道を遊歩道に整備し、駅と新しいターミナルビルをブリッジで接続することで駅西側に新たな人の流れと交流をうみだすことを目指しました。



56
vol.82

いつもよりハードルが高い 駅直結ビル設計

入社9年目の私は、小規模な医療・福祉施設から大・中規模な工場・企業の新築やホテル宴会場の改修まで幅広い案件に携わってきました。今回初めて駅と直結する商業・オフィスビルという設計難易度の高い案件を、コンペ入手段階から竣工まで九州支店設計部と本社商業・宿泊施設設計部で連携して設計・監理に取り組みました。

今回は、クライアント、社内を含め関係者が大変多かったのが最初は戸惑いましたが、意見収集と情報整理をいつも以上に丁寧に行うことから始めました。そうすることで、自分のアイデアがマッチする方法を見つけれられたと思います。その後、自分のアイデアを実現するために実物スケールの外装、内装、照明、外構材の試作をたくさん作成し、関係者と議論を重ねて意匠性、耐候性、安全性、メン

テナンス性ともに納得できるまで試行錯誤を繰り返しました。

ゆるやかな曲線の遊歩道

駅を利用する多くの人にとって快適な生活の一部になってもらえるよう、行き交う人の動きをゆるやかな曲線でなぞって交差する場所にベンチや地域に自生する樹木を配置しました。駅出口とメインエントランスの間の広場は、人や景色のうつろいを映し込み、建物と一体化した空間としたいと考え、みずみずしく、やわらかい表情の柱を設えました。

遊歩道ができあがり、ベンチに座っている人の笑顔や、樹木の枝で鳥が遊んでいるのを見かけたときはとても嬉しかったです。

鹿児島らしさを添える

遊歩道のゆるやかな曲線の床と鹿児島らしさの一つである薩摩切子をモチーフとしたキリコ天井を内外で連続させることで、駅ターミナルビルと広場を一体的な空間として設えました。

オフィス空間に切り替わるオフィスエントランスには、3m×3.5mのガラス壁に桜島の力強さと錦江湾のやさしい水面をモチーフとした手漉き和紙を貼りました。オリジナル性の高い、ここにしかない桜島をつくりたかったので、漉き方のパターンをいくつか作成し、桜島の大きさ、稜線、照明の位置など、細かく調整をしました。原寸の手漉き和紙は一回きりの製作だったので計画通りできるかとても心配でしたが、クライアントにも満足して頂く出来栄となりました。

このプロジェクトを通じて、最初から最後まで沢山の関係者の思いを繋ぐことができ、感謝の気持ちで一杯です。今後、この遊歩道に隣接する公園や住居と一緒に鹿児島の人々に長く愛される場所となることを願います。(小倉)

57
vol.82



メインエントランス前広場



オフィスエントランス



2Fメインエントランス



桜島と錦江湾の手漉き和紙

薩摩切子

— 本社設計部 —
大型案件におけるプロデューサーとしての仕事

支店設計部での仕事を始めとする様々な実務経験を重ねた後は、本社設計部にて、大型案件のプロデューサーとしての役割を求められます。全社的な視野と展望を持った設計のエキスパートとして、多くのステークホルダーを取りまとめることとなります。本章では、培った経験を糧に、大型案件でプロデューサーとしての役割を果たす設計者の仕事を紹介します。（入社年度目安 10年目以降）



コマツ湘南工場
開発棟



中野 舞
入社9年目担当 意匠設計



いわて盛岡ボールパーク



水口 朝博
入社9年目担当 意匠設計



岡山大学 共育共創コモンズ
(OUX：オークス)



長澤 怜
入社13年目担当 意匠設計



増田 陽輔
入社14年目担当 構造設計



渡部 真夕子
入社2年目担当 構造設計



岡笠 紘子
入社1年目担当 設備設計



山形 弥里
入社5年目担当 電気設計



博多 FD ビジネスセンター



齋藤 剛寛
入社7年目担当 構造設計



坂口 和太
入社7年目担当 構造設計



鈴山 洋平
入社7年目担当 設備設計



森谷 真帆
入社7年目担当 電気設計



TDテラス宇都宮



笹崎 慎
入社18年目担当 意匠設計



日黒清掃工場



菊田 大典
入社1年目担当 意匠設計



ヒルトン長崎



福西 泰博
入社7年目担当 意匠設計



藤井 雅之
入社6年目担当 構造設計



海雲山 皓台寺
伽藍再建



青木 裕一
入社41年目担当 意匠設計



池内 匠
入社28年目担当 意匠設計



木村 誠
入社31年目担当 構造設計



服部 勇樹
入社7年目担当 構造設計



大熊町産業交流施設



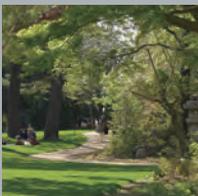
南野 友子
入社13年目担当 意匠設計



松井 遼
入社4年目担当 意匠設計



小竹 輝彰
入社4年目担当 提案作成



世田谷キューズガーデン



内藤 純
入社15年目担当 意匠設計



南野 友子
入社12年目担当 意匠設計



圓山 雄太郎
入社13年目担当 意匠設計

インベーションを生み出す空間への挑戦

— 社内の人も社外の人も同じ場所、光や風が通り抜ける吹抜空間 —



中野 舞 入社9年目担当 意匠設計
KOMATSU SHONAN INNOVATION LAB
コマツ湘南工場 開発棟

プロジェクトとの出会い

最初コンペの内容を聞いたとき、絶対に自分が担当したいーと思いました。建物概要は、コマツ様の建設機械の脳である基盤開発のための約10,000㎡の研究開発棟。これからの建設、鉱山現場にインベーションを生み出すための施設として、創造力を刺激する空間づくりや学生が来たいと思う空間づくりが求められました。

世界でトップクラスのシェアを誇るコマツ様のインベーションへの取り組みや、未来の現場への情熱を知れば知るほど、ワクワクしてコンペ開始前にはファンになっていました。しかも、コンペ要綱はこれまで取り組んできたコンペと比べて自由度が高い。必ず良い研究開発棟を設計できると信じ、早速スタイロを使ってスタディ模型を作り始めました。

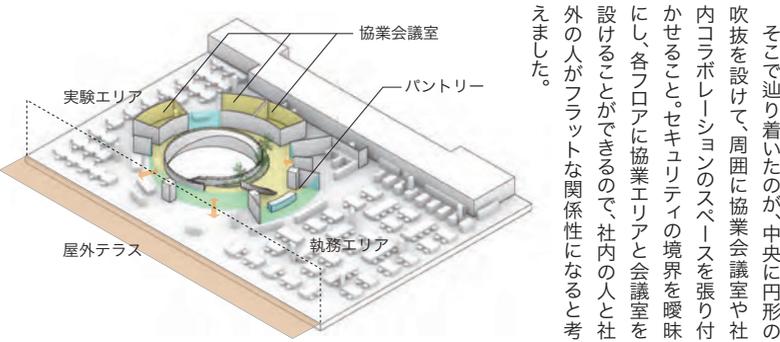
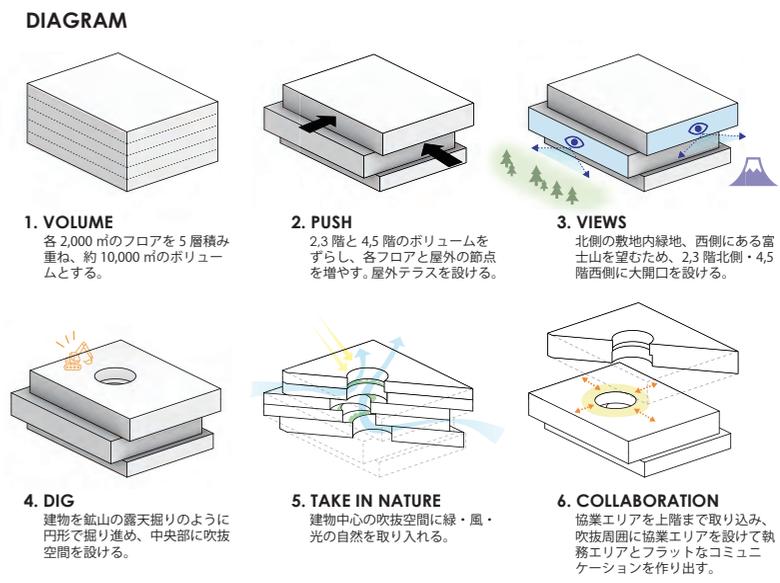
インベーションって何？

コンペ要綱にあった施主要望に「インベーションを發揮させる施設」とありました。インベーションという言葉はよく聞きますが、実際にどういうことなのか？コマツ様のインベーションの定義は、他社と同じなのか？「インベーション」という言葉を掘り下げて考え始めました。そしてとあるコマツ様の講演で「インベーションは技術革新ではなく新しい顧客価値の創造」というキーワードがありました。技術革新のインベーションは社内だけでも可能ですが、価値創造には社会や他社との協業が欠かせません。どのように社会課題を見つけて、協業を行うか」が建物のテーマだーと感じました。

協業を行うときには、あらゆる立場の人が打合に参加し、フラットに意見を言い合うことが大切になります。秘密性の高い開発棟で、社内の人と社外の人々がパリアを感じずにフラットな会話を行うには？よくある吹抜のある研究所から、歩進化するために、様々な吹抜の案を考え、それぞれの特徴を分析していきました。



5階からの見下げ：社内外の人が往來する様子が見える



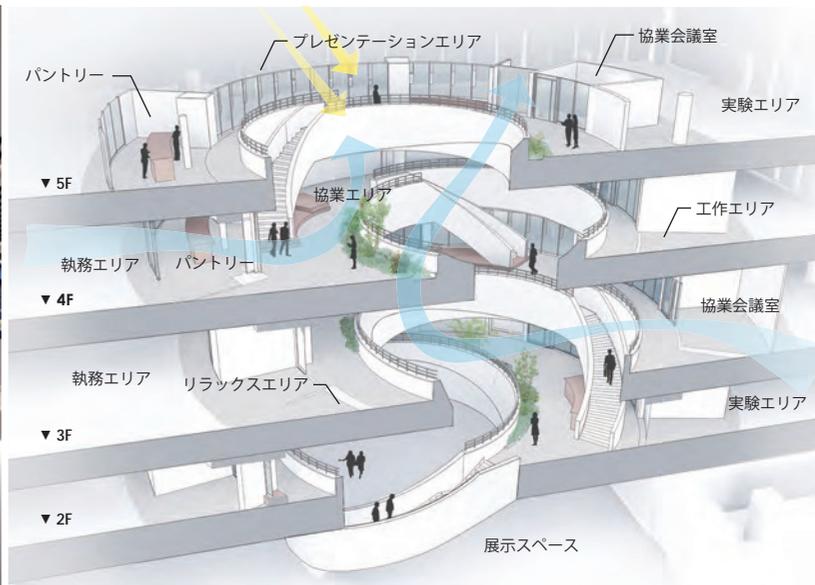
そこで辿り着いたのが、中央に円形の吹抜を設けて、周囲に協業会議室や社内コラボレーションのスペースを張り付かせること。セキュリティの境界を曖昧にし、各フロアに協業エリアと会議室を設けることができるので、社内の人と社外の人々がフラットな関係性になると考えました。

執務エリアと実験エリアに挟まれる中心部に吹抜を設け、社員がアクセスしやすい場所としました。境界部は、孔あきガラスやパンチングパネルなど空気や音を共有できる空間とし、心理的なパリアを感じさせないようにしています。協業エリアに接するセキュリティエリア内の空間は「プレゼンテーションエリアや作業エリアなど、社内の人同士で協業をする場所など、フレキシブルに使える場所として建築・家具の計画をしました。パントリーなど人が集まりやすい場も吹抜周囲に設けることで、社内の人だけでなく、社外の人も出会うきっかけを増やす空間になることを意図しています。

このコンペが実施されたのは、2021年2月。当時はコロナ禍における第二回目の緊急事態宣言が出されており、施主への直接のプレゼンテーションが認められていませんでした。初めてのオンラインプレゼンテーションで、審査側の表情が読み取りづらい中、画面越しにこのインベーションを生み出す空間への意気込みを伝え、勝ち取ることができました。



北西外観



3階協業エリア：窓越しに協業エリアと執務エリアのリラックススペースがつながる



協業会議室



工作エリア：ハンチングパネルに工具や図案を貼ることが可能

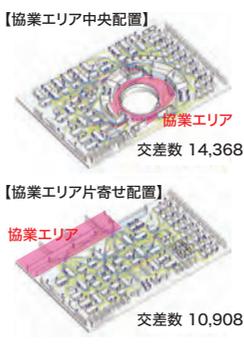


3階協業エリア：会議室や執務室を見通せ、光と風を感じることができる

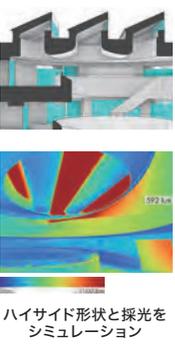
人・光・風が交錯する空間

実際にプロジェクトがスタートした後は、吹抜空間の環境を作りこむことに力を入れていきました。

インベーションを生み出す議論をするためには心地よい空間である必要があります。この建物の吹抜は建物中央部にありますが、外や自然に触れることが重要だと考えました。緑があつて自然光が入り、社外や社内の人の声が混じりあい、そよ風が抜けていく…。コンピュータショナルデザインを使って意匠だけでなく、チーム全体で議論を始めました。まずは、協業エリア位置の妥当性を確認するため、中央配置と片寄せ配置の2通りで人流シミュレーションを行いました。事前にヒアリングした働き方を元に人の動きをプログラムし、協業エリアの位置と人の交錯回数を確認したところ、吹抜の中央配置が適切であることが確認できました。



自然光は、建物の使い勝手上、直達光を避けなければなりません。そのため、北側のみの光をいかに効率良く取り入れられるか、いくつものパターンで検討しました。



風を感じ、緑が揺れる吹抜空間も目指しました。自然光を取り入れるためのハイサイド窓が換気窓の役割も担います。取り入れた外気が執務エリアを通り、吹抜へ抜けていきます。竣工後に吹抜を眺めていたら、下からの心地よい風を感じ、この取り組みに成功したと思いました。

人間が心地よいと感じる空間は、年齢や性別、人種にかかわらず共感を得られるものだと思います。建物完成後に、吹抜を下から見上げ、施工・設計・現業プロジェクトに関わったみんなが笑顔になれたのは、自然を感じて心地よいと思えたからではないでしょうか。

対等なコミュニケーションで、建物の作りこみを行う

このプロジェクトチームでは建物と同様、フラットなコミュニケーションによる「協働」を目指しました。若手が多いチームでしたが、各メンバーが自分の強みを活かしました。設計部内に設置された階段を何度も往来し、構造や設備だけでなく、ワークプレイス、ベテラン陣など様々な人に相談をしました。世代を超えてそれぞれが建物を良くするためのアドバイスをくれる環境が、吹抜の作りこみや執務環境との関係性をブラッシュアップしたと思います。

現場が始まると、短工期で不整形な形を施工する必要があり難易度の高いものでした。現場統括責任者と現場やオンラインで密に会話を交わし、一つ一つ課題をクリアしていきました。設計と現業で良い関係を築けたことは、「実際の建物の出来栄え」に大きく貢献できたと思います。

設計段階も施工段階も図面のやりとりを重ねて建築が出来上がっていきますが、チームのコミュニケーションは不可欠です。図面は手書きCAD・図・BIM…、コミュニケーションは手紙・電話・メール・TV会議…、技術も自動化が進んだり、と時代とともに変化してきましたが、プロジェクトチームの良い関係づくりが建築の完成度に影響することは、これから先も変わらないと思います。

(中野)

ふるさとの求心力をもつ、新たな野球場のカタチ

「ゼロ」からのチャレンジから生まれた開放型ボールパーク



水口 朝博 入社9年目担当 意匠設計

IWATE MORIOKA BALLPARK
いわて盛岡ボールパーク

ふるさとの求心力をもつ野球場

本施設はPFI法に準じたBOT方式で、プロ野球二軍公式戦が開催できる2万人収容の野球場および50m×50mの屋内練習場を盛岡南公園内に新たに整備する事業です。

岩手・盛岡の人たちの憧れの場所の実現、そしてプレーしやすく、観戦して楽しい多目的ボールパークを整備することが求められました。

「ゼロ」からのチャレンジ

2019年に前部署（プロジェクト画部）で提案を行い、当社グループが受注。2020年から基本設計・実施設計を行うために現部署（教育・文化施設設計部）に異動し、2023年3月の竣工まで約4年間本案件に携わりました。

初めて敷地を訪れた際に目にしたのは、周囲を田んぼで囲われ、雑草が生い茂る広大な土地のみで、文字通り何も無い状況でした。さらに、当社初の設計施工・新築スタジアムということもあり、全てが手探りの状態からの始まりでした。野球場をはじめとする屋外スタジアムを国内外三十件近く視察し、観客席の納まりや寸法、バックヤードの仕様、フィールド部分の決まり事など、実測やヒアリングなどを徹底的に行いました。野球場特有の仕様も、コンソーシアム内メンバーの設計事務所（環境デザイン研究所）や体育設備専門業者と打合せを重ね、知見を施設計画に落とし込んでいきました。

デジタルと現地現物による検証

野球場を特徴づける観客席のカラーリングは、盛岡市の花「カキツバタ」、岩手県の花「キリ」、伝統工芸である「南部紫紺染」の紫を基調としたグラデーションカラーとしています。昨今では地図アプリで上空からの姿も多くの目に触れるため、3Dツールを使用して、あらゆる角度

からの見え方について検証しました。

また、マウンドの仕様については、全国の野球場の仕様を調査し、プロ・アマ双方での使用を想定した硬度の設定が可能なら荒木田土に決定しました。最終的な締固め前には本案件のアドバイザーで元プロ野球選手の堀内恒夫さんとマウンドのモックアップでの確認を行い、硬度の設定を行いました。

地域に開かれた

開放型ボールパーク

関係者で打合せを重ねていくと、これまでの地方球場の欠点と思われるものが次第に見えてきました。試合の日しか使われず、閉鎖的であること。試合日だけではなく、日常からコンコースを歩き回ることができ、フィールドでの練習風景や周囲の景観を楽しめる、公園の外構の一部のような野球場をつくりたい、そして、その野球場でのプレーに憧れた子供たちが、野球大国岩手を代表する選手に育ってほしい、その思いをチーム全体で共有しプロジェクトを進めました。

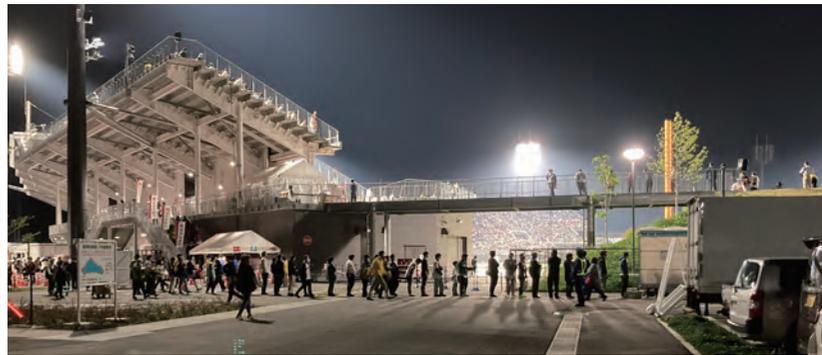
内外野を通し360度回遊できるコンコースを主軸に二万人の動線計画を行いました。三塁側の大階段を含め七か所の階段とスロープでコンコースにアプローチでき、「どこからでも入れる」「ここでも行ける施設運営に対して柔軟性もち、安全・安心な計画としています。コンコースは日常から歩廊の一部として利用可能で、外側には岩手山をはじめとする東北の山脈内側にはフィールドを望めます。

4年間の思い、

プロ野球開催で花開く

2023年3月末に建物が竣工し、同年5月に念願のプロ野球公式戦が開催されました。観客席が次第に埋まってきた、試合開始時には満席となりました。関係者全員の思いを乗せた野球場の一步が踏み出された瞬間です。

その場にいる全員が熱狂し、笑顔になる姿を見て、スポーツ施設をつくる醍醐味を強く感じました。今後も運営面でのチャレンジが続きますが、盛岡の土地で愛される野球場に育っていくことを願っています。（水口）



球場内外の景色を繋ぐセンターボタリ

マウンドの土の硬度の検証

日常的に地域に開放された回遊型コンコース



北東北のシンボル、岩手山を借景とし、公園地形と一体となったボールパーク

地域の森が育てた木の構えを魅せる

— 生保・銀行業界初の耐火木造の試み —



笹崎 慎 入社18年目担当 意匠設計

TD TERRACE UTSUNOMIYA
TDテラス宇都宮

シミズの木質でつくる

宇都宮市大通りを南側に望む敷地。中心部に平坦地が広がり「自転車のまち」といわれる街に珍しい坂道の途中に、第一生命保険(本社東京都)栃木支社ビルと東邦銀行(本店福島市)の駐車場があり、通りにはトチノキが立ち並んでいました。事業者から「地方創生・SDGsへの貢献として、地場産材を用いた木質建築を」とご依頼を頂きました。二つの事業者が、「木質建築」を契機に結びついたプロジェクトです。

同時期に、シミズの木質建築の嚆矢である、「アネシス茶屋ヶ坂」の施工経過がメディアに取り上げられ、都市木造として注目を受けていました。

生保・銀行業界初の試み

1階に東邦銀行の店舗、2〜4階に第一生命保険の栃木拠点が入居する計画です。都市部での建物に必要な耐火性能を有した耐火木造の建設は、生命保険・銀行業界初の試みとなりました。金融機関として地方創生や地域活性化に取り組みクライアントの要請に応え、地産地消にこだわり、「福島のカラマツで構え・栃木のスギで包む」福島の工場づくり・栃木の職人が組み上げる」地域の森育ちの木の構えを街に魅せる」といったコンセプトを掲げました。

地域資源を活かす試み

地場産材の活用に限らず、ヒトを含めた地域資源を活かすことも大切だと考えました。社内外の関係者で組成した「木質分科会」では、材料調達・品質確保・施工性改善に留まらず、地域のヒトと結びつけた施工について議論しました。成果として、福島の集成材メーカーの尽力により、プロジェクトに馴染み深い栃木県八溝山系のスギをCLT床版・内装材として、福島県南会津産のカラマツを柱・梁の芯材として調達することができました。当社保有技術である耐



トチノキ並木に木の構えを魅せる



柱の建方状況



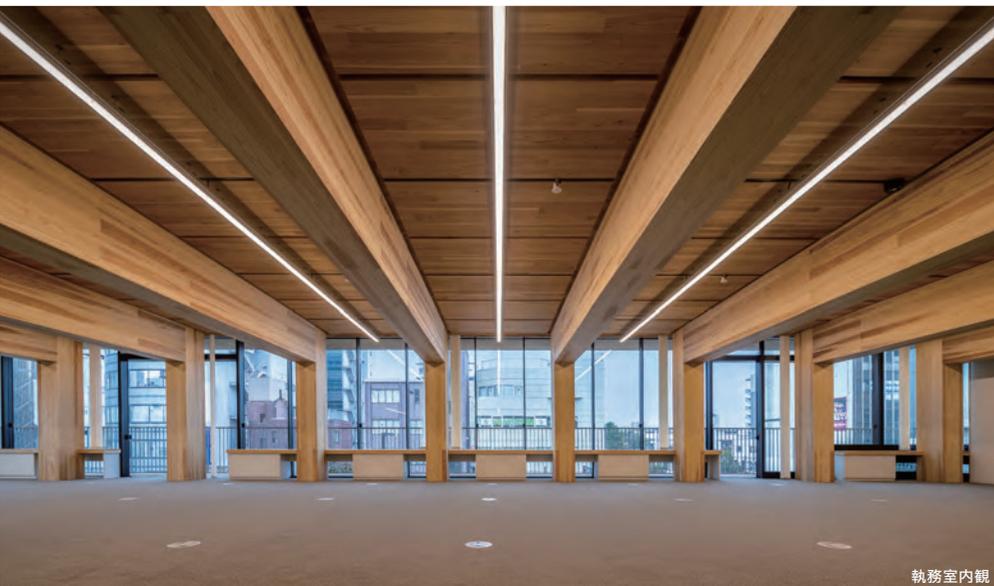
梁の建方状況



CLTパネルの設置状況



仮囲いアート



執務室内観

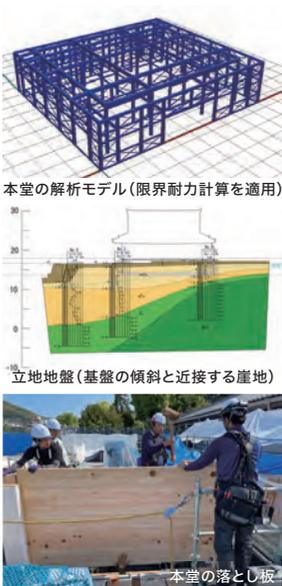


木質バルコニー

地域経済に貢献する事業者の建物であるからこそ、地産地消型のサプライチェーンにこだわることが関係者間で共有されたビジョンでした。この思いを街に分かりやすく伝えたいと考えました。堅牢なRCラーメン架構から大通りに向かって木を架ける構造計画。木架構の間にCLTパネルを落とし込み天井とする内部空間、内部空間を縁取る木質バルコニー、これらによって、坂道から仰ぎ見る軒のファサードとトチノキ並木とともに建つ新たな景色を提供できたのではと思っています。

早朝の大通りにて

引渡し間際、大通りの往來を避け早朝に竣工写真を撮影していました。共に担当した現場主任と立ち会っている、通りを散歩する女性に声をかけられました。「毎朝工事の様子を見ていた、木の香りが外にもして、とても良い建物になったね。おめでとう。ありがとう。」街の方に、私たちの思いが伝わっていることが実感できた嬉しい出来事でした。(笹崎)



KAIUNZAN KOTAJI GARAN
海雲山 皓台寺 伽藍再建

国際的な長崎の皓台寺

皓台寺は長崎の眼鏡橋からほど近い曹洞宗の寺院で長崎三十三寺院の一つで坐禅の修行を行う専門僧堂もありません。千六八八年に創建された由緒ある寺院で国際的に開かれており世界中から修行僧が集まります。また境内には昭和二十五年に開園した皓台寺幼稚園を併設し、仏教的情操教育にも力を入れていきます。既存の本堂・僧堂・幼稚園の老朽化に伴い、この度開創四百年事業として伽藍再建を行うこととなりました。(青木)

子と孫たちに誇れる伽藍を

地上部はすべて木造で瓦ぶき、周辺環境と調和した禅寺らしい伽藍をご提案しました。本堂は総檜造りで、当社設計施工の新築伝統木造建築としては最大級で、メンテナンスを行えば五百年以上の長寿命が可能です。国際的な修行道場となる僧堂では、各自が坐禅を行う場所である「単」の寸法を外国人僧侶の体格にも合うよう改良し、ミリ単位で調整を行いました。幼稚園は境内の景観に同じ木造の園舎で開放的で、明るく風通しも良く、木の香りがする保育室としました。(池内)



伝統建築の本堂

本堂は伝統工法による木造建築です。柱と横架材(貫・桁など)からなる軸組構法で接合部は金物を用いずに仕口や継手で組み立てています。壁は落とし板と力貫をタボや楔を介して積層しています。伝統建築というく、文化財に代表される古い建物を思い浮かべますが、日本の気候・風土のなかで醸成・継承されてきた技法を選択して発展させ、新築の木造建物に適用しています。各要素の性能を実験等に基づいて定量化し、限界耐力計算という手法で精査することで、高い変形性能を活かした開放的な本堂の構造安全性を確認しています。なお、山裾に立地する当案件では、地表近くにせまる傾斜した岩盤層や、近接する崖地による地震増幅の影響を詳細に解析する必要がありますがありました。現代の技術を駆使して伝統木造を実現するために、構造技術者の役割は今後更に広がると思います。(木村・服部)

伝統建築のデジタル化

社寺というと古臭いイメージを持たれる方も多いと思いますが、本案件では、若い宮大工や生産技術本部の方と一緒に、「Digital 宮大工」という伝統建築をデジタル化するワーキンググループを発足しました。私も3次元キャドやドローン、AR拡張現実、CG動画作成などができるようになり、お客様や現場への説明で用いてデザインや仕様の迅速な決定につなげることができました。竣工時には当社開発アプリで建物のデジタル取扱説明書「デジタル360」を納品し、お客様から好評を得ました。今後も伝統や手仕事とデジタルの両方の良いところを融合し、新たな価値やソリューションをつくっていかねばと思います。(池内)

海雲山 皓台寺 伽藍再建

— 伝統建築を Digital 宮大工とともに —

地域産業を活用した学生・地域・企業の学び舎

—CLTのさらなる可能性を追求したモノづくり—



OKAYAMA VISIONARY COMMONS (OUC)
岡山大学共創共創コモンズ (OUC: オークス)

岡山大学共創コモンズ(OUC: オークス)はキャンパス東門の正面に佇む、木の温かみを感じられる地上2階建の木造校舎です。

「地域の産業活性化のための新たな交流と共創の場」をコンセプトに、学生が学びながら地域や企業との協業を充実させることを目的に計画されました。当社は設計施工入札にて、隈研吾先生の基本計画案をもとに、教育施設・木質建築に関する知見や実績をアピールし、プロジェクトを入手しました。校舎自体も教材となる学び舎の実現に、岡山山の地域産業であるCLTを活用しその活用拡大に向けた可能性の追求に、地球環境にやさしい建築の実現をテーマに、岡山大学、隈事務所、清水建設が一体となって、計画の実現に向けて取り組みました。(長澤)

当社を代表する

木質建築の実現に向けて

設計がスタートした2021年は、木質建築推進部が発足し、その一員として、本計画を当社木質建築を代表するような作品の一つにしたいと考えていました。当初のCLTパネル工法による建物だったため、様々な知見を吸収しながら設計を進めたことが印象に残っています。また、これまでの経験を発展させながら社内外の多くの関係者と協働し、木質建築の一層の普及に向けて、その課題解決に取り組みました。

例えば、構造体となるCLTパネルの耐久性の向上に向けて、外装はCLTを現わしとせず、透湿防水シート、通気胴縁の上に、スギラミナ材で仕上げる外壁構成としています。施工手順を検討した上でスギラミナ材にも木材保護塗料を塗布し、木質外装の耐久性・耐変色性を向上させています。また、スギラミナ材で仕上げる外壁構成を活かして、モックアップで検証することで、サッシの存在感を感じさせないすっきりとした納まりを実現しました。(長澤)

技術開発と粘り強い検討による特徴的な木質空間の実現

計画の実現に向けてCLTパネル工法において、大スパンを構成する技術、各階で異なるCLTパネル配置を実現する技術を開発に開発・適用しました。いずれも汎用性のある技術のため、CLTの広範な活用に向けて貢献できたと感じています。ガラス大庇や講義室の梁に目が奪われがちで、主架構の計画と構造解析には多くの時間を費やしました。このディテールに複数要素が絡み合うため、何度も繰り返し考えることで少しずつ形が見えてきて、特徴的な作品に仕上がったと感じています。(増田・渡部)

床吹出空調を採用し、快適で美しい木質空間を実現

入社後、初めて担当した案件だったため、設備設計の基本的な進め方を学ぶことに加えて、高いデザイン性が求められる空間に適した設備の検討に苦労しました。2階講義室は、温度や気流分布のシミュレーションを行い、機器や配管が露出しない床吹出空調としました。居住域の快適性と木質を活かした空間を両立することができました。(岡笠)

特徴的なCLT大梁を照らし出す照明を提案し実現

2階の照明計画は、隈事務所要望の照明器具光源を見せずに必要照度を確保するという課題に取り組みました。建築の目隠しパネル寸法や照明器具取付高さによる照度シミュレーションを行い、必要照度を確保した空間を創り出すことができました。また、建築・構造と調整し配管や配線が極力見えないように心掛けました。(山形)

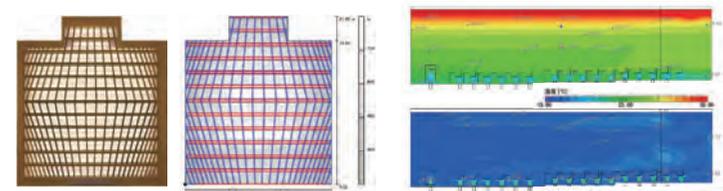
設計・施工段階では学生や地域の方を対象とした勉強会や現場見学会を継続的に実施するなど、積極的な情報発信を行いました。現在、竣工から数か月が経ち、建物が活き活きと活用され始めています。建物を利用する学生や地域・企業の方々にCLTや木質建築の良さを感じてもらえることを願っています。(長澤)



講義室内観



約22mのCLT大梁の地組状況



講義室照度分布シミュレーション

講義室温度分布・気流シミュレーション



南西側外観



『新しい都市景観』を実現するために

―都市との関係性を深める前傾する波形のガラスカーテンウォール―



HAKATA FD BUSINESS CENTER
博多 FD ビジネスセンター

『新しい都市景観』の実現

本建物の位置する綱場・呉服町界隈は、かつて商業も栄えた寺町です。現在の商業・業務の中心地の天神地区と差別化を図り、如何に独自の魅力を発揮できるかがプロジェクトのテーマでした。前面大通りの明治通りの沿道活性化のため、緑化のない既存敷地、歩道のない敷地、両側の道路に対して空地を設け、植栽・ベンチ等を整備することで、生活環境、市街地環境、生態系の改善、都市景観に寄与することが望まれました。

事業性・機能性・意匠性を兼ね備えた計画の具現化

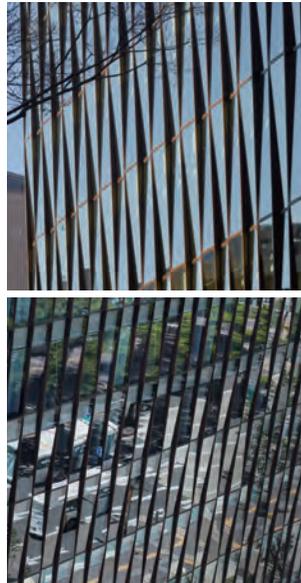
事業としては公開空地整備による容積増しを取得、公開空地を確保した上で、外装を傾斜させ、眺望の良い上階に行くに従い平面を拡張、室内環境・都市との関係性を徐々に変化させ、分割対応と併せて貸室を多様化させました。

外構は生態系の保全に配慮し、九州にゆかりのある在来種による植栽(各種)によって緑豊かな公開空地を確保し、行き交う人々の動線・視線と植栽が交錯するような計画としました。四季を通じて花が咲く植栽は高度差をつけて人々の視線に近づけ、様々な形のベンチの配置と合わせ抑揚のある空間を生み出し、市街地に憩いとくつろぎの場を提供しています。

前傾したガラスカーテンウォールと植栽等により規定された空間は、建築と都市景観・市街地環境との新しい関係性を生み出しています。

博多織をモチーフとした波形のガラスカーテンウォール

外装は博多織をモチーフとした波形のカーテンウォールを前傾させ、縦枠は頂部に向かい内方方向でも傾斜度を変えました。凹凸あるガラス面に反射する光と陰翳、街路の映り込みが刻一刻と変化する新しい風景を創り出しています。



ピロティとは異なる手法を用いて建物外周部に公開空地を整備

『賑わいの空間演出』と『安全性の確保』を両立する外構

外構は歩道と一体的にすることで、歩行者が自由に通行出来るように計画されています。そのため外構照明のコンセプトは『賑わいの空間演出』と『安全性の確保』の2点です。

『賑わいの空間演出』については、ポールスポットライトやアップライトなど空間各所をリズムカルに照らすことで、光だまりが利用者にやさしさを与える空間としました。また、演出照明として蛍の飛翔をイメージした揺らぐ「煌めき照明」を設置することで、さらに雰囲気向上を図ることが出来ました。

一方、『安全性の確保』に関しては、総合設計制度の審査が厳しくとも苦労しました。総合設計制度に提出する資料では、照明によって適正照度が確保されているだけではなく、安全性が確実に確保出来ているということが分かるよう、検討を行いました。

照度計算はDALIにて器具位置や植栽情報を正しく反映し、適正照度が確認されていることを計算で確認するだけでなく、現地実測を行い、安全性の確保を裏付ける資料を添付し行政に提出しました。総合設計の決済がおりるまではなかなか落ち着かなかったのですが、今となってはとてもいい経験をする事が出来たと思います。(森谷)

内外空間のつながりを生む

連続するモチーフのデザイン

内装は外部と共通のデザインコードにより床・壁・天井の空間要素を統合しました。床は手仕上げの現場打ち材料の磨き仕上げと内外で連続する真鍮目地、内壁は外壁の波形をモチーフとした木ルーバーの大壁、柱は有機的な形状の石柱、天井は床面同様の三角のパターンを光を乱反射する金属の仕上げで展開しています。

柔と剛が対比・融合した緊張感を生み出し、変化する陰翳が光と時間のうつろいを演出する空間としています。



全23種の植栽は四季の変化を感じる空間を創り出す

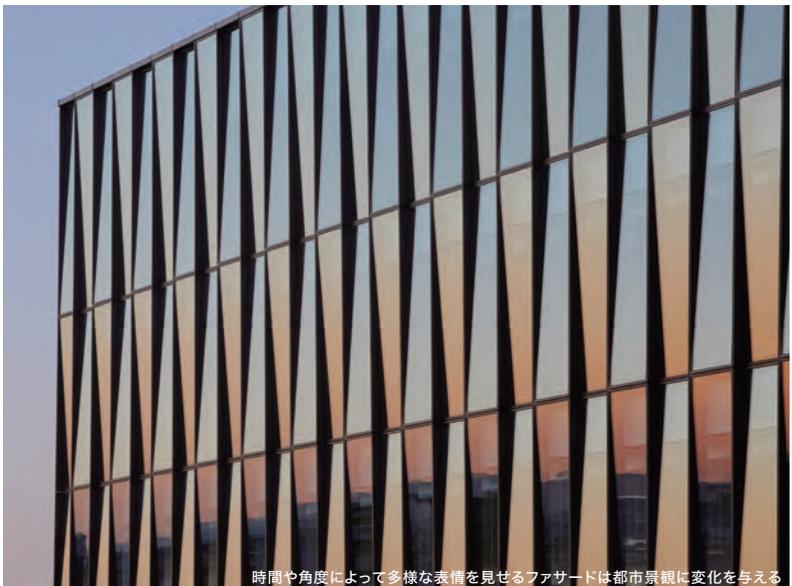
人々の動線・視線と交錯するように九州にゆかりのある植栽を配置



ランドスケープの背景として前傾する外壁と角度を持った植栽樹が外部空間を規定することで一体感を生み出した



照明の強弱、陰翳に変化をつけて空間を演出



時間や角度によって多様な表情を見せるファサードは都市景観に変化を与える

エントランスの明暗

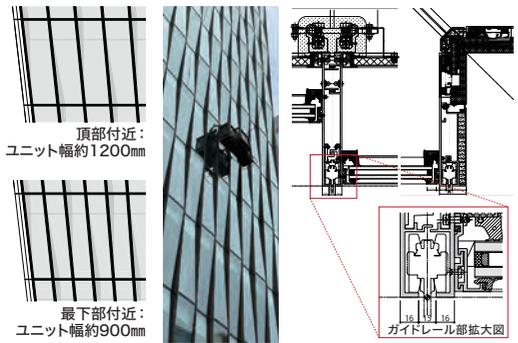
エントランスの照明は、間接照明でルーバー壁を照らすことで全体の明るさを確保しつつ、天井面のユニバーサルダウンライトで、あえて床の明暗を強調し、利用者の動線やフアンチャーなどを強調しました。

特にユニバーサルダウンライトによる床の明暗調整には時間がかかりました。動線上を明るくするか暗くするかを施工と一個一個確認しながら位置調整をしていきました。タイムスケジュールによって違った光の演出をしているので、見る時間帯による雰囲気の違いも楽しめます。(株谷)

デザインを下支えする

面内・面外方向の傾斜に追従する 「コンクリートの開発」

前傾したカーテンウォールのメンテナンス清掃・ガラス交換にゴンドラの設置は必須でした。しかしながら、上部から作業かごが見えなくなること、面外方向への荷重がかかること、縦枠の幅が頂部と下部で異なる部分があること、取り付け面によって角度が異なることなど、クリアしなければならぬ課題は山積みでした。これらの課題を生産技術本部、現業設計メーカーで一つ一つ丁寧にクリアし、カーテンウォールと一体化したガイドレール、面内・面外方向の変化に追従するゴンドラガイドローラーの開発等を通じ、意匠・性能・品質・運用が融合した外装を実現しました。



上階が外側にせり出す

デザイン実現に向けて

本建物は、上階ほど平面が広がる特徴的な形状で、最上階は1階に対して最大約5.7mせり出しています。構造的には、南側・西側の柱を最大7度傾斜させ、平面的に拡張した上階でも、貸室の中央に柱が現れない計画としました。また、外周部の柱は円形鋼管の中にコンクリートを充填し、剛性を確保しつつ見え方にも配慮しています。

2方向斜め柱となる南西角の柱は、3Dモデルを用いた製作図の作成を行うとともに、製品実寸法を描いたフィルムを用いた現寸検査、組立検査を実施することで製作精度を確保出来るよう配慮しました。

斜めの外装が上階にせり出すために外装支持部の納まりが厳しく、ファブ・外装メーカーと何度も打合せを繰り返しました。

エントランスのカーテンウォールは、鉄骨のフラットバー下地材を仕上げとして兼用することで間柱のないスリムな見たいを実現しています。(坂口)

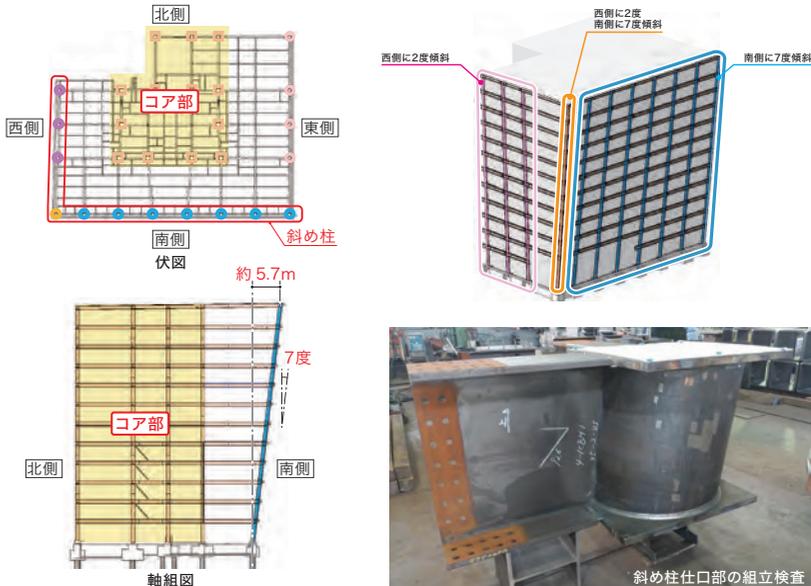
斜め柱は、上層の建方が進み荷重が大きくなると、傾斜している側にさらに倒れようとするため、積層工法で建方を行うと精度確保が困難となることが考えられました。また、斜め柱が南側と西側の2面にあるため、建物に平面的なねじれが生じ、さらに精度が悪化する懸念もありました。

そこで、鉄骨建方順序の検討を行い、柱に傾斜のないコア部の建方を先行して固めることで、斜め柱の倒れを抑制することとしました。また、外装材については、斜め柱の倒れにより精度が悪化した場合を想定して、ファスナーの調整代を決定しました。結果として、実際の変形は想定よりも小さく納まっており、建方・外装材の取付まで無事に終えることが出来ました。(齋藤)

博多・天神エリアの中間地点に構える新しいハイグレードオフィスということにこだわりを込めました。難しい納まりを実現すべく、お客様と打合せを重ね設計を進めることが出来たことに感謝いたします。



貸室内の斜め柱



斜め柱仕口部の組立検査

長期プロジェクトを推し進める

— 関係者と協力し、困難な課題を解決 —



菊田 大典 入社1年目担当 意匠設計

MEGURO INCINERATION PLANT
目黒清掃工場

案件概要

本案件は、恵比寿駅にほど近い、目黒川に面した清掃工場の建替計画です。入札から設計・解体・竣工まで8年を有した長期プロジェクトとなりました。プラントの老朽化に伴い、目黒清掃工場は約20年ぶりの建替えとなります。敷地の近隣には、住宅地や小学校が立ち並ぶ場所であることから「地域に親しまれる清掃工場を目指し、建築・ランドスケープのデザインを行いました。」

設計のポイント

清掃工場は都市に必要不可欠なインフラ施設ではありますが、ごみの回収・焼却・洗煙・汚水処理・発電などの多くのプラント設備を覆うため、建物は巨大化し、ヒューマンスケールを超え、圧迫感のある無機質なデザインとなりがちです。この計画では「人と街と共生する清掃工場」のコンセプトをお施主様と共有することで、新たな清掃工場のあり方を模索しました。「人と「街」に対して、「清掃工場がどう寄り添えるか」をデザインの根源に据えて計画を行いました。」

76

vol.82



公開緑地からみた清掃工場

「街に寄り添う」

清掃工場の巨大なボリュームを低減するため、建物の半分を地下に埋めることで、建物の高さを抑えました。また地上部の建物は積極的に緑化し、緑に覆われた圧迫感の少ない建物としました。緑が少ない都市環境の中で、ヒートアイランドの軽減に寄与しています。

「人に寄り添う」

敷地の約3分の1を公開緑地として、近隣住民に開放しています。

この公開緑地は、保育園の園庭として、また地域のラジオ体操場や親子の遊び場などとして、世代を超えた地域の交流の場となっています。

公開緑地側から見た鳥瞰



担当者の役割

この案件は設計期間2年、施工期間6年にもわたる長期の計画であること、プラントエンジニアリングとの共同企業体※だったこともあり、関係者が多岐にわたりました。またお施主様も含め、担当者的な変更もあり、引継ぎを繰り返しながら進めていきました。私は2017年度のキャリア採用のため、入社して初めての担当プロジェクトとなり、未解決の箇所や、新たに設計する必要が生じた箇所の対応を行いました。プラントエンジニアリングとの調整にあたっては、普段みられないプラント図を読み込み、建築との取合い、建築側の設備や法的な内容をチェックしました。またBIMを活用し、建築、設備、電気、プラントの情報をすべて入れ込み、設備の干渉からメンテナンスのしやすさ、施工性までを徹底的に議論し、検討していきました。その甲斐あって、手戻りの少ない施工が実現できたと思っています。

※共同企業体：複数の建設企業が、一つの建設工事を行う組織体のこと

長期プロジェクトならではの

取り組み

プロジェクトが長期にわたるため、地域住民に施設への愛着を持ってもらおうと、近隣の小学生と一緒に「どんぐりの木を育てようプロジェクト」を提案しました。お施主様やプラント施工者にもご賛同、ご参加いただき、地域の人々と交流を行うことができました。

1年生の時に、どんぐりの実の採取・植付・苗木作りを行い、その苗木を5年生になるまで、丁寧に育てていただきました。育ったクヌギの木は記念樹として公園に植樹しました。この長期のプロジェクトを通じて、様々な地域の人々にご参加いただき、時間をかけて「地域に親しまれる清掃工場」が実現したのではないかと思います。(菊田)



目黒川からみた清掃工場



どんぐり苗木の植樹

どんぐりの実の採取

77

vol.82

21世紀の出島に建つホテル

—人が建築をつくる、建築が人を豊かにさせる—



福西 泰博 入社7年目担当 意匠設計



藤井 雅之 入社6年目担当 構造設計

HILTON NAGASAKI
ヒルトン長崎

『21世紀の出島』
かつて出島を世界との玄関口として、『和華蘭』という西洋・東洋・日本の文化が織り交ざり、独特の文化を発展させることで栄えた長崎。本プロジェクトは西九州新幹線の開通に伴うJR長崎新駅西口の移設に伴い、新しい交流の場を生み出す『21世紀の出島』として計画されました。

計画地は日本三大夜景のひとつである稲佐山と立山を東西に望む平地に位置しており、市街地の中心部にありながら浦上川や長崎港を望むことができる好立地。本ホテルでは、この場所のポテンシャルを生かし、豊かな長崎の文化や歴史、ホテル全体にちりばめた地元の工芸を有した空間が、最先端のサービスを提供するヒルトンブランドと織り交ざることで、『21世紀の出島』にふさわしい、ここでしかできない特別な時間を過ごせるホテルとなることを目指しました。

先輩たちから学ぶ日々

入社7年目に本プロジェクトに参画し、初めての外資系ホテルの設計を担当しました。設計当初は分からないことも多く、シミズのホテルをつくってきた先輩たちの図面を参考書のように見たり、社内外の方々から指導いただきながらプランや納まり、仕様等を学び、設計を進めていきました。主担当者として図面作成から客先や関係者との調整業務、打合せ等すべてに関われたことで、大きく成長できたように感じています。

ホテルに関わる人の多さ

ホテルには様々な用途が集約し、その数の分だけ関わる人も多岐にわたります。事業者、ホテルブランド、ホテル運営者、PM、インテリアデザイナー、厨房コンサル、照明コンサル、音響コンサル、FEE業者、アート、サインデザイナー、OSE業者の他、今回は長崎MICE事業の一環としてホテル誘致がなされたため、隣棟設計者、施工者が存在し、その調整業務の多さに驚きました。スケジュール管理や業務管理は言うまでもなく、譲れるところ、譲れないところの見極めと相手の気持ちになって設計をすること、コミュニケーションの重要性を改めて感じた案件となりました。



外装サンプルの施工確認

『航海』

ロビー空間は、海のアートと金の受付、木の屏風等、各々異なる雰囲気を持しつつ、唐紙天井によって統一されたひとつの空間となっています。

最上部がチャペルの入り口に位置する、三層吹抜空間に設置した大階段は舟の骨格をモチーフとしたアーチ形状とし、ゲストが『航海』するように各エリアとつながります。この空間はホテルの顔となる象徴的な空間であり、カップルを囲む祝福の場所、集合写真の場所等、様々なシーンの舞台へと変貌していきます。

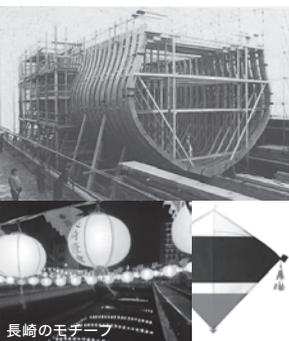
チャペルは舟や波のカーブを教会のアーチに見立てて極力ミナルに光と形で表現し、スパエリアへは長い照明の糸をたどると巨大な長崎の八塔(カイト)が迎え入れてくれます。客室からは街並みや行き交う鉄道・自然などの風景を楽しむことができ、豪華客船の船内のようなインテリアとなっています。



唐紙天井と海の碧のアートのあるロビー



舟の骨格をイメージした大階段



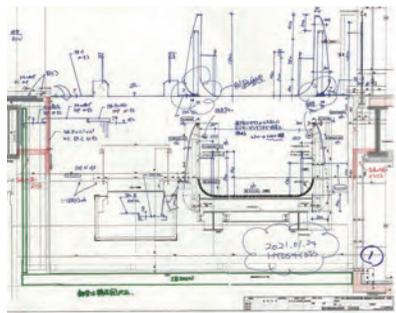
長崎のモチーフ



ゲストを迎えるレセプション



光と曲線のチャペル



大階段検討スケッチ

初めての経験でもプロとして

「二つ目の壁は、多くの関係者がすべてホテルのプロであり、自らもプロとして良い悪いを判断し、それを判断しなければいけないことでした。」

FOHやBOH、FFE、OSE、ADR等の専門用語を理解し当たり前に見えるようになること、ホテルの規模やグレードに合った空間の大きさや仕様とはどういうものか、事例を参照したり、経験豊富な方々にヒヤリングしたりしながら覚えていきました。

ハイグレードのホテルでは水栓金物や建具金物等の細部までこだわり、製品を選んでいます。こういったことも知っていないと会話ができないという難しさがありました。

迅速なもの決めるために

二つ目の壁は、ハイグレードホテルとしての妥協なきもの決め、ディテールの決定を時間が無い中で遅延なく、後戻りなく進めていくことでした。

検討や承認に時間がかかる部位をいち早く見極め、構造設計者とそれぞれの設計範囲を超えて懸念事項を出し合いながら、デザイナーや他者設計である設備設計との調整、PM会社とのコスト調整による変更対応に迅速に対応していくことで、もの決りを遅延なくかつ各所合意を取りながら進めていきました。

意識したことは、極力打合せ中にスケッチを描き、検討方針をその場で示すこと。遠方での仕事だったので、関係者全員が集まれる機会を無駄にせず、遠回りせず二つのゴールに向かって進めたと感じています。

愛されるホテルづくり

今回のプロジェクトで多くの人脈をつくれたことは、自らにとって大きな財産になったと感じています。同時に人が建築をつくる、建築が人を豊かな気持ちにさせるということを再認識できました。

長崎駅直結で完成したヒルトン長崎では、MICE施設の附帯施設としてビジネスでの利用、軍艦島の世界遺産登録やランタンフェスティバル等の観光での利用、地元の方々が少し特別な日において食事を取ったり、あるいはここで結婚式をあげ、人生の新たな航海を始める人もいるかと思えます。そのような人々に特別な時間を過ごしていただき、みんなに愛されるホテルとなることを期待しています。(福西・藤井)



スタンダードルーム



長崎新駅を望むコーナールーム



波佐見焼アートのあるクラブラウンジ



ハタ(カイト)と光の糸のコリドー

産業と町民の生活が交じり合う、新しい町の中心

— 産業創出と賑わいづくりを先導する産業交流施設を目指して —



大熊町産業交流施設

産業と生活が交じり合う場所

大熊町産業交流施設は、福島第一原発の最寄駅である大野駅西地区の復興を先導する施設として、2022年6月にプロポーザルが行われました。約11年間続いた避難指示が解除され、これから本格的に始まる駅西地区の復興に向けて、町の未来を支える産業創出の施設としてだけでなく、町民や来訪者の方々にも開かれ、産業と生活が交わるきっかけを盛り込んだ提案が高く評価され、入手することができました。(松井)

大熊町への深い理解

今回の提案が評価された要因の一つに、対象地域を含む大野駅西地区エリアの開発事業に対して、入念な検討により町への理解を深めたことがあると思います。入念な検討は、大熊町の将来やまちづくりについて継続的な関わりを持ちたいという、想いとなり、町の現状や将来像を深く理解した提案に繋がったと思います。

竣工後のエリアマネジメント活動を想定し、地元の方々の考えを取り入れた提案をしたことも、今回の提案の強みになりました。(小竹)

町の将来を見据えた3つの提案

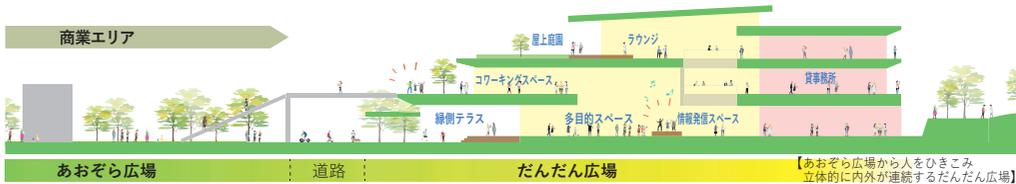
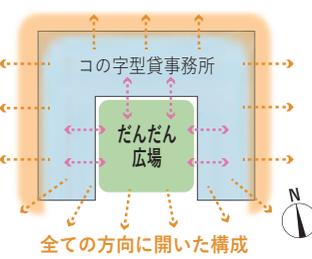
本案件で特徴的なのは、竣工後も周辺エリアの段階的な施設整備が予定されていることでした。周辺整備が進むにつれ、産業交流施設に求められる役割も変化していくことを念頭に、だんだん広場・ぐるぐるバルコニー・縁側テラスと名付けた豊かな共用スペースを町民・施設利用者の交じり合う場として重点的に提案しました。南面に広場や商業エリアが計画予定であったことから特に南面へ開かれた「だんだん広場」「縁側テラス」を提案。お祭りやスポーツ大会といった震災前に盛んであった町の行事の開催も可能なスペースとして想定し広



だんだん広場
1階多目的スペース、情報発信スペース、2階コワーキングスペース、3階ラウンジや屋上庭園等が立体的につながる

ぐるぐるバルコニー
外部からの賑わいを連続させる回遊動線誰でも利用でき、入居企業の様子が見える

縁側テラス
屋内外をつなぎ、広場、商業との往来を生むピロティ空間。広場と一体でお祭りやイベント利用を想定



【あおぞら広場から人をひきこみ立体的に内外が連続するだんだん広場】

場との一体利用を提案しました。また、ぐるぐるバルコニーは入居者の憩いの場となるだけでなく、誰でも歩くことができることで、窓越しに互いの活動が見え、産業と町民が触れ合うきっかけとなる場です。

段階的に整備が進む状況のなかで、産業交流施設の豊かな共用部が、町にまだ無い機能を補完し、町民・入居者・来訪者全ての人が自分の居場所と感じられるように開かれていくことが重要だと考え、提案をまとめました。(南野)

審査員の目を見て伝える

プレゼンテーション

今回はプレゼンテーションも担当。町への復興の思いを述べる営業、思いをどう建築に反映したかを設計がプレゼンし、最後に安全で確実な工事について施工の各主担当が説明しました。提案書提出後プレゼンテーションまでの三週間は、社内のチームで何を重点的に伝えたいか、議論と練習を尽くして当日を迎えることができました。緊張もありましたが、プレゼンテーションでは私らしく、難しい言葉や堅い言葉は使わずに、チームの提案が少しでも審査員の方々の心に残るよう一人ひとりの目を見て話すことを心がけました。(南野)

チームで入手する

プロポーザルのやりがい

今回のコンペでは特に、設計だけでなく開発計画部や営業・施工・支店スタッフ等関係者での議論を尽くして取り組むことができたと思います。ペタンも若手もそれぞれの熱い意見を持って話し、何がだんだん広場にとってベストな提案か考えた濃い時間があったからこそ、プレゼンテーションにも自信を持って落ち着いて望むことができたのだと思います。

入手後すぐに設計はスタートし、2023年10月には着工を迎えます。今は施主である大熊町、施設を運営する指定管理予定者の方々とも議論を続け、日々前進している所です。引続き町の方の声を計画に反映しながら、より良い産業交流施設を目指して行きたいと思えます。(南野)

『QOL向上を目指すまちづくり』を実現するために
— 既存の資源を活用しながらコミュニケーションをデザインする —



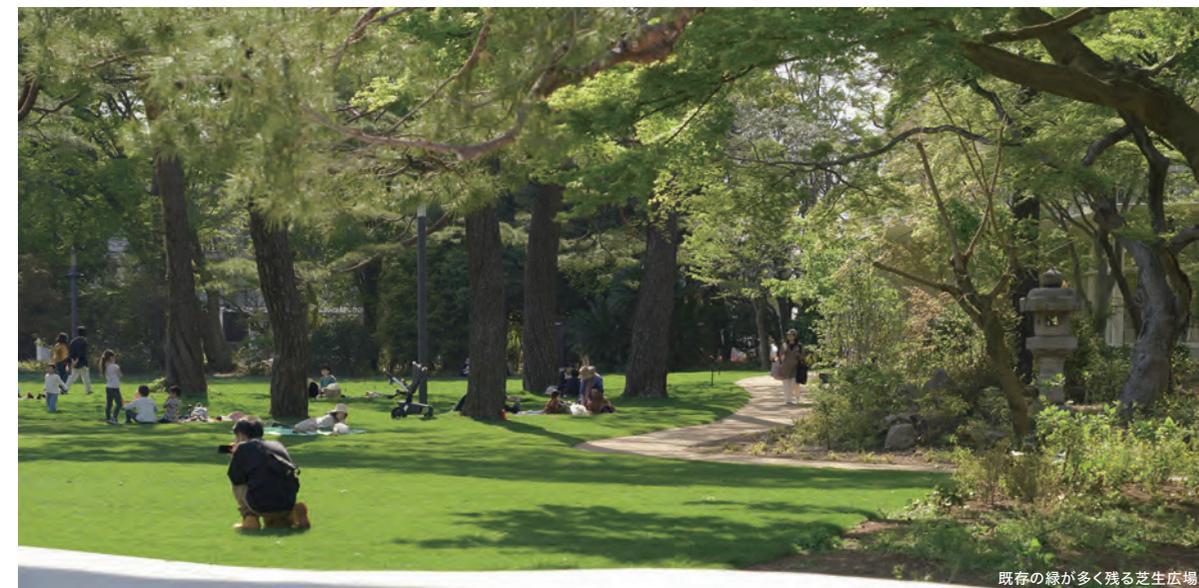
SETAGAYA Qs-GARDEN
世田谷キューズガーデン

7年の構想を経て実現したまち
SETAGAYA Qs-GARDEN
本プロジェクトは、第一生命が世田谷区烏山に保有する約0.9haの土地を、健康増進、高齢者支援、地域活性化、子ども・教育、スポーツ振興、安全・防災、環境配慮などさまざまなコンテンツを通して、地域の方々のQOL向上を目指すまちへとリモデルするプロジェクトです。

本敷地は、富山北前船の船主で名をはせた富豪馬場氏の邸宅の光風亭設計（吉田鉄郎）と周辺緑地による広大な敷地を、1954年に第一生命が譲り受けたもので、半世紀以上にわたり、第一生命の非公開の福利厚生施設として活用されてきました。

敷地内には、昭和61年に田園調布から移築した蒼梧記念館（第一生命創業者矢野恒太郎・設計：松本與作）、社員寮などの建築物、スポーツ施設としては陸上トラック、テニスコート、野球場などを抱え、前所有者から引き継いだ緑地も継続的に手が加えられ、自生樹木と人工林による豊かな森が形成され、維持されてきました。

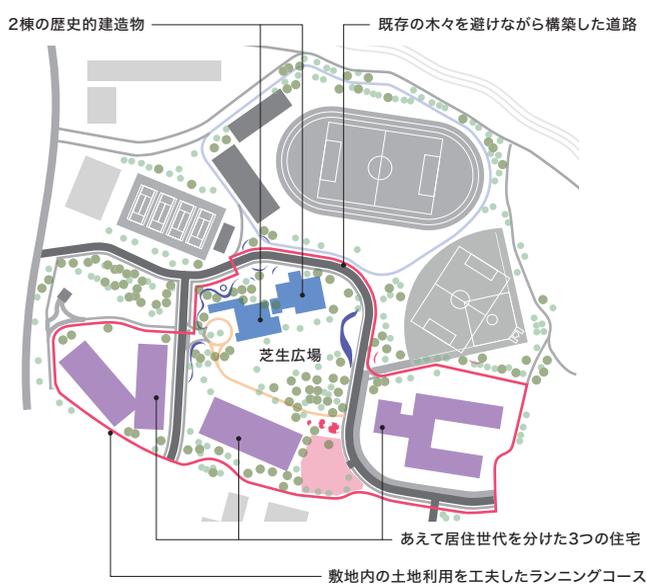
この地に培われてきたスポーツ施設・森・歴史的建造物2棟は、かけがえのない資源であり、それらを活用することが何にも代えがたい体験価値を生み出すと考え、多世代の住民が豊かに交流しながら健康的に暮らし続けられるまちづくりを行いました。（内藤）



既存の緑が多く残る芝生広場



まちのエントランスサイン



あえて居住世代を分けた3つの住宅
敷地内の土地利用を工夫したランニングコース

森を形成する木々を避け構築した
道路とランニングコース

今回の計画の特徴は曲線を多用した道路です。本敷地は、接道が限定されていたため、その有効利用にあたっては、まず、都市計画法にもとづく開発行為により道路を整備する必要がありました。

もともと本敷地内には、昭和44年に策定された格子状の予定道路線が計画されていましたが、開発区域外の道路との接続、各予定建築物等の敷地への接道確保しつつ、森と地形とに合わせて緩い屈曲をもたせた道路線形に変更する案について、開発計画部の協力のもと、行政との協議を重ねました。地域にとってよりよいまちづくりを目指す姿勢が理解された結果、計画を変更することができました。

また、主に道路、公園沿いの民有地内に、公共施設ではないものの常時一般に開放されている歩行者専用通路を整備し、本敷地内を一周するランニングコースとして利用できるように計画しています。

結果として残る平坦地を不動産事業（敷地の賃貸・分譲）に充て、あえて世代の違う住居を誘致することで、多世代が集い、ダイバーシティのある、次世代を育てるクリエイティブなまちを構築しています。（内藤）



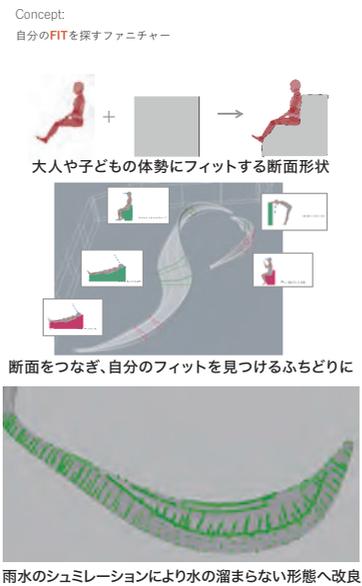
全景を上空から望む



敷地内を一周できる森の中のランニングコース



森の縁に設けた「ふちどり」



Concept:
自分のFITを探すファニチャー
大人や子どもの体勢にフィットする断面形状
断面をつなぎ、自分のフィットを見つけるふちどりに
雨水のシミュレーションにより水の溜まらない形態へ改良



木フェンス
木フェンスの手入れを通じた地域との交流イベントのイメージ

森を守り、人をつなぐ 「ふちどり」

住民の方や地域とのつながりを生むきっかけとなること、ただ森が近くにあるだけでなく、人も森も大切にしたい。二者のポジティブな関係が生まれること、この二つがランドスケープをまとめていく上で重要だと考えていたポイントです。

そのために森と道の境界である「縁—ふち—」を起点として、その場所のキャラクターを想定し日常生活の中で利用し続けられる多彩な居場所づくりを行いました。

「ふちどり」は森と道の境界に設けられています。歩道を広げるようにして木々の間に小さなスペースを作り、ふちどりに腰掛けたり、寝転んで木々を見上げたり、木陰で思い思いの時間を過ごすことができます。森のふちに設けたふちどりが、もともとあった豊かな木々を守るだけでなく、森と道をつなぎ、地域の方々のつながりが生まれるきっかけになれば、という思いで計画しました。

森のふちに点在するふちどりは、大人や子どもの体勢にフィットする形をしていて、それらの姿勢を曲面でつないで作られています。このアイデアは、ふちどりの形態について議論していた際にDDCの竹内さんから出たものです。ふちどりの持つ意味が増し、多世代が森の中の運動を通して交流するきっかけになるという点で、ふちどりにぴったりの考え方でした。その後も実現に向けた雨水シミュレーション等、DDCにサポートしてもらいながら実現することができました。

手入れが必要な木製フェンス

視線のコントロールが必要な場所には、木製のフェンスを採用しました。木を使うことで一般的な金属製のものよりも手入れが必要となりますが、木部のメンテナンスを通して、木材の継続利用やメンテナンスに参加される方々の交流を深めていただけるという良い点もあります。自然の木がもつバラつきを活かし、また流通している標準寸法で製作することで、極力シンプルな構成として更新のしやすいデザインとなっています。(南野)

コミュニティスペースとしての 歴史的建造物2棟

2棟の歴史的建造物は、まちのための施設として改修を行いました。まちの中心にある光風亭(旧馬場邸)は、コミュニティの中心としても機能するように、コミュニティスペースとして設えました。蒼梧記念館は、そのハナレとして、第1生命の重要な施設としての位置づけとともに、まちの方が利用できるように設えています。

当時の趣をそのまま残すことが、新築では得られない体験価値を生み、それがOOL向上につながることを考え、保存することに決定しました。当時の資料を読み解き、当時の設計の意図に鑑みて改修を行いました。また、改修工事のプロセス自体も、まちに暮らす子どもたちへの教育材料になりうると考え、イベント等において子どもたちを中心に施設案内活動を行いました。改修を終えた今も、案内を続けています。

蒼梧記念館の外構計画には、本敷地内に点在していた景石、灯籠、敷石類を再配置することで日本庭園を構築しました。

蒼梧記念館の前庭の南面にはOS-GARDENの中心となる芝生広場が続いており、多様なひとびとに開かれる場所となるよう、前庭外周には外柵を巡らせないで、植物が繁茂した低い土塁を形成することにより、芝生広場と前庭が相互に視線が続くようデザインしています。(圓三)

未来へ受け継がれる森へ

本プロジェクトには、多くの方に参加していただきました。多くの関係者の皆様との継続的な議論を通して、このまちへの思いを共有でき、まちのはじまりに携わらせていただきとても光栄でした。これからもOS-GARDENを応援するサポーターとして、このまちで世代を超えてつながりが生まれ、生き生きとしたOS-GARDENが受け継がれていくことを願っています。(関係者2回)



コミュニティスペースとして活用する光風亭



蒼梧記念館(第一生命創業者 矢野邸)



応接室



前庭



仮囲いを利用し、小学生の作品を展示した“まちのてらんかい”

改修工事中も地域住民を招いて見学会を実施

流通経済大学付属柏中学校 図書・メディア棟、中学校1号館

建築主：学校法人日通学園
主要用途：中学校・高等学校
意匠設計：石原 政幸・若杉 晋吾・永野 仁志・釜谷 潤・翼 祐一
構造設計：小林 俊樹・木村 誠・山本 康弘・猪瀬 活人・小里 謙一・宇都宮 尊史・川崎 友也・渡部 真夕子
設備設計：山崎 ひとみ・原田 千聡
電気設計：澤田 彰・谷川 航太
敷地面積：39,745.76㎡
延床面積：1,443.15㎡(図書・メディア棟)・1,007.08㎡(中学校1号館)
延床面積：2,849.62㎡(図書・メディア棟)・3,785.11㎡(中学校1号館)
構造：RC造(一部S・木造)(図書・メディア棟)・RC造(一部S造)(中学校1号館)
規模：地上3階(図書・メディア棟)・地上4階(中学校1号館)
竣工年：2022年
所在地：千葉県柏市十余二 1-20



TIAD, オートグラフ コレクション

建築主：株式会社日本セレモニー
主要用途：ホテル・集会場
意匠設計：石谷 興行・井上 直・武藤 真理子・村田 知謙
構造設計：小嶋 一輝
設備設計：吉丸 慶史・吉田 健一
電気設計：吉田 正晴
内装設計：A.N.D.・株式会社乃村工務社 中部支店
照明設計：Tino Kwan Lighting Consultants, ltd.
敷地面積：2,350.17㎡
延床面積：2,111.28㎡
延床面積：21,552.40㎡
構造：S造(一部RC造)
規模：地上14階・地下1階
竣工年：2023年
所在地：愛知県名古屋市中区栄5丁目15番19号



パークコート 神宮北参道 ザタワー

建築主：三井不動産レジデンシャル株式会社
主要用途：共同住宅・保育所・飲食店
意匠設計：中村 徹・日比野加奈・小野島 新・新谷 佑磨・釜谷 夏実
構造設計：濱 智貴・齋藤 祐哉・佐々木 由美・宮倉 周平・山岡 拓貴
設備設計：早田 真由美
電気設計：野村 義明・森谷 真帆
デザイン監修：株式会社ホシノアキテック
敷地面積：4,837.13㎡
延床面積：2,407.65㎡
延床面積：55,655.00㎡
構造：RC造
規模：地上7階・地下1階・塔屋1階
竣工年：2023年
所在地：東京都渋谷区千駄ヶ谷4丁目6-8



神宮前二丁目PJ

建築主：株式会社レーサム
主要用途：事務所
意匠設計：今井 宏・加登 剛司・天利 竹宏・谷津 健志
構造設計：浅見 達郎・津曲 敬・下藤田 聡太・岡 遼悟
設備設計：高橋 満博・津坂 剛男・福垣 大裕
電気設計：菅 裕之
敷地面積：2,295.03㎡
建築面積：1,960.97㎡
延床面積：8,018.48㎡
構造：RC造・S造・SRC造
規模：地上6階・地下1階
竣工年：2023年
所在地：東京都渋谷区神宮前二丁目31-11



MA5

建築主：合同会社バンサー
主要用途：事務所・物販店舗
意匠設計：永石 貴義・向山 佳穂・竹森 健人
構造設計：黒河 英明・奥 浩・土山 忍・谷上 豪・大橋 一智・佐野 穂高
設備設計：佐藤 啓明・大倉 実紗
電気設計：田邊 美弥・高橋 涉
デザイン監修：株式会社ホシノアキテック
敷地面積：1,188.77㎡
建築面積：746.81㎡
延床面積：7,044.71㎡
構造：S造(一部柱CFT造)
規模：地上12階・塔屋1階
竣工年：2022年
所在地：東京都港区南青山5-6-19



三愛会総合病院

建築主：医療法人三愛会
主要用途：病院
意匠設計：榎本 和人・大森 奈津子・釜谷 夏実
構造設計：日吉 良昭・小川 光陽
設備設計：町田 晃一・中上 裕仁・吉野 優美子
意匠設計：磯和 孝史・松田 将太
構造設計：福築 秀晃
設備設計：杉浦 亜由美
電気設計：山田 雄太
敷地面積：9,646.32㎡
建築面積：6,649.00㎡
延床面積：6,264.21㎡
構造：S造
規模：地上7階・塔屋1階
竣工年：2022年
所在地：埼玉県三郷市彦成2-3-342



花王すみだ事業場 東棟

建築主：花王株式会社
主要用途：事務所・スポーツ練習場
意匠設計：岡崎 亜都夫・白川 あゆみ
構造設計：横口 真一
設備設計：杉浦 亜由美
電気設計：藤野 幸人・岡 彰史
敷地面積：3,235.60㎡
建築面積：1,030.29㎡
延床面積：965.53㎡
構造：RC造
規模：地上1階
竣工年：2022年
所在地：岐阜県大垣市大井3丁目21-9



MIZKAN MIRAI LABO

建築主：株式会社中群野店
主要用途：工場
意匠設計：磯和 孝史・松田 将太
構造設計：福築 秀晃
設備設計：杉浦 亜由美
電気設計：山田 雄太
敷地面積：8,646.32㎡
建築面積：6,649.00㎡
延床面積：6,264.21㎡
構造：S造
規模：地上2階
竣工年：2022年
所在地：愛知県半田市新栄町1-1



一般財団法人 岐阜健康管理センター 大垣健診プラザ

建築主：一般財団法人 岐阜健康管理センター
主要用途：診療所(健診センター)
意匠設計：岡崎 亜都夫・白川 あゆみ
構造設計：横口 真一
設備設計：杉浦 亜由美
電気設計：藤野 幸人・岡 彰史
敷地面積：3,235.60㎡
建築面積：1,030.29㎡
延床面積：965.53㎡
構造：RC造
規模：地上1階
竣工年：2022年
所在地：岐阜県大垣市大井3丁目21-9



名古屋ビルディング桜館

建築主：名古屋ビルディング株式会社
主要用途：事務所
意匠設計：祖父江 司・谷 堯洋
構造設計：福築 秀晃
設備設計：杉浦 亜由美
電気設計：吉田 正晴
基本設計：株式会社日建設計
ランドスケープデザイン：アールフォー・デザインオフィス 鈴木 葉菜子
敷地面積：1,274.59㎡
建築面積：922.74㎡
延床面積：1,1315.20㎡
構造：S造(一部SRC造)
規模：地上2階
竣工年：2022年
所在地：愛知県名古屋市中区区名駅4丁目2-25



京都信用金庫 北山支店

建築主：京都信用金庫
主要用途：銀行店舗
意匠設計：相良 俊男・井坂 恵美子
構造設計：田浦 史彬
設備設計：大和 真
電気設計：藤波 智里
什器レイアウト：株式会社クマヒラ
敷地面積：1,030.29㎡
建築面積：566.84㎡
延床面積：566.84㎡
構造：RC造(一部S造)
規模：地上1階
竣工年：2023年
所在地：京都府京都市北区上賀茂岩ヶ垣町105



ダイオロジスティクス 新本社

建築主：ダイオロジスティクス株式会社
主要用途：事務所
意匠設計：寺川 喬・村上 友理子
構造設計：石飛 英輝
電気設計：松尾 征・藤田 涉
電気設計：岡内 宏規
敷地面積：14,109.53㎡
建築面積：2,267.83㎡
延床面積：2,024.49㎡
構造：S造
規模：地上2階
竣工年：2022年
所在地：愛媛県四国中央市中之庄1695



四条烏丸セントラルビル

建築主：株式会社レーサム
主要用途：事務所
意匠設計：加地 則之・田淵 英二・木下 和之
構造設計：田浦 史彬
設備設計：大和 真
電気設計：藤波 智里
敷地面積：387.63㎡
建築面積：1,030.29㎡
延床面積：2,830.54㎡
構造：S造
規模：地上9階
竣工年：2023年
所在地：京都府京都市下京区立売西町68番2他



パームコートサービスアパートメントショーギャラリー

建築主：PT. BIMA SARANA PERKASA
主要用途：マンションのモデルルーム
意匠設計：米田 雄毅・Candra Kusuma・Vania Alisha
構造設計：寺川 喬・齋藤 夏紀
設備設計：金坂 真哉・Dwi Yuniar Nurrrachmat
電気設計：松尾 征・Agus Suyoto
インテリアデザイン：HBA Indonesia・AEDI Interior Design Bureau
敷地面積：4,261.14㎡(プロジェクト敷地)・約2,500㎡(モデルルーム敷地)
建築面積：2,267.83㎡
延床面積：8,399.47㎡
構造：S造
規模：地上2階(増築部分)
竣工年：2023年
所在地：富山県富山市高内365番地



久原本家食品 北海道工場

建築主：株式会社久原本家食品
主要用途：食品工場
意匠設計：山田 航司・宮崎 俊亮・三上 哲也
構造設計：後藤 延明・藤嶋 健太
設備設計：今井田 尚文
電気設計：江田 正志・成田 剣太
敷地面積：60,028.48㎡
建築面積：6,003.48㎡
延床面積：5,978.73㎡
構造：S造
規模：地上1階
竣工年：2022年
所在地：北海道恵庭市戸磯2006-1



栃内病院

建築主：医療法人巖桜会 栃内病院
主要用途：病院
意匠設計：進藤 正人
構造設計：中村 大樹
設備設計：成田 政社
電気設計：金川 滋裕
事業計画：深谷 康生
敷地面積：8,523.07㎡
建築面積：1,483.28㎡
延床面積：5,771.75㎡
構造：RC造(一部S造)・免震構造
規模：地上5階
竣工年：2023年
所在地：岩手県盛岡市西仙北一丁目15番7号



昭和産業株式会社上ノ山穂坂工場プロジェクト

建築主：昭和産業株式会社
主要用途：工場
意匠設計：渡邊 桜子・松田 大
構造設計：清水 善規
設備設計：水井 勇介
電気設計：中村 雅樹
敷地面積：5,275.86㎡
建築面積：1,797.99㎡
延床面積：3,415.99㎡
構造：S造
規模：地上2階
竣工年：2022年
所在地：山梨県韮崎市上ノ山穂坂町宮久保1178-2



広島修道大学ひろしま協創中学校

建築主：学校法人 修道学園、広島修道大学 ひろしま協創中学校、高等学校
主要用途：学校
意匠設計：河野 亮太
構造設計：山石 健司
設備設計：越戸 美春
電気設計：伊藤 祐一
敷地面積：33,255.93㎡
建築面積：801.44㎡
延床面積：1,772.32㎡
構造：RC造
規模：地上3階
竣工年：2021年
所在地：広島県広島市西区井口4丁目6-18



JR鹿児島中央ビル AMU WE

建築主：九州旅客鉄道株式会社
主要用途：駅舎(事務所・物販店舗・クリニック・駐車場)
意匠設計：豊岐 良二・小倉 美
構造設計：藤井 雅之
設備設計：河西 昌隆・小林 達一
電気設計：小西 優斗
敷地面積：6,485.07㎡
建築面積：4,176.10㎡
延床面積：11,797.99㎡
構造：S造(一部SRC造)
規模：地上11階
竣工年：2023年
設計：環境デザイン研究所・清水建設・久慈設計設計共同企業体
所在地：鹿児島県鹿児島市武一丁目2番10号



コマツ湘南工場 開発棟

建築主：コマツ(登記社名：株式会社小松製作所)
主要用途：事務所・銀行店舗
意匠設計：中野 舞・朱 純輝
インテリアデザイン：フィールドフォー・デザインオフィス 赤澤 知也
構造設計：佐藤 彰
設備設計：中本 俊一
電気設計：馬込 仁総
コンピュータショナルデザイン：深町 駿平
ワークプレイス：田中 厚三・北野 博宣
インテリアデザイン：フィールドフォー・デザインオフィス 赤澤 知也
敷地面積：39,531.84㎡
建築面積：2,420.00㎡
延床面積：10,483.95㎡
構造：S造
規模：地上5階・塔屋1階
竣工年：2023年
所在地：神奈川県平塚市四之宮3丁目25-1



いわて盛岡ボールパーク

発注者：盛岡市
建築主：盛岡南ボールパーク株式会社
主要用途：観戦場(野球場)、スポーツ練習場(屋内練習場)
意匠設計：長瀬 博・水口 剛・鈴木 康二朗・永野 仁志・倉藤 義之・吉田 祐二・松本 慎司
構造設計：西谷 隆之・西川 航太・宇都宮 晋史
設備設計：小泉 弘・山崎 ひとみ・河西 昌隆
電気設計：中澤 公彦・澤田 彰
設計：環境デザイン研究所・清水建設・久慈設計設計共同企業体
敷地面積：89,676.07㎡
建築面積：12,790.57㎡
延床面積：20,910.19㎡
構造：S造
規模：地上3階
竣工年：2023年
所在地：岩手県盛岡市永井7地割16番地2



TDテラス宇都宮

建築主：第一生命保険株式会社、株式会社東邦銀行
主要用途：事務所・銀行店舗
意匠設計：笹嶋 慎・山下 藤太郎
構造設計：木内 佑輔・佐藤 浩太郎・西田 愛
設備設計：増田 奈保子・前沖 光彦
電気設計：成田 剣太・加賀 翼
敷地面積：2,056.91㎡
建築面積：634.70㎡
延床面積：2,447.73㎡
構造：RC造(一部木造)
規模：地上3階・塔屋1階
竣工年：2022年
所在地：栃木県宇都宮市京町1-29



海雲山 皓台寺 伽藍再建

建築主：宗教学院皓台寺
主要用途：寺院、幼稚園
意匠設計：青木 裕一・池内 匠
構造設計：木村 誠・服部 勇樹・渡部 真夕子
設備設計：森田 英樹・飯田 太朗
電気設計：野村 義明
敷地面積：12,954.86㎡
建築面積：1,274.28㎡
延床面積：1,607.65㎡
構造：木造(一部RC造)
規模：地上1階・地下1階
竣工年：2023年
所在地：長崎県長崎市寺町1-1



岡山大学 共育共創コモンズ(OUX: オークス)

建築主：国立大学法人岡山大学
主要用途：大学
意匠設計：堀場 万穂夫・長澤 伶
構造設計：木村 誠・沼田 陽輔・渡部 真夕子
設備設計：水原 一樹・並原 真紀子・岡笠 絃子
電気設計：前田 聡・村上 孝幸・遊谷 明広
監修(基本計画を含む)：隈 研吾(岡山大学特別招聘教授)
敷地面積：275,869.00㎡
建築面積：626.82㎡
延床面積：824.51㎡
構造：木造(CLT/パネル工法)
規模：地上2階
竣工年：2023年
所在地：岡山県岡山市北区津島中3-1-1



博多 FD ビジネスセンター

建築主：福岡地所株式会社、第一生命保険株式会社
主要用途：事務所・飲食店舗・自動車車庫
意匠設計：藤田 淳行・登坂 剛寛
構造設計：駒山 洋平
電気設計：森合 真樹
デザイン：アキタ、シムミット、ハマー、ラッセン、アーキテツク
基本設計：株式会社久米設計
照明デザイン：Lighting Planners Associates
サインデザイン：LUMA
敷地面積：2,858.15㎡
建築面積：2,094.75㎡
延床面積：21,786.37㎡
構造：CFT造(一部S造)
規模：地上12階・塔屋1階
竣工年：2023年
所在地：福岡県福岡市博多区網場町2番1号



目黒清掃工場

建築主：東京二十三区清掃一部事務組合
主要用途：清掃工場
意匠設計：山田 徹・朴 敬熙・加藤 ひかる・向山 佳穂・菊田 大典
構造設計：久米 建一・安藤 佳奈
設備設計：深野 純一
電気設計：前田 聡・村上 孝幸・遊谷 明広
ランドスケープデザイン：フィールドフォー・デザインオフィス 渡辺 高史・北島 暢哉
プリント工事：JFE エンジニアリング株式会社
敷地面積：29,760.30㎡
建築面積：14,124.37㎡
延床面積：35,677.01㎡
構造：SRC造(一部RC・S造)
規模：地上5階・地下3階
竣工年：2023年
所在地：東京都目黒区三田二丁目19番43号



ヒルトン長崎

建築主：M&H長崎ホテル合同会社
主要用途：ホテル
意匠設計：加藤 栄一郎・福西 泰博
構造設計：藤羽 直樹・藤井 雅之
設備設計：施工：株式会社九電工
プロダクトマネジメント：株式会社山下PMC
インテリアデザイン：有原会社久米設計
照明デザイン：ICE 都市環境照明研究所
サインデザイン：株式会社日本子デザインセンター
厨房・ランドリー：株式会社ループコンサルティング
宴会場・チャペル音響照明：株式会社ホリテック
アートワーク：株式会社編絵
敷地面積：20,622.00㎡
建築面積：2,818.91㎡
延床面積：19,654.93㎡
構造：S造
規模：地上11階・塔屋1階
竣工年：2021年
所在地：長崎県長崎市尾上町4-2



大熊町産業交流施設

建築主：大熊町
主要用途：事務所・展示場・自動車車庫
意匠設計：南野 友子・松井 遼
構造設計：久米 建一・安藤 佳奈
設備設計：津坂 剛明
電気設計：馬込 仁総
提案作成：新田 悦子・小竹 輝彰・船越 貴恵・久我 浩太郎
木質：長澤 伶
設計：清水建設・関、空間設計特定建設工事共同企業体
インテリアデザイン：フィールドフォー・デザインオフィス 代田 哲也・坂口 深
敷地面積：8,126.48㎡
建築面積：4,287.07㎡
延床面積：10,298.70㎡
構造：S造
規模：地上3階
竣工年：2024年(予定)
所在地：福島県双葉郡大熊町大字下野上野大野124-1他

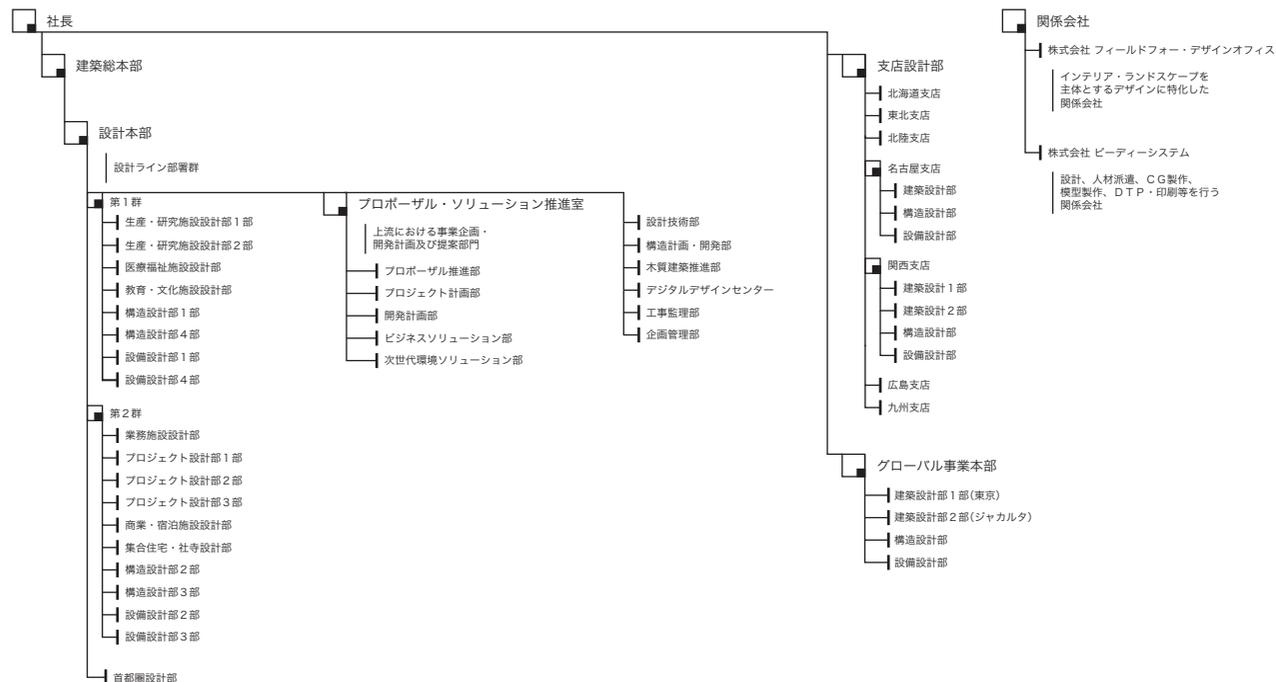


世田谷キューズガーデン

建築主：第一生命保険株式会社
主要用途：まちづくり
意匠設計：内藤 純・南野 友子・奥 浩・大橋 一智・水島 一彦・竹内 萌・高岸 裕・深町 駿平・下藤太郎・團山 雄太郎・永山 晃平・鈴木 拓典・佐々木 直人・安田 諭史
構造設計：小林 俊樹・今井 克彦・伊藤 務・藤井 雅之・熊王 皓一
設備設計：中本 俊一・金田 生
電気設計：尾澤 洋光・成田 剣太・田邊 美弥・高橋 涉
都市計画：土田 冨恵子
ランドスケープデザイン：フィールドフォー・デザインオフィス 渡辺 高史・周 予穹・大山 奈津美
敷地面積：89,366.66㎡
建築面積：—
延床面積：—
構造：—
規模：—
竣工年：2023年
所在地：東京都世田谷区給田1-1-1他



全国設計・プロポーザル系組織図 (2023.4月現在)



発行日 2023年10月
 編集・発行 清水建設株式会社
 /設計本部
 〒104-8370 中央区京橋2-16-1
 03-3561-1111(代)
 編集事務局 設計本部
 企画管理部
 印刷 (株)ビーディーシステム
 年1回発行予定

非売品

委員長 大柳 聡
 副委員長 長澤 怜
 副委員長 樋口 咲子

秋田 湧大
 増田 湧志
 吉田 聖
 紺世 裕子
 松島 寧々
 富安 達朗
 武藤真理子
 田主 望
 中谷 行宏
 陳 淡立
 梨本 優也
 山口 真吾
 塩澤菜由子
 成田 剣太
 宮倉 周平
 高倉 正幸
 永島 明典
 吉井 美香
 西村 健
 つく田将紀
 甘粕 裕明
 今津 文沙

事務局 黒田 健一

stream DEW

「潮流=ストリーム(stream)の源流は雫(DEW)にある」。
 「個々人の創造性発露が社員相互の啓発・情報共有の源であり、
 それが大きな流れとなる」という意味をこめて、2007年に命名。

stream 2023

DEW

